SL

取扱説明書

マーク

この取扱説明書では、以下のマークを使用しています。

⚠ **警告**

警告項目は、お客様ご自身やお車に同乗の方々の健康や生命をおびやかすような危険への注意を喚起するものです。

環境に関する注意

環境に関する注意は、環境を意識した行動や廃棄についての情報を提供しています。

! 車両の損傷につながる危険を喚起する、機材の損傷に関する注意です。

ℹ このマークは、お客様の助けになるような、便利な操作方法や詳細情報を示しています。

▶	このマークは、お客様に従っていただきたい操作を示しています。
▶	連続しているマークは、いくつかのステップがある操作を示しています。
(▷ ページ)	このマークは、項目についての詳細情報がある場所を示しています。
▷▷	このマークは次のページに続く警告または操作を示しています。
画面設定	この表記は、マルチファンクションディスプレイ / COMAND ディスプレイのメッセージを示しています。
	このマークは、デジタル版取扱説明書に説明があることを示しています。

メルセデス・ベンツ車をお買い上げいただきありがとうございます。

運転される前に、この取扱説明書をお読みいただき、特に安全面と警告事項についてのご理解を深めてください。お客様自身と周りの人々を危険から守り、お車を最大限に楽しんでいただくことができます。

便利な機能の追加情報は COMAND Online の中の車両のデジタル版取扱説明書に記載されています。

お客様の車両の装備や名称はオプションや仕様により異なる場合があります。

この取扱説明書のイラストは主に左ハンドル車のものを使用しています。 右ハンドル車では、車両の部品の配置や位置、そして操作方法が異なる場合がありますので、ご注意ください。

100 km/h 以上の車両の速度での性能に関するデータおよび車両の状態が取扱説明書に記載されています。ただし、公道を走行するときは常に、その場所で適用される法定速度または制限速度を遵守してください。

メルセデス・ベンツは車両を最先端にする改良を絶えず行なっています。

そのため、デザイン、装備などが予告なく変更されることがあり、 この取扱説明書に含まれる記述やイラストと異なる場合があります。

以下のものは、車両の一部ですので、 常に車両に搭載してください。

- デジタル版取扱説明書
- 取扱説明書
- 整備手帳
- 装備付属の補足版

また次のオーナーに車両をお譲りになる場合は、必ずすべてをお渡しください。

Daimler AG の技術文献チームはお客様が安全で快適な運転をされることを望んでいます。

メルセデス・ベンツ日本株式会社

2315842471

あ

か

さ

た

な

は

ま

わ

英字

概要

印刷版取扱説明書の他に、ブックケースには以下の取扱説明書が含まれています。

- デジタル版取扱説明書の CD
- 整備手帳
- 装備付属の補足版

印刷版取扱説明書は、選択された車両の機能に関する情報を提供しています。

また、COMAND システムを使用してデジタル版取扱説明書にアクセスしてもご利用になれます。印刷版取扱説明書に記載されていないご質問がある場合は、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

ℹ デジタル版取扱説明書のご利用に当たり、お客様には一切費用はかかりません。呼び出しはインターネットに接続せずに行なわれます。

以下の項目に詳しい情報が記載されています：

- COMAND システムへのデジタル版取扱説明書のインストール方法 (▷ 20 ページ)
- デジタル版取扱説明書のアクセスおよび操作方法
- 基本メニューからのさまざまなアクセス方法

デジタル版取扱説明書の基本メニューからのアクセスには、以下の 3 つの方法があります。

- イメージ検索
- キーワード検索
- 目次

インストール

デジタル版取扱説明書がすでにインストールされているかどうかを確認してください。そのためには、以下のようにして COMAND システム経由でデジタル版取扱説明書を呼び出します。

▶ COMAND コントローラーを使用して、COMAND ディスプレイのメニューバーからアイコン 🌐 を選択し、押して 確定します。

▶ "取扱説明書"を選択し確定します 。

2 つの可能性があります。

1. デジタル版取扱説明書がインストールされています。デジタル版取扱説明書の基本メニューが開きます。

2. デジタル版取扱説明書がインストールされていません。以下のメッセージが表示されます：取扱説明書はインストールされていません。対応するディスクを入れてください。

デジタル版取扱説明書がまだインストールされていない場合は、ご自身でインストールするオプションがあります。必要なインストール用 CD はブックケースに入っています。

インストール処理の時間は異なることがあります。

インストール処理には約 5 分 かかります。この時間の長さは、車両が停止していて、COMAND システムの他の機能を使用していない間にデジタル版取扱説明書をインストールする場合にのみ当てはまります。インストール処理の時間は、そのときにナビや電話機能のような COMAND システムの他の機能を使用していると増加することがあります。

インストール中に何か問題が生じた場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

▶ **デジタル版取扱説明書をインストールする：** 車両を安全に停止し、道路と交通状況に注意してください。

▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします。

▶ COMAND システムをオンにします。

▶ インストール用 CD を CD / DVD ドライブに挿入します。

▶ COMAND ディスプレイのインストール手順に従います。

ℹ チェックに失敗すると、例えば この取扱説明書ディスクは本システムには対応していません。ディスクを取り出します。 というメッセージが表示されます。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

P82.87-8534-31

▶ **インストールが完了した場合：** COMAND コントローラーを使用して、インストール用 CD の取り出しを確定します。

ℹ **インストールのキャンセル：** インストール処理中にデジタル版取扱説明書のインストールをキャンセルできます。 後でインストールを続行することができます。

インストールの継続：インストール CD を CD/DVD ドライブに再度挿入し、上記に記載されているようにインストールの説明に従ってください。

操作上の注意

デジタル版取扱説明書の呼び出し

▶ COMAND システムのコントロールノブ ON を押します。
COMAND システムがオンになります。以前選択したメニューが警告メッセージの後に表示されます。

▶ COMAND コントローラーを使用して、メニューバーのアイコンを選択し 🌐 、確定します 。

▶ "取扱説明書"のページを選択して、 で確定してください。
デジタル版取扱説明書の基本メニューが開きます。

イメージ検索

イメージ検索により、車両を"システム上で"調べることができます。車両のエクステリアあるいはインテリアの図のいずれかから開始し、取扱説明書に記載されているさまざまなトピックにアクセスすることができます。インテリア項目にアクセスするには、項目さくいんページの"インテリア"を選択してください。

P82.87-8401-31

① トピックバー

② 選択した項目さくいん

③ 作動している車両構成部品

▶ COMAND コントローラーを回して ⟲◎⟳ 、または、スライドして ←◎→、個別の車両構成部品を選択します。
個別の車両構成部品は、色で強調されます。1 つの図につき 1 個の車両構成部品のみが強調されます。

▶ 今選択されている項目を確定するには、COMAND コントローラーを押します ◉ 。

項目を選択した後、以下のいずれかが続いて表示されます。

• デジタル版取扱説明書の該当する項目に直接進みます。
• さらに詳細なさくいんが記載されたリストが開きます。COMAND コントローラーを使用して選択できます。
• イメージ検索の階層に下がります。検索はここで絞り込むことができます。COMAND コントローラー をまわして ⟲◎⟳ 、または、スライドして ←◎→ 赤で強調された個別の車両構成部品を選択します ③。

▶ **前回の画面に戻る：** COMAND コントローラー横の [⮌] スイッチを押します。
前のページが開きます。

キーワード検索

キーワード検索では、文字入力を使用してキーワード検索を行なうことができます。文字入力の詳しい説明は、"COMAND システム" のさくいん "ナビ - 文字入力（文字バー）"をご覧ください。

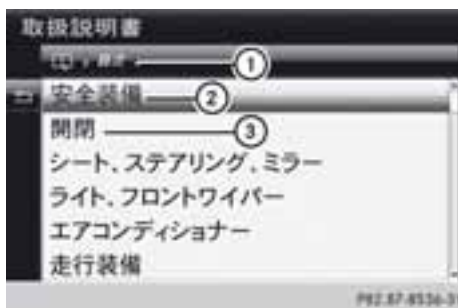
① 使用できるキーワードの選択リスト
② 文字バー
③ 戻る

▶ **キーワードを入力する：** COMAND コントローラーを回す ⟲◎⟳ またはスライドさせて ←◎→、文字を選択します。
COMAND コントローラーをスライドして ↑◎↓、文字バーの文字を変更します。

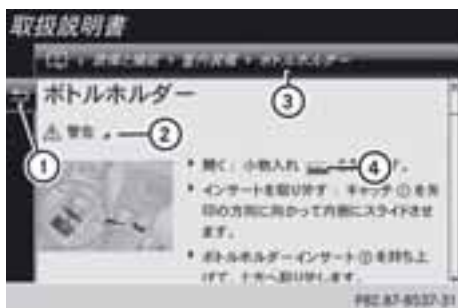
▶ 文字を確定するには、COMAND コントローラーを押します ◉ 。
選択リスト ① がフィルタにかけられます。

▶ COMAND システムが自動的に選択リスト ① にジャンプするまで、同様に文字を選択します。
代わりに、 OK を押して選択リスト ① を呼び出すことができます。

目次

目次には、トピックが印刷版取扱説明書と同じ順序で記載されています。項目を選択した後に、小項目を選択することができます。

① トピックバー
② 目次の中で今選択されている項目
③ 目次の中で今選択されていない項目

▶ COMAND コントローラーをまわすか ◀◎▶、またはスライドして ↑◎↓、希望する項目を選択します。
▶ 項目を確定するには、COMAND コントローラーを押します ◎ 。
さらに該当する小項目を含む選択リストが開きます。
▶ 該当する小項目を同じように選択します。

操作

① リターンマーク ⮌
② 非表示の警告
③ トピックバー
④ 続きの章へのリンク

▶ **目次ページ内をナビゲートする：** COMAND コントローラーを回す ◀◎▶ またはスライドして ↑◎↓、テキストを前後にスクロールします。
▶ **目次ページから移動する：** COMAND コントローラーを左に回して ←◎、⮌ スイッチ①を選択します。または、COMAND コントローラー横の ⮌ スイッチを押します。
前のページが開きます。

または

▶ COMAND コントローラーを回す ◀◎ またはスライドして ↑◎、目次ページの一番上までスクロールします。
▶ COMAND コントローラーを上方へスライドし ↑◎、トピックバー ③ を選択します。
▶ COMAND コントローラーを回すか ◀◎▶、スライドして ←◎→、希望の項目または小項目を選択します。◎ を押して確定します。
選択したトピックバーがすべての小項目を含めて開きます。
▶ **リンク ④ を選択する：** テキストをスクロールしているときに、リンクが自動的に強調されます。リンクを選択しているときは、COMAND コントローラーを押します ◎ 。
希望する目次のページが開きます。
▶ **警告、注意、環境関連の注意および故障情報を開く：** テキストをスクロールすると、カーソルが自動的に警告、環境情報や故障情報のドロップダウン表示にジャンプします。注意を選択した場合は、COMAND コントローラーを押します ◎ 。
警告、注意、環境関連の注意や故障情報は、同じページで開きます。

- **デジタル版取扱説明書を終了する：** COMAND コントローラー横の [⮌] スイッチを押します。
  ウインドウが開き、ブラウザーを終了するかたずねられます。
- "はい"で確定します。
  COMAND システム機能の概要が開きます。
- **COMAND 機能スイッチを使用してデジタル版取扱説明書から COMAND システムに機能を切り替える：** COMAND システムの [RADIO]、[TEL]、[DISC] または [NAVI] スイッチを押します。
  希望するメニューが開きます。
- **デジタル版取扱説明書に戻る：** COMAND コントローラーを使用して、メニューバーのアイコンを選択し 🌐 、押して確定します ◉ 。
  前回表示されていたデジタル版取扱説明書のページが開きます。

ℹ 安全上の理由から、"デジタル版取扱説明書"機能は、走行中はオフになります。

環境保護

全体的な注意事項

環境保護に関する注意

Daimler AG は、包括的な環境保護の一つとして対策を明確にしています。

それは、地球上で少しずつ使われ、自然と人間双方の要求に注意を促す、我々の存在の源となる自然資源のためです。

環境的に配慮のある方法で車両を操作することも、環境を保護する一助になります。

燃費やエンジン回転、トランスミッション、ブレーキ、タイヤの摩耗具合は、以下の要因に左右されます。

- お客様の車両の操作状況
- お客様の個人的な運転スタイル

お客様は、いずれの要因にも影響を及ぼしています。 以下のことにご留意ください。

操作状況

- 消費燃料が増えますので、短距離の走行は避けてください。
- タイヤの空気圧が常に適正であることを確認してください。
- 不要な重量物は積載しないでください。
- 車両の燃費に注意してください。
- 必要でない場合は、ルーフラックを取り外してください。
- 定期的な車両の整備は、環境保護に貢献します。 整備の間隔を守ってください。
- 点検整備は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

個人的な運転スタイル

- エンジンを始動する際は、アクセルペダルを踏まないでください。
- 車両を停止したままのエンジン暖機は行なわないでください。
- 注意して運転し、前方の車両との適切な距離を保持してください。
- 頻繁な、または急な加速は避けてください。
- 適切なタイミングでギアを変え、それぞれのギアの使用は、エンジン最高回転数の ⅔ までにとどめてください。
- 渋滞している時は、エンジンを停止してください。

製品情報

メルセデス・ベンツでは、車種ごとに承認されたメルセデス・ベンツ純正部品や交換部品、アクセサリーのご使用をお勧めしています。

メルセデス・ベンツでは、純正部品や変換部品、アクセサリーに対して、それらの信頼性や安全性、適合性が明確に車両に適しているかをテストしています。 メルセデス・ベンツでは、継続的に市場調査を行なっていますが、純正でない部品の使用を認めていません。 したがって、これらのメルセデス・ベンツ車への使用については、メルセデス・ベンツは責任は負いかねます。 独自に、または公的に承認されている部品であっても同様です。 承認されていない部品を使用すると、車両の操作安全性に影響を与えることがあります。

したがって、メルセデス・ベンツでは、車種ごとに承認されたメルセデス・ベンツ純正部品や交換部品、アクセサリーのご使用をお勧めしています。

メルセデス・ベンツ純正部品、承認された交換部品やアクセサリーはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。 ここでは、許可された技術的改造についての助言を受けたり、部品を専門的に装着することができます。

取扱説明書

全体的な注意事項

最初に車をご使用になる前に、本取扱説明書をお読みになり、車両についての理解を深めてください。

お客様ご自身の安全とより長い期間車両をご使用いただくために、本説明書の指示と警告に関する項目に従ってください。 それらに従わないと、車両を損傷したり、けがをするおそれがあります。

車両の装備

車両の標準およびオプション装備については、別添のさくいんをご覧ください。

装備や操作について不明点があるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

取扱説明書および整備手帳は重要な書類ですので、必ず車内に保管してください。

使用に関する安全

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

車両へのあらゆる作業、特に安全や安全に関連したシステムに関する作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ **警告**

いくつかの安全システムはエンジンがかかっているときにのみ機能します。そのため、走行しているときはエンジンを停止しないでください。車両の安全システムが適切に機能しなくなり、その結果、想定したようにお客様や他の方を保護できなくなります。さらに、車両のコントロールを失い、事故の原因になる危険性があります。

⚠ **警告**

不適切に行なわれた作業、またはカバー内のケーブルの再配線などの車両への変更は、車両の安全システムが適切に作動しなくなる原因になります。そして、安全システムは、想定したようにお客様や他の方を保護しなくなります。さらに、車両のコントロールを失い、事故の原因になる危険性があります。

装着や改造など、車両へのあらゆる作業や変更は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ **警告**

電気装備やそのソフトウェアへの作業が不適切に行なわれたときは、これらの装備が作動しなくなるおそれがあります。電気装備は、インタフェースを通じてネットワークされています。電気装備の変更は、改造を施していないシステムの誤作動の原因になります。これらの誤作動は、車両の安全な操作、さらにお客様自身の安全を著しく損なうおそれがあります。

電気構成部品へのあらゆる作業や改造は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

オンボードダイアグノシスインターフェース

⚠ **警告**

装備を診断機の接続部に接続すると、車両システムの操作に影響を与える場合があります。 これは走行中の車両の操作安全性に影響を及ぼすおそれがあります。事故の危険性があります。

いかなる装備品も診断機の接続部に接続しないでください。

⚠ **警告**

診断機の接続部に接続されている装備品やケーブルをゆるめると、ペダル付近の空間の邪魔になることがあります。 急ブレーキ時や急加速時に、装備品やケーブ

ルがブレーキペダルやアクセルペダルに引っかかるおそれがあり危険です。 ペダルの動作に影響をあたえるおそれがあります。 事故の危険性があります。

運転者の足元に装備品やケーブルを装着しないでください。

! エンジンが停止しているときに診断機の接続部の装備品を使用すると、スターターバッテリーが放電することがあります。

診断機の接続部は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で診断機器のみを接続するように想定されています。

診断機器を診断機の接続部に接続すると、例えば排出ガスモニター情報のリセットにつながります。 これにより、次回の主要な点検の際の排出ガス試験の要件に適合しなくなることにつながります。

日常点検および点検整備

お客様自身の責任において日常点検と定期検査を行なうことが法律で定められています。 それぞれの検査手順についての詳細情報は、整備手帳をご覧ください。

オートマチックトランスミッションの使用

全体的な注意事項

適切にご使用いただくために、オートマチックトランスミッションを使用する前に、特徴や操作に関連する事項についての理解を深めてください。

"走行および駐車"の指示もご覧ください。(▷ 125 ページ).

オートマチックトランスミッションの特徴

クリープ現象

エンジンがかかっていてトランスミッションがトランスミッションポジション D または R のときは、駆動輪に動力が伝達されています。 その結果、アクセルペダルを踏んでいなくても、車両が動き出します。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場

メルセデス・ベンツ指定サービス工場は、車両に必要なあらゆる作業の実施に適した、必要とされる専門的な知識や工具、資格を有しています。このことは特に安全性に関する作業に当てはまります。

整備手帳にある注意に従ってください。

以下の作業については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

- 安全性に関する作業
- 整備やメンテナンス作業
- 修理作業
- 改造、装着、交換
- 電子部品の作業

メルセデス・ベンツはメルセデス・ベンツ指定サービス工場をご利用いただくことをお勧めします。

車両に記憶されているデータ

車両に装備されている電子部品の番号はデータメモリーに記憶されています。

これらのデータメモリーは、以下に関する技術情報を一時的または恒常的に保存します：

- 車両の作動状態
- イベント
- 故障

この技術情報は、一般的に構成部品、モジュール、システムまたは環境の状態について記録します。

例えば、以下の通りです：

- システム構成部品の作動条件。 バッテリー液レベルなどを含みます。
- 車両および各車両構成部品からの状況メッセージ。 これには、ホイール回転数 / 速度、減速、横方向の加速度などを含みます。
- 重要なシステム構成部品の故障および異常。 これには、ライト、ブレーキなどを含みます。
- 特殊な走行状況での車両の反応。 これには、エアバッグの作動、スタビリティコントロールシステムの介入などを含みます。
- 環境条件。 これには、外気温度などを含みます。

このデータは以下の技術的なことにのみ使用されます：

- 故障や不具合の検知および改良の支援
- 車両機能の最適化

データを使用して、長距離走行に関する車両の動きをたどることはできません。

お客様の車両が整備を受けたときは、この技術情報がイベントおよび故障メモリーから読み出されます。

メンテナンスには以下が含まれます：

- 修理
- メンテナンス処理
- 保証請求
- 品質保証

この情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場の認定された従業員（メーカーを含む）が特別な診断機を使用して読み出します。 必要に応じて、詳細をそこで確認することができます。

故障が解決されたあと、情報は故障メモリーから消去されるか、絶えず上書きされます。

通常の車両操作で、サービスデータは他の情報と併せて個人情報となる可能性があり、該当機関への提出を求められる場合があります。

以下に例を示します：

- 事故レポート
- 車両の損傷
- 目撃者証言

さらに、お客様と契約により同意し追加した機能は、同様に独自の車両データを車両から取得することができます。 このような追加機能は、非常時の車両位置などを含んでいます。

著作権の情報

全体的な注意事項

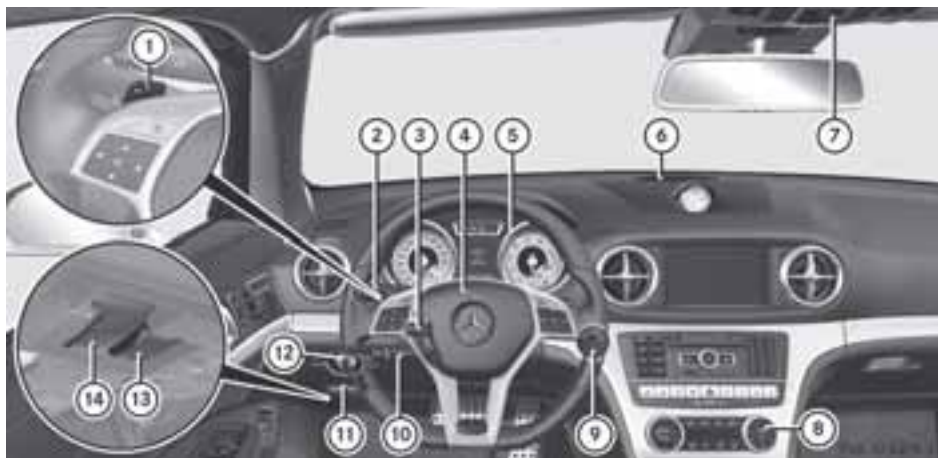
車両やその電子部品で使用されているフリーのオープンソースソフトウェアのライセンスの情報を以下のウェブサイトで見つけることができます。

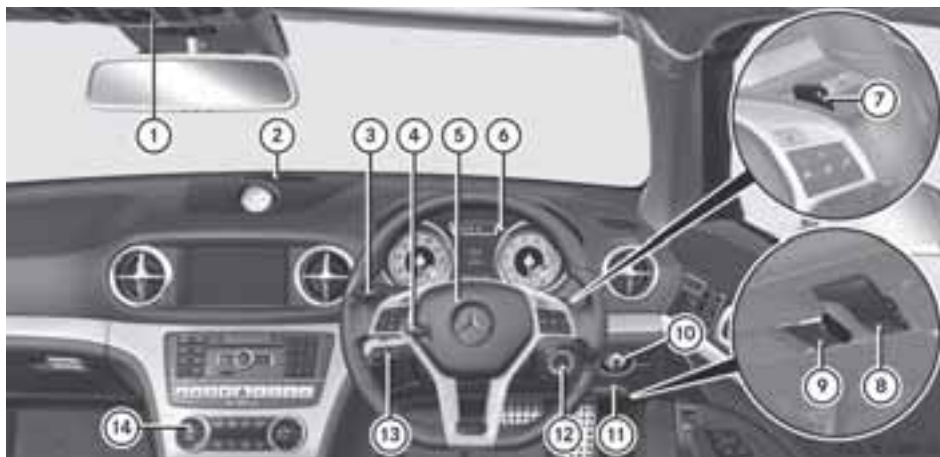
http://www.mercedes-benz.com/opensource

全体的な注意事項

⚠ **警告**

ライターを車内に放置しないでください。 気温が高くなると、車内の温度が急激に上昇することがあります。 これによりライターが爆発し、車両に引火するおそれがあります。

運転席

	機能	ページ
①	ステアリングパドルシフト	
②	コンビネーションスイッチ	106
③	電動調整式ステアリングの調整	
④	ホーン	
⑤	メーターパネル	32
⑥	パークトロニックインジケーター / 作動表示灯	146
⑦	ルーフオペレーティングユニット	38

	機能	ページ
⑧	エアコンディショナー	114
⑨	エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ	120 120
⑩	クルーズコントロールレバー	131
⑪	パーキングブレーキ	
⑫	ランプスイッチ	104
⑬	ボンネットを開く	215
⑭	オンボードダイアグノシスインターフェース	26

	機能	ページ
①	ルーフオペレーティングユニット	38
②	パークトロニックインジケーター / 作動表示灯	146
③	コンビネーションスイッチ	106
④	電動調整式ステアリングの調整	
⑤	ホーン	
⑥	メーターパネル	32
⑦	ステアリングパドルシフト	

	機能	ページ
⑧	オンボードダイアグノシスインターフェース	26
⑨	ボンネットを開く	215
⑩	ランプスイッチ	104
⑪	パーキングブレーキ	
⑫	エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ	120 120
⑬	クルーズコントロールレバー	131
⑭	エアコンディショナー	114

メーターパネル

ディスプレイおよび操作

	機能	ページ
①	セグメント付きスピードメーター	
②	燃料計	
③	タコメーター	

	機能	ページ
④	冷却水温度	
⑤	マルチファンクションディスプレイ	
⑥	メーターパネル照明	

警告灯と表示灯

	機能	ページ
①	ヘッドライト表示灯	
②	車幅灯（AMG 車）	
③	ESP®表示灯	180
④	ハイビームヘッドライト	
⑤	パーキングブレーキ警告灯（赤色）	
⑥	ブレーキ表示灯（黄色）	
⑦	車間距離警告灯	185
⑧	方向指示灯	
⑨	SRS 警告灯	183
⑩	シートベルト警告灯	176
⑪	SPORT ESP スポーツモード（AMG 仕様車）	181
⑫	冷却水警告灯	184
⑬	リアフォグランプ表示灯	
⑭	エンジン警告灯	
⑮	燃料残量警告灯	
⑯	ESP® オフ表示灯	180
⑰	ABS 警告灯	178
⑱	ブレーキ警告灯	177

マルチファンクションステアリング

	機能	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	
②	COMAND ディスプレイ	
③	音声認識のオン：別冊取扱説明書をご覧ください	
④	通話を拒否する、または終了する	
	電話帳 / 発信履歴を終了する	
	発信する、または受ける	
	リダイアルメモリーに切り替える	
	+ − 音量の調整	
	ミュート	

	機能	ページ
⑤	◀ ▶ メニューを選択する	
	▲ ▼ サブメニューの選択またはリストのスクロール	
	OK 選択を確定して、メッセージを非表示にする	
⑥	戻る	
	音声認識のオフ：別冊取扱説明書をご覧ください	

センターコンソール

センターコンソール、上部

	機能	ページ
①	COMAND システム	193
②	シートヒーター	101
③	シートベンチレーター	
④	エアスカーフ	
⑤	OFF P パークトロニック	146

	機能	ページ
⑥	非常点滅灯	
⑦	OFF 助手席エアバッグオフ表示灯	56
⑧	OFF ESP®（AMG 車以外） ECO スタート / ストップ機能（AMG 車）	65

センターコンソール、下部（AMG 車以外）

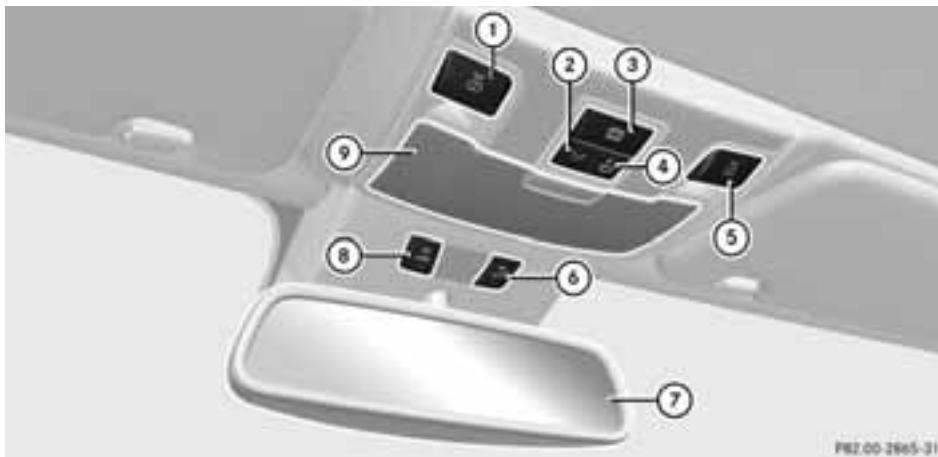
	機能	ページ
①	小物入れ カップホルダー 灰皿	
②	COMAND コントローラー	
③	シート調整	
④	お気に入りスイッチ	
⑤	ルーフスイッチ	
⑥	サイドウインドウを開閉する	
⑦	ドラフトストップを展開 / 収納する	94
⑧	小物入れ ライター 電源ソケット	
⑨	パーキングポジションを選択する	125

	機能	ページ
⑩	ECO エンジンスイッチ	
⑪	COMAND ディスプレイに走行状態のメニューを表示する（アクティブボディコントロール装備車）	144
⑫	車高調整	143
⑬	サスペンション設定を調整する サスペンション設定を調整する（アクティブボディコントロール装備車）	144
⑭	走行モード選択スイッチ / 走行モード選択ダイヤルを選択する	
⑮	シフトポジション	
⑯	セレクターレバー	125

センターコンソール、下部（AMG 車）

	機能	ページ
①	小物入れ カップホルダー 灰皿	
②	COMAND コントローラー	
③	シート調整	
④	お気に入りスイッチ	
⑤	ルーフスイッチ	
⑥	サイドウインドウを開閉する	
⑦	ドラフトストップを展開 / 収納する	94
⑧	小物入れ ライター 電源ソケット	

	機能	ページ
⑨	パーキングポジションを選択する	125
⑩	走行モード選択ダイヤル	
⑪	AMG スイッチ（走行モードまたはサスペンション設定の呼び出し / 記憶）	
⑫	サスペンション設定を調整する	145
⑬	OFF ESP®表示灯	65
⑭	シフトポジション	
⑮	セレクターレバー	125

ルーフオペレーティングユニット

	機能	ページ
①	左側読書灯点灯/消灯の切り替え	
②	ルームライト点灯/消灯の切り替え	
③	MAGIC SKY CONTROL の操作	95
④	ルームライト自動コントロールオン/オフの切り替え	

	機能	ページ
⑤	右側読書灯点灯/消灯の切り替え	
⑥	けん引防止機能の解除	72
⑦	ルームミラー	
⑧	室内センサーの解除	73
⑨	メガネケース	

ドア操作パネル

	機能	ページ
①	ドアレバー	
②	車両の施錠/解錠	
③	シートの調整	
④	M 1 2 3 シート、ドアミラーおよびステアリングの設定の保存（メモリー機能） 運転席ドア部の助手席シート調整スイッチ	
⑤	トランクリッドオープナー トランクリッド開閉	86 86
⑥	ドアミラーの電動調整および格納/展開	
⑦	サイドウインドウの開閉	

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 27 ページ)

乗員安全装備

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

整備作業が適切に行なわれていない場合は、車両の走行安全性が損なわれるおそれがあります。 その結果、車両のコントロールを失い、事故を起こす原因になります。また、安全装備が本来の機能を発揮しなくなり、運転者や同乗者を保護することができなくなるおそれがあります。

点検整備や修理などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

⚠ **警告**

乗員保護装置の以下の構成部品を改造したり、不適切な作業を行なわないでください。正常に作動しなくなったり誤作動し、傷害を負うおそれがあります。

- シートベルトとベルトアンカー、シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター、エアバッグを含む乗員保護装置
- 配線
- 車載ネットワークで接続された電子制御部品

不適切な作業を行なうと、衝突の際に車両の減速度がシステムを作動させるのに十分な高いレベルに達しても、エアバッグやシートベルトテンショナーが正常に作動しなくなったり、誤作動するおそれがあります。 決して乗員保護装置を改造しないでください。

また、決して車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。

シートベルトや SRS（乗員保護補助装置） は相互に補完し、連動して作動する乗員保護装置です。(▷ 43 ページ) これらは、想定される事故の状況において、乗員が負傷する危険性を軽減して安全性を高めます。 ただし、シートベルトとエアバッグは、物が外部から車内に入り込んだときの衝撃から乗員を保護する効果はありません。

乗員保護装置の機能を十分に発揮させるため、以下の点に注意してください。

- シートおよびヘッドレストが正しく調整されている(▷ 100 ページ)。
- シートベルトが正しく着用されている(▷ 51 ページ)。
- 作動する場合は、エアバッグは正しく膨張できる (▷ 44 ページ)。
- ステアリングが正しく調整されている(▷ 102 ページ)。
- 乗員保護装置を改造しないでください。

エアバッグは、シートベルトを着用した乗員の保護機能を高めます。 そのため、エアバッグはシートベルトの効果を補助する乗員保護装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。 車両にエアバッグが装備されていても、乗員全員が常に正しくシートベルトを着用する必要があります。 エアバッグは、あらゆる種類の事故で作動するわけではありません。 たとえば、エアバッグの作動が正しく着用したシートベルトの保護効果を高めると判断されない場合、エアバッグは作動しません。

エアバッグはシートベルトを正しく着用している場合にのみ、シートベルトの保護機能を高めることができます。1 つ目は、 第一に、シートベルトは車両の乗員をエアバッグに関連した最適な位置に留める補助をします。 第二に、正面衝突などの際に、シートベルトは衝撃の方向に車両の乗員が投げ出されることを防ぎます。

SRS（乗員保護補助装置）

概要

SRS は、以下のシステムで構成されています。

- SRS 警告灯
- エアバッグ
- クラッシュセンサー付きエアバッグコントロールユニット
- シートベルトテンショナー
- ベルトフォースリミッター

SRS は、事故の際に乗員が車室内の部品にぶつかる危険性を低減します。 また事故の際に乗員が受ける衝撃を緩和させます。

SRS 警告灯

⚠ **警告**

SRS に異常が発生すると、各システムが偶発的に作動したり、減速度が大きい事故が起きても正常に作動しなくなるおそれがあります。

以下のときは、異常が発生しています。

- エンジンスイッチをオンにしても SRS 警告灯 が点灯しないとき
- エンジンを始動して数秒間経過しても SRS 警告灯 が消灯しないとき
- エンジンをかけた状態で SRS 警告灯 が再び点灯するとき

このような場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で SRS の点検を受けてください。

メーターパネルの SRS 警告灯 は、イグニッションをオンにすると点灯します。 エンジンが始動した後、数秒以内に消灯します。

SRS の機能はエンジンの作動中に定期的に診断されています。 そのため、異常が発生するとただちに検出することができます。

シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター、エアバッグの作動

衝突の初期段階で、エアバッグコントロールユニットは、以下のような車両の減速度または加速度に関する重要な物理的データを判断します。

- 衝撃の作用した時間
- 衝撃の方向
- 衝撃の強さ

事前に得たデータの評価に基づいて、衝突時には、まず最初の段階でエアバッグコントロールユニットがシートベルトテンショナーを作動させます。

車両の縦方向の減速度または加速度がさらに大きくなると、フロントエアバッグも作動します。

車両には、衝撃の大きさに応じて展開力を 2 段階に制御するデュアルステージ式フロントエアバッグが装備されています。 エアバッグコントロールユニットは、衝突の際に車両の減速度または加速度を判断します。 第 1 段階では、フロントエアバッグは乗員の負傷を防ぐのに最適なガス圧で膨らみます。 数ミリ秒以内に第 2 段階の作動基準値に達すると、フロントエアバッグは最大限に膨らみます。

シートベルトテンショナーとエアバッグの作動基準値は、車両の減速度または加速度に応じて適切に設定されます。 このプロセスは事前に実行されます。 作動決定プロセスは、衝突の初期段階で早い時期に行なわれる必要があります。

車両の減速度や加速度、衝撃の方向は、基本的に以下の要素によって決まります。

- 衝突時の衝撃エネルギーの分散度
- 衝撃の角度
- 車体の変形状態
- 車両と衝突した物体の特性

衝突の発生後に検知される要素は、エアバッグの作動条件とは必ずしも一致しません。また、エアバッグを展開させる基準とはなりません。

衝突時にボンネットやフェンダーなど車体が著しく変形していながら、エアバッグが作動しない場合があります。 変形しやすい衝撃吸収部品のみが衝突の影響を受け、エアバッグを作動させるのに十分な減速度に達していない場合です。 反対に、車体の変形状態が軽度であってもエアバッグが作動することがあります。 縦方向のボディメンバーなど高剛性の部品が衝撃を受けたため車両の減速度が十分高いレベルに達した場合などです。

ℹ シートベルトテンショナーは、シートベルトのプレートが正しくバックルに差し込まれている場合にのみ作動させることができます。

ℹ 事故の際に、すべてのエアバッグが作動するわけではありません。 各エアバッグシステムは、それぞれ個別に作動します。

エアバッグシステムの作動条件は、事故の大きさ（特に車両の減速度または加速度）および以下のような衝突の形態に基づいて決まります。

- 正面衝突
- 側面衝突
- 後面衝突（追突）
- 横転や転覆

エアバッグ

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

エアバッグを確実に機能させるため、以下のエアバッグ格納部には、バッジ、ステッカーなどを取り付けないでください。

- ステアリングパッド部
- 助手席フロントエアバッグカバー
- ドアトリム
- シートバックレストの外側

⚠ **警告**

エアバッグは補助的な乗員保護装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。

エアバッグの作動により重大なけがをしたり死亡したりする危険性を軽減するため、以下の注意事項をお守りください。

- 妊娠中の女性も含めて、乗員全員が常にシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直にしてシートに深く腰かけてください。 ヘッドレストは、中央部が目の高さになるように調整してください。
- 身長約 150 cm 未満あるいは 12 歳未満の子供は、適切なチャイルドセーフティシートに乗せて身体を固定してください。
- 乗員全員がシート位置を正しく調整し、エアバッグとの間隔をできるだけ確保してください。 運転席シートの位置は、安全運転を妨げないように調整し

てください。 運転者の胸と運転席エアバッグの距離をできるだけ確保してください。
- 助手席シートはできるだけ後方に移動してください。 特に、助手席にチャイルドセーフティシートを装着して子供を乗せるときは助手席シートを後方に移動することが大切です。
- サイドバッグやヘッドバッグが膨らむウインドウ周辺には頭部を寄りかけないでください。特に、子供にはご注意ください。
- 助手席フロントエアバッグの機能が解除されている場合を除いて、後ろ向きで装着するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席に設置しないでください。 チャイルドシート検知システム装備車の助手席シートに、センサー付き純正チャイルドシートを装着している場合は、助手席フロントエアバッグの機能が解除されます。 助手席エアバッグオフ表示灯 [ ] が点灯し続けます。

  助手席に前向きのチャイルドセーフティシートを設置する場合は、助手席シートをできるだけ後方に下げてください。
- 衣服のポケットに重い物やとがった物を入れないでください。
- 特に走行中は、運転席フロントエアバッグ / 助手席エアバッグの格納部にもたれかかったりしないでください。
- ダッシュボードの上に足をのせないでください。
- ステアリングは必ず外側を握ってください。 それにより、エアバッグを十分に膨らませることができます。 ステアリングの内側を握った状態でエアバッグが作動すると、運転者がけがをするおそれがあります。
- ドアに寄りかからないでください。
- エアバッグ作動範囲と乗員の間にペットや荷物を置かないでください。
- バックレストとドアの間に物を置かないでください。
- アシストグリップやコートフックに、コートハンガーなどのかたい物をかけないでください。
- ドアにカップホルダーなどのアクセサリーを取り付けないでください。

エアバッグは瞬時に作動する必要があるため、エアバッグの作動によりけがをする危険性を排除することは不可能です。

⚠ 警告

エアバッグが作動すると、少量の白煙が発生することがあります。 この白煙を吸い込むと、ぜんそくや肺疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがあります。

呼吸障害を防止するため、安全を確認のうえただちに車外に出てください。 または、ウインドウを開いて新鮮な空気を車内に取り込んでください。 この白煙は、人体への影響はありません。また、火災の心配はありません。

⚠ 警告

エアバッグが作動した直後は、エアバッグの構成部品が熱くなっています。 やけどの原因となりますので、エアバッグの構成部品には触れないでください。

作動したエアバッグは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。 交換しないと、次に事故が起こった際にエアバッグで乗員を保護できません。

衝突の際にエアバッグが作動すると、乗員の身体の移動を抑えて拘束します。

エアバッグが作動するときに、作動音が聞こえ、空中に少量の白煙が発生することがあります。 作動音は、ごくまれに聴力に影響を与えることがあります。 放出される白煙は人体への影響はありません。 SRS 警告灯 [ ] が点灯します。

エアバッグの格納場所には、エアバッグのマークが付いています。

エアバッグの取付位置

エアバッグ	格納場所
運転席エアバッグ	ステアリングパッド部
助手席エアバッグ	グローブボックス上部のダッシュボード部
ヘッドバッグ	運転席・助手席のドアトリムパネル
サイドバッグ	運転席・助手席のシートバックレスト側面

フロントエアバッグ

! 助手席シートには重い物を置かないでください。 助手席シートに乗員が座っているとシステムが誤って判断する原因になり、衝突の際に助手席エアバッグが作動するおそれがあります。作動したエアバッグは新品と交換してください。

運転席エアバッグ ① はステアリング正面で膨らみ、助手席エアバッグ ② はグローブボックスの正面と上部で膨らみます。

フロントエアバッグは頭部および胸部のけがに対する保護効果を高めます。

ヘッドバッグは以下のときに作動します。

- 衝突の初期段階で、車両の縦方向に一定以上の高い加速度または減速度を検知したとき
- エアバッグの作動が、シートベルトの乗員保護機能を高めるとシステムが判断したとき
- シートベルト着用の有無に応じて作動します。
- 車内の他のエアバッグの作動に関係なく作動します。

車両が横転または転覆したときは、フロントエアバッグは通常作動しません。 システムが車両の縦方向に一定以上の減速度を検知したときに、フロントエアバッグは作動します。

助手席エアバッグは、システムが助手席シートに乗車していることを検知したときにのみ作動します。 イグニッションをオンにしたときに、表示灯 PASSENGER AIR BAG ON が約 60 秒 間点灯します。センターコンソールの表示灯 PASSENGER AIR BAG OFF は点灯しません (▷ 56 ページ)。 これは、チャイルドセーフティシート自動検知用トランスポンダー付きチャイルドセーフティシートが助手席に装着されていない、または正しく装着されていないことを意味します。

サイドバッグ

⚠ 警告

シートカバーを装着するときは、安全のため必ずメルセデス・ベンツ車に適合する純正のシートカバーを使用することをお勧めします。

シートカバーには、サイドバッグ専用の裂けた縫い目が必要です。専用の縫い目がないと、事故のときにサイドバッグが適切に作動しなくなり、本来の保護効果を発揮することができません。 適切な

シートカバーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお求めください。

例： 運転席側のサイドバッグ

サイドバッグ ① は、シートバックレストのサイドサポートの外側付近で膨らみます。

サイドバッグは、側面衝突の際に作動すると、衝撃を受けた側の乗員の胸部を補助的に保護します。 ただし、以下の部位を保護することはできません。

- 頭部
- 頸部
- 腕

サイドバッグは以下の条件で作動します。

- 衝撃を受けた側
- 側面衝突などの初期段階で、車両の横方向の加速度または減速度が高くなったとき
- シートベルトの着用に関係なく作動します。
- フロントエアバッグの作動に連動しません。
- シートベルトテンショナーの作動に連動しません。

車両が横転した場合、サイドバッグは通常は作動しません。 システムが横方向の車両の高い減速または加速を検知し、サイドバッグの作動によってシートベルトによりもたらされるものに補助的な保護を与えると判断した場合に、サイドバッグは作動します。

ヘッドバッグ

例：助手席側サイドバッグ

サイドバッグ ① は、フロントのサイドウインドウの範囲で作動します。サイドバッグは、衝撃が発生した車両側の車両乗員の胸部や腕部ではなく頭部の保護レベルを高めます。

サイドバッグは以下で作動します。

- 側面衝突などの初期段階で、車両の横方向の加速度または減速度が高くなったとき
- 衝撃を受けた側
- 車両が横転または転覆した際に、サイドバッグの作動がシートベルトによる乗員保護効果を高めることができるとシステムが判断したときは、運転席側と助手席側の両方で作動します。
- シートベルトの着用に関係なく作動します。
- 助手席乗員の有無に関わらず作動します。
- フロントエアバッグの作動に連動しません。

ロールバー

⚠ **危険**

ロールバーに異常があるときは、マルチファンクションディスプレイに "[icon] 故障 工場で点検" と表示されます。その場合は、事故などで衝撃を受けてもロールバーが起き上がらなくなるおそれがあります。その結果、運転者と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。 ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でロールバーの点検を受けてください。

⚠ **警告**

ロールバーカバーの上に荷物や衣服を置いていると、ロールバーの展開が妨げられることがあります。

ロールバーが起き上ったときに荷物などが投げ出され、運転者や他の乗員がけがをするおそれがあります。

ロールバーカバーの上に何もないことを確認してください。 荷物や衣服は安全な場所に収納してください。

ロールバーは、車両後部の 2 個のリアコンパートメントトリムカバーの下に収納されています。

システムが、走行中に車両が転覆する危険性を検知すると、ロールバーが自動的に起き上がります。 2 個のリアコンパートメントトリムカバーが開き、ロールバーが瞬時に起き上がります。

起き上がったロールバーを下げることはできません。 開いたルーフを閉じることはできません。 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

PRE-SAFE®（予期乗員保護）

⚠ **警告**

シートの位置を調整するときは、乗員が挟まれてけがをしないように注意してください。

! シートの前後位置を調整するときは、足元やシート後方に物がないことを確認してください。 シートや物を損傷するおそれがあります。

PRE-SAFE® は車が危険な状態にあることを察知して、乗員保護に備えるための機能を提供します。

PRE-SAFE® は以下のときに作動します。

- 緊急ブレーキの状況などで BAS が作動したとき
- ディストロニック・プラス装備車で BAS プラス（ブレーキアシストプラス）が強力に作動したとき
- ディストロニック・プラス装備車で、レーダーセンサーシステムが特定の状況で差し迫った衝突の危険を感知したとき
- 物理的限界を超えて車両が著しくアンダーステアやオーバーステアになるなど、危機的な走行状況になったとき

PRE-SAFE® は感知した危険な状態に応じて、以下のように作動します。

- シートベルトテンショナーが事前に作動して、ベルトを引き込みます。
- 助手席シートの位置が適切でない場合は、自動調整します。
- マルチコントロールシートバック / アクティブマルチコントロールシートバック装備車では、シートクッション

およびバックレストのサイドサポートの空気圧を高めます。

- 車が横滑りすると、サイドウインドウがほぼ完全に閉じます。

事故につながることなく危険な状況が過ぎた場合は、PRE-SAFE® がシートベルトの張力を緩めます。PRE-SAFE® により行なわれたすべての設定が元に戻ります。

シートベルトの張力が緩まないとき

▶ 停車中に、バックレスト角度やシートの前後位置を少し動かします。
シートベルトの張力が緩み、ロック機構が解除されます。

シートベルト調整と PRE-SAFE に組み込まれたコンビニエンス機能に関するさらなる情報 (▷ 51 ページ)

NECK PRO アクティブヘッドレスト

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

ヘッドレストカバーは、必ず車両に適合するメルセデス・ベンツ純正品を使用してください。

純正以外のヘッドレストカバーを使用すると、NECK PRO アクティブヘッドレストが正常に作動しなくなるおそれがあります。 その結果、NECK PRO アクティブヘッドレストが本来の保護機能を発揮しなくなる場合があります。

純正品については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

NECK PRO アクティブヘッドレストは頭部および胸部にけがを負う危険を減らします。 後方から一定以上の衝撃を受けると、運転席と助手席の NECK PRO アクティブヘッドレストが前上方向へ移動します。 その結果、乗員の頭部を効果的に支持することができます。

事故で NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した場合は、運転席と助手席シートの NECK PRO アクティブヘッドレストをリセットしてください (▷ 49 ページ)。 さもないと、他の後方衝突のときに追加保護を行なえません。NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した場合は、それらが前方に動き、調整できなくなる事実によって認識できます。

追突されたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で NECK PRO アクティブヘッドレストの点検を受けることをお勧めします。

NECK PRO アクティブヘッドレストの作動後のリセット

▶ NECK PRO アクティブヘッドレストのクッション上部を前方の矢印の方向 ① に傾けます。

▶ NECK PRO アクティブヘッドレストのクッションを矢印の方向 ② に停止するまで押し下げます。

▶ NECK PRO アクティブヘッドレストのクッションを矢印の方向 ③ にしっかりと押し、確実にロックさせます。

▶ もう一方の NECK PRO アクティブヘッドレストでも同様の作業を行ないます。

ℹ NECK PRO アクティブヘッドレストのリセット作業には強い力が必要になります。 NECK-PRO アクティブヘッドレストのリセット作業を行なうのが困難

な場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

シートベルト

重要な安全上の注意

⚠ 警告

シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトがバックルに確実に差し込まれていないと、シートベルトの本来の保護機能が十分に発揮されません。 事故のとき、状況によっては乗員が致命的なけがをするおそれがあります。

妊娠中の女性も含めて、乗員全員が常にシートベルトを正しく着用していることを確認してください。

- シートベルトは身体に密着させ、ねじれのないように着用してください。コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。 肩ベルトは肩の中央にかけてください。絶対に首や脇の下には通さないでください。また、シートベルトを引き上げて上半身に密着させてください。 腰ベルトは、腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。 必要であれば、ベルトを少し押し下げた後、再び引き戻してたるみを取ってください。
- シートベルトは、シートのベルトループ内でねじれのないようにしてください。
- ベルトストラップが、とがった物やこわれやすい物に当たらないようにしてください。 特に、ペンやメガネ、鍵など、衣類のポケットに入れたとがった物やこわれやすい物にご注意ください。衝突時にシートベルトが損傷して裂け、運転者や他の乗員がけがをするおそれがあります。
- 各シートベルトは必ず 1 人の乗員が使用します。 絶対に子供を膝の上に座らせて走行しないでください。 急な進路変更時やブレーキ時、衝突時に子供を保護することができなくなります。 その結果、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。
- 身長約 150 cm 未満の乗員は、シートベルトを正しく着用することができません。 そのため身長約 150 cm 未満の乗員は、体格に応じた専用の乗員保護装置を使用してください。
- 身長約 150 cm 未満または 12 歳未満の子供は、シートベルトを正しく着用することができません。 そのため、子供の体格に応じたチャイルドセーフティシートを助手席シートに装着して、子供を固定してください。 詳しくは、本取扱説明書"安全装備"の章にある"子供を乗せるとき"の記載事項をお読みください。 チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示に従ってください。
- 乗員が着用しているシートベルトで荷物などを固定しないでください。

⚠ 警告

バックレストをできるだけ垂直に近い位置にしないと、シートベルトの保護機能が十分に発揮できません。 衝突の際に、乗員が致命的なけがをするおそれがあります。

走行する前に、シートが正しい位置に調整され、バックレストがほぼ垂直になっていることを確認してください。

⚠ 警告

汚れたり損傷しているシートベルトや、改造されたシートベルト、事故で衝撃を受けたシートベルトは、本来の保護機能を発揮することができません。 事故のとき、状況によっては乗員が致命的なけがをするおそれがあります。

シートベルトに汚れや損傷がないか定期的にチェックしてください。

損傷したシートベルトや事故で衝撃を受けたシートベルトはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

安全のため、必ず車両に適合するメルセデス・ベンツ純正のシートベルトを使用してください。

シートベルトは、衝突の際に乗員の身体の移動を最も効果的に抑えることができる拘束装置です。 乗員を拘束することにより、乗員が車内の部品にぶつかるのを防ぎます。

シートベルトの着用

▶ シートを調整し、バックレストをほぼ垂直の位置に動かします。 (▷ 100 ページ)

▶ シートベルトをシートベルトガイド ① からゆっくり引きます。

▶ ねじれがないように、シートベルトの肩の部分を肩の中央に、腰の部分を骨盤にかけます。

▶ プレート ② をバックル ③ に差し込みます。
シートベルトの調整：必要であれば、運転席および助手席シートベルトを上半身に自動的に合わせます。 (▷ 51 ページ)

▶ 必要であれば、肩ベルトを上方に引いて、シートベルトを身体に密着させます。

解除スイッチ ④でのシートベルトの解除に関する情報(▷ 51 ページ)。

シートベルトの調整

シートベルト自動調節機能は、運転席および助手席シートベルトが乗員の上半身に密着するように、自動的にシートベルトを調整します。

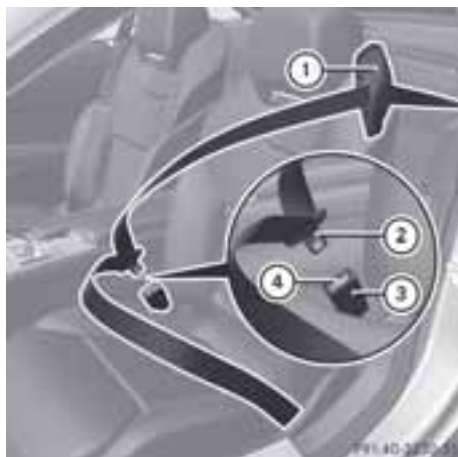
以下のときは、シートベルトを少し引き込みます。

- シートベルトのプレートをバックルに差し込んだ後、イグニッション位置を 2 にしたとき
- イグニッション位置を 2 にした後、シートベルトのプレートをバックルに差し込んだとき

シートベルト調整は、乗員とシートベルトの間にたるみを検知すると、特定の締め付け力を適用します。調整の間は、シートベルトを強くつかまないでください。 マルチファンクションディスプレイでシートベルト調整のオンおよびオフを切り替えることができます。 (▷ 159 ページ)

シートベルト調整は PRE-SAFE®（予防的な乗員保護）に内蔵された便利な機能です。PRE-SAFE®に関するさらなる情報(▷ 48 ページ)。

シートベルトの解除

! シートベルトが完全に巻き取られていることを確認してください。 ベルトが完全に収納されていないと、シートベルトやプレートがドアに挟まれたりシート機構に引っかかることがあります。 その結果、ドアやドアトリムパネル、シートベルトを損傷するおそれがあります。 損傷したシートベルトは保護機能を果たすことができなくなるため、必ず新品と交換してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

▶ バックル ③ の解除ボタン ④ を押します。

▶ シートベルトのプレート ② をシートベルトガイド ① に向かって戻します。

運転席および助手席のシートベルト着用警告

メーターパネルのシートベルト警告灯 [警告灯] は、乗員にシートベルトの着用を促します。 警告灯は点灯し続けるか点滅します。 また、警告音が鳴る場合もあります。

運転者および助手席乗員がシートベルトを着用すると、シートベルト警告灯 [警告灯] が消灯し、警告音が鳴り止みます。

特定の国のみ：運転者および助手席乗員がシートベルトを着用しているかどうかに関わらず、エンジン始動後にシートベルト警告灯 [警告灯] が約 6 秒間点灯します。 運転者および助手席乗員がシートベルトを着用すると、警告灯が消灯します。

ℹ シートベルト警告灯 [警告灯] について、詳しくは "メーターパネルの表示灯および警告灯、シートベルト" (▷ 176 ページ)をご覧ください。

シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター

⚠ 警告

シートベルトテンショナーは一度作動すると、保護機能がなくなり再使用できません。 したがって、作動したシートベルトテンショナーはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。

シートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄規則をお守りください。 この規則について詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 助手席に乗車していない場合は、助手席シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。 衝突の際にシートベルトテンショナーが作動することがあります。

シートベルトテンショナーは、衝突時にシートベルトを瞬時に巻き上げ、乗員の身体に密着させる働きをします。

ただし、シートベルトテンショナーは、適切でないシート位置や正しく着用していないシートベルトを補正することはできません。

シートベルトテンショナーは、乗員の上体をバックレストに引き寄せるためのものではありません。

ベルトフォースリミッター付きシートベルトでは、ベルトフォースリミッターが作動して衝突時に巻き上げたベルトの拘束力を緩め、乗員の身体を加わる負担を軽減します。

ベルトフォースリミッターは、フロントエアバッグと連動して作動します。 減速力の一部を吸収して、乗員の身体にかかる力を広い範囲に分散させます。

シートベルトテンショナーは、次のような場合に作動します。

- イグニッションスイッチがオンになっている場合
- 乗員保護装置が正常に作動している場合。"SRS 警告灯"(▷ 43 ページ)を参照してください。
- フロントの 3 点式シートベルトで、各ベルトのプレートがバックルに確実に差し込まれている場合

シートベルトテンショナーは、事故の形態や大きさに応じて次のような場合に作動します。

- 正面衝突または追突の際に、衝突の初期段階で車両の縦方向の減速度または加速度が急激に大きくなった場合
- 側面衝突の際に、衝撃を受けた反対側で車両の横方向の加速度または減速度が急激に大きくなった場合
- 車両が横転または転覆した状況で、シートベルトテンショナーが保護機能を高めるとシステムが判断した場合

シートベルトテンショナーが作動する際に、作動音が聞こえ、空中に少量の白煙が発生することがあります。 作動音は、ごくまれに聴力に影響を与えることがあります。 放出される白煙は人体への影悪響はありません。SRS 警告灯 [SRS] が点灯します。

事故のとき

事故の場合

- ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。
- ▶ 非常点滅灯を点滅させます。
- ▶ パーキングブレーキをかけます。
- ▶ 周囲の安全を確認して、乗員は車両から降りてください。
- ▶ 危険な場所に誰も近づかないようにしてください。フェンスなどで区切った安全な場所に乗員を避難させてください。
- ▶ 適切な場所に停止表示板を置いてください。

高速道路や自動車専用道路で駐停車する場合は、周囲に注意を促すため、停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

車両が動かなくなった場合

- ▶ シフトポジションを **N** にします。
- ▶ パーキングブレーキを解除します。
- ▶ 安全な場所まで車両を押して移動してください。

  必要な場合は、同乗者か付近の方々に救援を求めてください。

シフトポジションを **N** にできない場合、乗員全員がただちに安全な場所に避難してください。

ⓘ イグニッションスイッチをオンにし車輪が回転し始めると、車が自動的に施錠されるので、車両を押す場合やダイナモメーター で性能をテストする場合などは、車外に閉め出されるおそれがあります。

ⓘ 踏切内で車両が動かなくなった場合は、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要する場合は、非常信号灯も使用してください。

チャイルドセーフティシート

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

急な進路変更時やブレーキ時、衝突時などに子供が致命的なけがをするのを防ぐため、以下の点に注意してください。

- 身長約 150 cm 未満および 12 歳未満の子供は、助手席シートに装着した専用のチャイルドセーフティシートに乗せて確実に身体を固定してください。 シートベルトは子供向けに設計されていないため、チャイルドセーフティシートの使用が必要となります。
- チャイルドシート検知システム用トランスポンダを内蔵していないチャイルドセーフティシートを前向きで助手席シートに装着しているときは、助手席シートをできるだけ後方に下げてください。
- 絶対に子供を膝の上に座らせて走行しないでください。 急な進路変更時や急ブレーキ時、衝突時に発生する力により、子供を保護することができなくなります。 子供が車内の部品に激しくぶつけられ、致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ **警告**

チャイルドセーフティシートを助手席シートに適切に装着していないと、その保護機能を発揮することができません。 衝突時、急ブレーキ時、急な進路変更時に子供の身体を拘束することができなくなります。 その結果、子供が致命的なけがをするおそれがあります。 そのため、チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取付説明書の指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください。

チャイルドセーフティシートの底面全体をシートクッションに接触させる必要があります。 そのため、チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。

チャイルドセーフティシートには、必ずこのシート専用の純正シートカバーを使用してください。 損傷したカバーを取り替えるときは、必ず純正品を使用してください。

メルセデス・ベンツ純正チャイルドセーフティシートのご使用をお勧めします。

⚠ **警告**

子供をチャイルドセーフティシートに乗せて固定している場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。 子供が車両の各部に触れてけがをするおそれがあります。 また、車内が高温または低温になった状態では、命に関わります。

チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。 チャイルドセーフティシートの各部が高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。

子供が誤ってドアを開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。 子供が車外に出てけがをしたり、通りかかった車にはねられ致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ **警告**

荷物が固定されていなかったり適切な位置に置かれていないと、以下のような場合に子供や他の乗員がけがをする危険性が高くなります。

- 事故のとき
- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時

車内に重い荷物やかたい荷物を積むときは、確実に固定してください。

荷物の安全な収納に関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

子供を乗車させるときは、メルセデス・ベンツ純正チャイルドセーフティシートを使用して身体を確実に固定してください。 子供の年齢や身長 / 体重に応じて適切なチャイルドセーフティシートをお選びください。 走行中は、常に子供が

チャイルドシートで固定されていることを確認してください。

メルセデス・ベンツは、リストに挙げられているチャイルドセーフティシートの使用をお勧めします。(▷ 60 ページ)

適切なチャイルドセーフティシートについてのさらなる情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

ℹ チャイルドセーフティシートを清掃するときは、メルセデス・ベンツ純正のカーケア用品のご使用をお勧めします。詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

チャイルドセーフティシート（助手席）

⚠ **警告**

助手席フロントエアバッグの機能が解除されていないときは、以下のように対処してください。

- 助手席エアバッグが作動すると、助手席に装着したチャイルドセーフティシートに乗車している子供が致命的なけがをするおそれがあります。 特に子供が助手席エアバッグのすぐそばに座っている場合は、エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをする危険性が高くなります。
- 後ろ向きで装着するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席に装着して、子供を乗せないでください。
- 前向きのチャイルドセーフティシートを助手席に装着して子供を乗せるときは、必ず助手席シートをできるだけ後方に下げてください。

次のような場合、助手席フロントエアバッグの機能は解除されません。

- チャイルドシート検知システム用トランスポンダーを内蔵するチャイルドセーフティシートが助手席シートに装着されていない場合。 チャイルドセーフティシート検知システムを利用するには、トランスポンダ付きメルセデス・ベンツ純正チャイルドセーフティシートを装着する必要があります。
- エンジンスイッチをオンにした後に、助手席エアバッグオン表示灯 [ON] が約 60 秒間点灯して、助手席エアバッグオフ表示灯 [OFF] が点灯しない場合。

このような危険に注意を促すため、ダッシュボードと助手席側サンバイザーの両側に警告ステッカーが貼られています。

純正のチャイルドセーフティシートについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

助手席側サンバイザーに貼付されている警告ステッカー

後ろ向きで装着するタイプのチャイルドセーフティシートの警告マーク

前方に装着されたエアバッグによって保護されているシートでは、後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用しないでください。

チャイルドセーフティシートセンサー（助手席）

⚠ 警告

チャイルドセーフティシートを装着していても助手席エアバッグオフ表示灯 OFF が点灯しないときは、助手席エアバッグの機能は解除されていません。 助手席エアバッグが作動するときの衝撃で、子供が重大なけがをしたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

以下のように対処してください。

- 後ろ向きで装着するタイプのチャイルドセーフティシートは助手席に装着しないでください。

または

- 助手席には必ず前向きのチャイルドセーフティシートを装着し、助手席シートをできるだけ後方に下げてください。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場でチャイルドセーフティシートセンサーの点検を受けてください。

助手席のチャイルドセーフティシートセンサーが正しく機能し、検知することができるように、チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。 チャイルドセーフティシートの底面全体をシートクッションに接触させる必要があります。 チャイルドセーフティシートが適切に装着されていないと、事故の際に保護機能を発揮することができなくなり、負傷するおそれがあります。

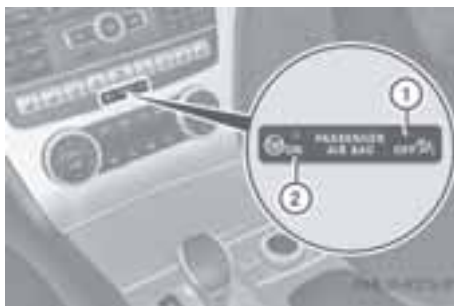
⚠ 警告

助手席シートには、以下のような電子機器を置かないでください。

- 電源の入ったノートパソコン
- 携帯電話
- IC カードや磁気カード

電子機器から送られる信号がチャイルドセーフティシートセンサーシステムに干渉する場合があります。 そのため、システムが誤作動するおそれがあります。 信号の干渉により、 PASSENGER AIR BAG ON 表示灯、 PASSENGER AIR BAG OFF 表示灯および 警告灯が同時に点灯することがあります。 チャイルドセーフティシートセンサー用のトランスポンダーが内蔵されたチャイルドセーフティシートが装着されていない場合でも、 PASSENGER AIR BAG OFF 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することがあります。 衝突時でも助手席エアバッグが作動しなくなります。

エンジンスイッチをオンにすると、以下の状態になることがあります。

- SRS 警告灯 が点灯する。
- PASSENGER AIR BAG OFF 表示灯が短い間点灯しない。
- PASSENGER AIR BAG ON 表示灯が点灯しない、または点灯後 60 秒 経過しても消灯しない。

助手席のチャイルドセーフティシート自動検知システムは、特別なメルセデス・ベンツのチャイルドセーフティシートがそこに装着されているかどうかを検知します。 メルセデス・ベンツのチャイルドセーフティシートにはチャイルドセーフティシート自動検知用のトランスポンダーが装備されており、センサーによって検知されることができます。この場合、イグニッションをオンにしたときに、 PASSENGER AIR BAG ON 表示灯 ② が短時間点灯します。 表示灯 PASSENGER AIR BAG OFF ① は連続で点灯します。助手席エアバッグが無効になっています。

ⓘ チャイルドセーフティシートセンサーにより助手席フロントエアバッグの機能が解除されている場合でも、助手席側の以下の装置は通常どおりに作動します。

- サイドバッグ
- ヘッドバッグ
- シートベルトテンショナー

ISOFIX チャイルドセーフティシート

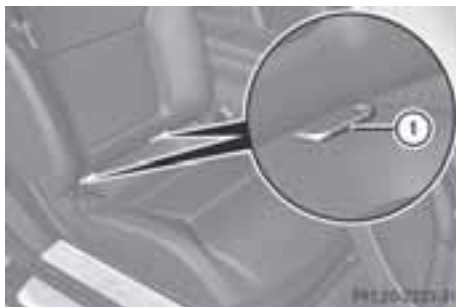
⚠ **警告**

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置を使用してチャイルドセーフティシートを装着した場合、体重約 22 kg 以上の子供には十分な保護機能を発揮することができません。 そのため、体重約 22 kg 以上の子供は、ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置で装着されたチャイルドセーフティシートに座らせないでください。 体重約 22 kg 以上の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを 3 点式シートベルトで装着してください。

⚠ **警告**

チャイルドセーフティシートを適切に装着しなかった場合、保護機能を発揮することができなくなります。事故、急ブレーキまたは突然の進路変更のときに、子供を保護することができなくなります。子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取付説明書の指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください。

安全のため、チャイルドセーフティシートは必ずメルセデス・ベンツ車両のためにテストおよび承認された ISOFIX チャイルドセーフティシートを使用してください。

正しく装着されていないと、チャイルドセーフティシートが外れ、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。チャイルドセーフティシートを装着したら、左右の固定リングに確実に固定されているか必ず確認してください。

ISOFIX は、専用のチャイルドセーフティシートを装着するための標準規格で定められた固定装置です。ISOFIX チャイルドセーフティシート用固定リング ① は助手席に取り付けられています。

▶ ISOFIX チャイルドセーフティシート固定装置を取り付けます。ISOFIX チャイルドセーフティシートを装着するときは、メーカーの指示に従ってください。

チャイルドセーフティシートセンサーのトラブル

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
センターコンソールの PASSENGER AIR BAG OFF 表示灯が点灯する。	助手席シートに、チャイルドセーフティシートセンサー用トランスポンダーを内蔵するメルセデス・ベンツ純正チャイルドセーフティシートが装着されている。 そのため、助手席エアバッグの機能が解除されている。
	⚠ **警告** 助手席シートにチャイルドセーフティシートが装着されていない。 チャイルドセーフティシートセンサーが故障している。 エンジンスイッチをオンにすると、以下の状態になることがあります。 • SRS 警告灯 が点灯する。 • PASSENGER AIR BAG OFF 表示灯が短い間点灯しない。 • 表示灯 PASSENGER AIR BAG ON が点灯しない、または点灯後 60 秒 経過しても消灯しない。 けがをするおそれがあります。 ▶ 助手席シートの座面に以下のような電子機器が置いてあるときは取り除いてください。 • ノートパソコン • 携帯電話 • IC カードや磁気カード PASSENGER AIR BAG OFF 表示灯が点灯し続ける場合： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

チャイルドセーフティシートの適切な装着位置

助手席シートにチャイルドセーフティシートを装着するとき：

▶ シートを最高位および最後方の位置に動かします。

▶ バックレストを垂直の位置に動かします。

▶ シートクッションの角度を最高位、最垂直位置に動かします。

▶ シートベルト高さ調整を最も低い位置に動かします。

チャイルドセーフティシートセンサー用トランスポンダーが内蔵されていない後ろ向きで装着するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席シートに装着することはできません。

下表の記号説明

X　このカテゴリー（適応体重）の子供には適切でないシート

U　この体重カテゴリーでの使用が承認された"ユニバーサル"カテゴリーのチャイルドセーフティシートに適合

UF　このカテゴリー（適応体重）に適合する"ユニバーサル" の前向きチャイルドセーフティシートに適切

L　推奨チャイルドセーフティシートに適合"純正チャイルドセーフティシート"の以下の表(▷ 60 ページ)をご覧ください。

カテゴリー（適応体重）	助手席エアバッグは解除されません。	助手席エアバッグの機能は解除されている
カテゴリー 0： 10 kg 以下	X	UL
カテゴリー（適応体重） 0+： 13 kg 以下	X	UL
カテゴリー I： 9 ～ 18 kg	UFL	UL
カテゴリー II： 15 ～ 25 kg	UFL	UL
カテゴリー（適応体重） III： 22 ～ 36 kg	UFL	UL

助手席チャイルドセーフティシート自動検知装備車：助手席エアバッグが作動しない場合、チャイルドセーフティシート自動検知用トランスポンダー付きの"ユニバーサル"カテゴリーのチャイルドセーフティシートを装着しなければなりません。 PASSENGER AIR BAG OFF 表示灯が点灯します。

"ユニバーサル" のチャイルドセーフティシートは、オレンジ色の認証ラベルが目印です。

例：純正チャイルドセーフティシートの認証ラベル

ISOFIX チャイルドセーフティシートの装着のための助手席の適性

下表の記号説明

X　この体重やサイズのカテゴリーで ISOFIX チャイルドセーフティシートに適さない ISOFIX のポジション

IUF　この体重カテゴリーでの使用が承認された"ユニバーサル"カテゴリーに属している ISOFIX 前向きチャイルドセーフティシートに適合

IL　推奨しているような ISOFIX チャイルドセーフティシートに適合。以下の表"推奨チャイルドセーフティシート" (▷ 60 ページ) をご覧ください。

幼児用ベッドカテゴリー（適応体重）

サイズ等級	装着器具タイプ	助手席シート
F	ISO/L1	X
G	ISO/L2	X

重量カテゴリー 0： 約 10 kg 以下、約 6 カ月以下

サイズ等級	装着器具タイプ	助手席シート
E	ISO/R1	X

重量カテゴリー 0+： 約 13 kg 以下、約 15 カ月以下

サイズ等級	装着器具タイプ	助手席シート
E	ISO/R1	X
D	ISO/R2	X
C	ISO/R3	X

重量カテゴリー I： 約 9 ～ 18 kg、約 9 カ月 ～ 4 歳

サイズ等級	装着器具タイプ	助手席シート
D	ISO/R2	X
C	ISO/R3	X
B	ISO/F2	IUF
B1	ISO/F2X	IUF
A	ISO/F3	IUF

純正チャイルドセーフティシート

助手席シートにチャイルドセーフティシートを装着するとき：

- シートを最高位および最後方の位置に動かします。
- バックレストを垂直の位置に動かします。
- シートクッションの角度を最高位、最垂直位置に動かします。
- シートベルト高さ調整を最も低い位置に動かします。

カテゴリー（適応体重） 0： 約 10 kg 以下、生後 6 カ月位まで

メーカー	Britax Römer
タイプ	ベビーセーフプラス
認証番号 (E1 ...)	03 301146 04 301146
注文番号 (A 000 ...)	970 10 00
チャイルドセーフティシート検知システム	はい

カテゴリー（適応体重） 0+： 約 13 kg 以下、生後 15 カ月位まで

メーカー	Britax Römer
タイプ	ベビーセーフプラス
認証番号 (E1 ...)	03 301146 04 301146
注文番号 (A 000 ...)	970 10 00
チャイルドセーフティシート検知システム	はい

重量カテゴリー I： 約 9 ～ 18 kg、約 9 カ月 ～ 4 歳

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	デュオプラス	デュオプラス
認証番号 (E1 ...)	03 3011 33 04 3011 33	03 3011 33 04 3011 33
注文番号 (A 000 ...)	970 11 0 0	970 16 0 0
チャイルドセーフティシート検知システム	はい	いいえ

重量カテゴリー II/III： 約 15 ～ 36 kg、約 4 ～ 12 歳

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	キッド	キッド
認証番号 (E1 ...)	03 3011 48 04 3011 48	03 3011 48 04 3011 48
注文番号 (A 000 ...)	970 12 0 0	970 17 0 0
チャイルドセーフティシート検知システム	はい	いいえ

重量カテゴリー II/III： 約 15 ～ 36 kg、約 4 ～ 12 歳

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	キッドフィックス	キッドフィックス
認証番号 (E1 ...)	04 3011 98	04 3011 98
注文番号 (A 000 ...)	970 18 0 0	970 19 0 0
チャイルドセーフティシート検知システム	はい	いいえ

推奨 "ユニバーサル" / "セミユニバーサル"カテゴリー ISOFIX チャイルドセーフティシート：

カテゴリー I： 9 ～ 18 kg

サイズ等級	B1
メーカー	Britax Römer
タイプ	デュオプラス
認証番号（E1 ...）	03 301133 04 301133
注文番号	A000 970 11 00
チャイルドセーフティシート検知システム	はい

走行安全システム

走行安全装備の概要

この章では、以下の走行安全装備に関する情報を記載しています。

- ABS(Anti-lock Braking System)(アンチロック・ブレーキング・システム)
- BAS(Brake Assist System) (ブレーキアシスト)
- BAS プラス（Brake Assist System PLUS）(ブレーキアシストプラス)
- アダプティブブレーキライト
- ESP®(Electronic Stability Program)（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）
- EBD（Electronic Brake-force Distribution)（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）
- アダプティブブレーキ
- PRE-SAFE®ブレーキ
- ステアコントロール

重要な安全上の注意

運転スタイルを合わせなかったり、注意力が散漫になると、走行安全装備は事故の危険性を低減できず、物理的法則な限界を超えることもできません。走行安全装備は、運転の補助のために設計された支援のみを行なうシステムです。先行車との距離や車両の速度、適切なブレーキ操作の責任は運転者にあります。常に実際の道路や天候状況に適するように運転スタイルを合わせ、先行車との安全な距離を保ってください。注意して運転してください。

ℹ 本書に記載の走行安全装備は、タイヤが路面に十分接地している状態でのみ、最大限の効果を発揮することができます。「タイヤおよびホイール」の章 (▷ 246 ページ)に記載のタイヤに関する情報やタイヤの溝深さ(摩耗限界値)に注意してください。

冬季の走行状況では、必ずウィンタータイヤ(M+S tyres)を、また必要に応じて、スノーチェーンを使用してください。このようにすることで、本章に記載されている走行安全装備の効果を十分に発揮させることができます。

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）

重要な安全上の注意

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 62 ページ)

⚠ **警告**

ABS に異常があるときは、ブレーキ時に車輪がロックすることがあります。 ステアリングでの操縦性およびブレーキ性能が著しく損なわれることがあります。さらに、走行安全装備が解除されます。横滑りや事故の危険が高まります。

注意して運転してください。 ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で ABS の点検をしてください。

ABS が故障しているときは、走行安全装備を含めた他のシステムも作動しなくなります。 ABS 警告灯 (▷ 178 ページ)、およびメーターパネルに表示されることがあるあらゆるディスプレイメッセージ (▷ 163 ページ) に関する情報を遵守してください。

ABS は、ブレーキ圧をコントロールすることで、ブレーキ時の車輪のロックを防ぐ装置です。 そのため、ブレーキをかけながら、ステアリング操作を続けることができます。

ABS は路面の状況に関わらず、約 8 km/h 以上の速度から作動します。 滑りやすい路面では、軽くブレーキを利かせただけでも ABS は作動します。

イグニッションがオンのときに、メーターパネルの黄の ABS 警告灯 (ABS) は点灯します。 エンジン作動中は消灯します。

ブレーキ警告灯

▶ **ABS が作動したとき：** 必要なだけ、そのままブレーキペダルを踏み続けてください。

▶ **強い制動力が必要なとき：** ブレーキペダルをいっぱいに踏み込んでください。

ブレーキ時に ABS が作動すると、ブレーキペダルが小刻みに振動することがあります。

ブレーキペダルの振動は、危険な道路状況を知らせることができ、走行中に特別な注意を喚起させるものとして機能します。

BAS（ブレーキアシスト）

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 62 ページ)

⚠ **警告**

BAS が故障している場合は、緊急ブレーキの状況での制動距離が長くなります。 事故の危険性があります。

緊急ブレーキの状況では、ブレーキペダルを思いっきり踏んでください。ABS が車輪のロックを防ぎます。

BAS は、緊急ブレーキ状態で作動します。 ブレーキペダルを素早く踏み込むと、BAS が自動的に制動力を高めて制動距離を短縮します。

ブレーキペダルから足を放すと、ブレーキは通常の作動状態に戻ります。 BAS の機能が解除されます。

BAS プラス（ブレーキアシストプラス）

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください (▷ 62 ページ)。

BAS プラスは、ディストロニック・プラス装備車でのみ使用できます。

走行中に BAS プラスの効果を発揮させるには、レーダーセンサーをオンにして作動させる必要があります。さくいんにある"レーダーセンサーシステム"をご覧ください。

ℹ 国によってはレーダーセンサーシステムを解除する必要があります (▷ 159 ページ)。

レーダーセンサーシステムに関する詳細は、(▷ 272 ページ) をご覧ください。

レーダーセンサーシステムを利用して、BAS プラスは車両の進路にある障害物を長時間に渡り感知することができます。

BAS プラスは、7 km/h 以上の速度で危険な状態のときにブレーキ操作の支援を行ないます。 交通状況を評価するために、レーダーセンサー技術を使用します。

約 70 km/h 以下の速度で走行中は、BAS プラスは静止している障害物を検知することもできます。 静止している障害物とは、駐停車している車両などです。

先行車両との衝突を避けるため、BAS プラスは以下のときに必要な制動力を計算します。

- 障害物に接近したとき
- BAS プラスが衝突の危険を感知したとき

約 **30 km/h** 以下の速度で走行しているとき：ブレーキペダルを踏むと、BAS プラスは作動します。ブレーキはできる限り最後の瞬間で行なわれます。

約 30 km/h 以上の速度で走行しているとき：ブレーキを素早く踏むと、BAS プラスは交通状況に適した度合いにブレーキ圧を自動的に高めます。

BAS プラスが特に強力な制動力を要求する場合は、PRE-SAFE®（予防的な乗員保護システム）が同時に作動します。

▶ 緊急ブレーキ状態から脱するまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
ABS がホイールのロックを防ぎます。

BAS プラスは以下の状況では解除され、ブレーキは通常通り作動します。

- ブレーキペダルを離したとき
- 衝突の危険がなくなった
- 車両前方に検知される障害物がないとき

レーダーセンサーシステムが誤作動すると、BAS プラスは使用できません。その場合もブレーキシステムは使用でき、ブレーキの倍力装置および BAS は十分に機能します。

⚠ **警告**

BAS プラスは、障害物や複雑な交通状況を明確に認識できるとは限りません。そのような場合、BAS プラスは作動しません。 事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

特に以下の場合は、障害物の感知が困難になります。

- センサーに異物が付着しているとき、またはセンサーが何かでおおわれているとき
- 降雪時
- 他のレーダー送信機による干渉
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こりやすいとき
- 先行車がオートバイのように車幅が狭い車両のとき
- 先行車が別の車線を走行しているとき

⚠ **警告**

BAS プラスは、以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 対向車
- 交差する交通
- カーブを走行するとき

そのため、BAS プラスはすべての危険な状況では作動しない場合があります。事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

車両のフロント端部が損傷した後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を受けてください。これは、低速走行時の衝突で車両のフロント部分に目に見える損傷がない場合にも当てはまります。

アダプティブブレーキライト

約 50 km/h 以上の速度で走行中に急ブレーキをかけた場合、またはブレーキ操作をアシストする BAS や BAS プラスが作動した場合は、ブレーキランプが素早く点滅します。後続車の運転者が明確に視認できるようにブレーキランプを点滅させることで、後続車にいち迅速にを促します。

約 70 km/h 以上の速度で走行中に急ブレーキをかけると、ブレーキランプを点滅して停止した後に、非常点滅灯が自動で点灯します。再びブレーキをかけると、ブレーキランプが点灯し続けます。非常点滅灯は、走行速度が約 10 km/h 以上になると自動的に消灯します。非常点滅灯スイッチ(▷ 104 ページ)を押して、消灯させることもできます。

ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）

全体的な注意事項

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 62 ページ)

ESP® は走行安定性およびトラクション（つまりタイヤおよび路面の間の動力伝達）をモニターします。

ESP® は、車の走行ラインが運転者の望む進行方向から外れていると判断すると、1 本以上のタイヤにブレーキをかけ、車の走行姿勢を安定させせます。また、エンジン出力を調整して、物理的限界内で運転者の意志に沿った方向に車の向きを保つように作動します。ESP® は、濡れた路面や滑りやすい路面での発進操作をアシストします。また、ESP® はブレーキ時の車の姿勢も安定させることができます。

ETS（エレクトロニック・トラクション・システム）

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 62 ページ)

ETS トラクションコントロールは ESP® の一部です。

ETS は、駆動輪が空転したときに、駆動輪に個別にブレーキを効かせます。 これにより、片側が滑りやすい路面などの滑りやすい路面での発進や加速を可能にします。

ESP®を解除しても、ETS は作動します。

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

ESP®が故障している場合は、ESP®は車両を安定させることはできません。さらに、他の走行安全装備はオフになります。これにより、横滑りや事故の危険性が高くなります。

注意して運転してください。 メルセデス・ベンツ指定サービス工場で ESP®の点検を受けてください。

❗ 電気式パーキングブレーキをブレーキダイナモメーターでテストしているときは、イグニッションをオフにしてください。さもないと、ESP® によるブレーキの作動により、ブレーキシステムを破壊することがあります。

後軸を上げて車両をけん引するときは、ESP® の注意を遵守してください (▷ 240 ページ)。

エンジンをかけた状態でメーターパネルの [ESP OFF] 表示灯が点灯し続けるときは、ESP® の機能が解除されています。

警告灯 [ESP] および警告灯 [ESP OFF] が点灯し続ける場合は、故障により ESP® は作動していません。

警告灯 (▷ 180 ページ) とメーターパネル (▷ 163 ページ)に表示されるディスプレイメッセージに関する情報を遵守してください。

以下のときは、エラーおよび警告メッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されることがあります。

- エンジンをかけた状態で、立体駐車場のターンテーブルで車を回転させたとき
- 立体駐車場の狭くて長いらせん状のアプローチを走行しているとき

以下のような警告灯も点灯することがあります。

- ESP® 表示灯 [ESP]
- ESP® オフ表示灯 [ESP OFF]
- ABS 警告灯 [ABS]

- ▶ 道路や交通状況に注意しながら、車両を停止します。
- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ エンジンスイッチをオフにします。
- ▶ エンジンを再始動してください。しばらくすると、メッセージが消え、警告灯 / 表示灯が消灯します。消灯しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因を調査してください。

ⓘ 必ず指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズのタイヤを装着した場合のみ、ESP® は正しく機能します。

ESP®の特性

全体的な注意事項

エンジンを始動すると、ESP® は自動的に待機状態になります。

ESP® が作動すると、メーターパネルの ESP® 表示灯が点滅します。

ESP® が作動する場合

- ▶ どのような状況でも ESP® を解除しないでください。
- ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要な分だけ踏んでください。
- ▶ 実際の道路や天候の状況に適するように運転スタイルを合わせてください。

ECO スタート/ストップ機能装備車

ECO スタート/ストップ機能は、車両が動きを停止した場合に、自動的にエンジンを停止します。再び発進すると、自動的にエンジンが始動します。ESP® は、以前の設定状況のままになります。**例：**エンジンを停止する前に ESP® が解除されていた場合は、エンジンを再度始動したときに ESP® は解除されたままになります。

ESP® の解除 / 作動（AMG 車を除く）

重要な安全上の注意

ⓘ "重要な安全上の注意"を遵守してください。(▷ 62 ページ)

以下の ESP®の状態を選択することができます：：

- • ESP® が作動しているとき。
- • ESP® の機能が解除されているとき

⚠ **警告**

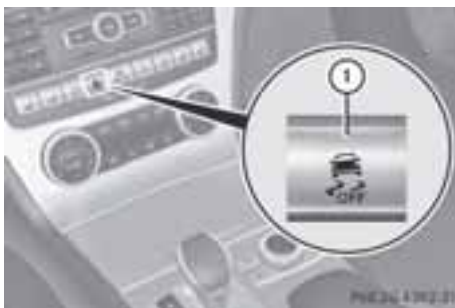
ESP®を解除すると、ESP® は車両を安定させなくなります。横滑りや事故の危険が高まります。

以下に記載された状況でのみ ESP® を解除してください。

以下の状況では、ESP® を解除したほうが良いことがあります。

- • スノーチェーンを装着しているとき
- • 深い雪の上を走行するとき
- • 砂地や砂利道を走行するとき

ⓘ 上記の状況でなくなったら、ただちに ESP® を待機状態にしてください。そうしないと車が横滑りしたり車輪が空転し始めたときに、ESP® の機能で車の走行姿勢を安定させることができません。

ESP® の解除 / 作動

- **オフにする：** スイッチ ① を押します。
  メーターパネルの ESP® オフ表示灯 [OFF] が点灯します。
- **オンにする：** スイッチ ① を押します。
  メーターパネルの ESP® オフ表示灯 [OFF] が消灯します。

ESP® の機能が解除されているときの特性

ESP® を解除しているとき 1 本以上の車輪が空転し始めると、メーターパネルの ESP® 表示灯 [ESP] が点滅します。このような状況では、ESP® は車両を安定させません。

ESP® を解除すると、以下のようになります。

- ESP® は作動せず、走行安全性を高めることはできなくなります。
- エンジントルクの制御は行なわれなくなり、駆動輪が空転することがあります。車輪が空転した場合は、エンジンの出力制御により駆動力の確保が行われます。
- ETS はまだ作動しています。
- ブレーキ操作時、ESP®はまだ作動します。

ESP® の解除 / 作動（AMG 車）

重要な安全上の注意

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 62 ページ)

以下の ESP®の状態を選択することができます：:

- ESP® が作動しているとき。
- スポーツモードになっている。
- ESP® の機能が解除されているとき

> ⚠ **警告**
>
> スポーツモードが作動しているときは、横滑りおよび事故の危険が高まります。
>
> 以下に記載されてる状況でのみスポーツモードを作動してください。

> ⚠ **警告**
>
> ESP®を解除すると、ESP® は車両を安定させなくなります。横滑りや事故の危険が高まります。
>
> 以下に記載された状況でのみ ESP® を解除してください。

次のような状況では、スポーツモードにするか、ESP®を解除した方が走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着しているとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂地や砂利道を走行するとき
- 車両のオーバーステアやアンダーステア特性が求められる特別に設計された道路を走行するとき

スポーツモードを使用または ESP®を使用しないで走行するには、資格要件を満たした経験豊富な運転者が必要です。

ℹ 上記の状況でなくなったら、ただちに ESP® を待機状態にしてください。そうしないと車が横滑りしたり車輪が空転し始めたときに、ESP® の機能で車の走行姿勢を安定させることができません。

ESP® の解除 / 作動

▶ **スポーツモードを作動させる：** スイッチ ① を軽く押します。

メーターパネルのハンドリングモード警告灯 SPORT が点灯します。マルチファンクションディスプレイに SPORT handling mode のメッセージが表示されます。

▶ **スポーツモードを解除する：** スイッチ ① を軽く押します。

メーターパネルのハンドリングモード警告灯 SPORT が消灯します。

▶ **ESP®を解除する：** メーターパネルの ESP® オフ警告灯 OFF が点灯するまで、スイッチ ① を押します。

マルチファンクションディスプレイに OFF というメッセージが表示されます。

▶ **ESP®を作動させる：** スイッチ ① を軽く押します。

メーターパネルの ESP® オフ警告灯 OFF が消灯します。マルチファンクションディスプレイに ESP®ON のメッセージが表示されます。

作動しているスポーツモードの特性

スポーツハンドリングモードが作動していて、1 本以上のホイールが空転し始めた場合は、メーターパネルの ESP® 警告灯 が点滅します。ESP® は限られた程度までのみ車両を安定させます。

スポーツモードが作動したとき

- ESP® は限られた程度までのみ走行安定性を確保します。
- エンジントルクの制御は限定されるため、駆動輪が空転することがあります。車輪が空転した場合は、エンジンの出力制御により駆動力の確保が行われます。
- ETS はまだ作動しています。
- ブレーキ操作時、ESP®はまだ作動します。

ESP® の機能が解除されているときの特性

ESP® が解除されていて 1 本以上のホイールが空転し始めた場合は、メーターパネルの ESP® 表示灯 は点滅しません。このような状況では、ESP® は車両を安定させません。

ESP® を解除すると、以下のようになります。

- ESP® は作動せず、走行安全性を高めることはできなくなります。
- エンジントルクの制御は行なわれなくなり、駆動輪が空転することがあります。車輪が空転した場合は、エンジンの出力制御により駆動力の確保が行われます。
- ETS はまだ作動しています。
- PRE-SAFE®は作動しなくなります。ブレーキを強く効かせ、ESP®が作動した場合でも作動しません。
- PRE-SAFE®ブレーキは作動しなくなります。ブレーキを強く効かせ、ESP®が作動した場合でも作動しません。
- ブレーキを踏むと、ESP® は作動します。

EBD（エレクトロニック・ブレーキフォース・ディストリビューション）

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。（▷ 62 ページ）

⚠ **警告**

EBD が誤作動すると、急ブレーキ時などには後輪がロックすることがあります。これにより、横滑りして事故が起きる危険性が高くなります。

操縦性の変化に応じて慎重に運転してください。 メルセデス・ベンツ指定サービス工場でブレーキシステムの点検を受けてください。

表示および警告灯 (▷ 178 ページ) およびディスプレイメッセージ (▷ 167 ページ) に関する情報を遵守してください。

EBD は、後輪のブレーキ圧を監視してコントロールし、ブレーキ時の走行安全性を高めます。

アダプティブブレーキ

アダプティブブレーキは、ブレーキ時の安全性を高めるとともに、さらに快適なブレーキ操作をもたらします。ブレーキ機能に加えて、アダプティブブレーキはホールド機能 (▷ 141 ページ) およびヒルスタートアシスト機能 (▷ 123 ページ) も備えています。

PRE-SAFE® ブレーキ

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 62 ページ)

PRE-SAFE®ブレーキは、ディストロニックプラス装備車のみで使用できます。

走行中に PRE-SAFE®ブレーキの効果を発揮させるには、レーダーセンサーをオンにして作動させる必要があります。さくいんにある"レーダーセンサーシステム"をご覧ください。

ℹ 国によってはレーダーセンサーシステムを解除する必要があります (▷ 159 ページ)。

レーダーセンサーシステムに関する詳細は、(▷ 272 ページ) をご覧ください。

PRE-SAFE®ブレーキは、先行車両との衝突の危険性を最小限にし、またはそのような衝突の影響を低減するために運転者を支援します。PRE-SAFE®ブレーキが衝突の危険を検知すると、自動でブレーキを利かせるとともに、視覚的および聴覚的な警告を行ないます。PRE-SAFE® レーキは、運転者の操作なしで衝突を防ぐことはできません。

この機能は、以下の場合に警告を発します。

- 約 30 km/h またはそれ以上の速度で、数秒間に渡り前方を走行している車両と保たれている距離が不十分なとき

  メーターパネルの [⚠] 車間距離警告灯が点灯します。
- 約 7 km/h またはそれ以上の速度で、先行車両に急速に接近したとき

  断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの [⚠] 車間距離警告灯が点灯します。

▶ 先行車との距離を広げるためにただちにブレーキを効かせてください。

または

▶ 安全確認のうえ、危険回避の操作を行なってください。

約 7 km/h の速度から、運転者および助手席乗員がシートベルトを着用している場合は、約 200 km/h までの速度で PRE-SAFE®ブレーキは自動的に車両にブレーキを利かせることができます。

システムの性質上、特に複雑な運転状況では PRE-SAFE®ブレーキが不必要な警告や介入を行なうことがあります。

PRE-SAFE®ブレーキは、以下でいつでも作動を解除することができます。

- アクセルペダルをさらに踏み込む
- キックダウンを作動させる
- ブレーキペダルを放す

PRE-SAFE®ブレーキによるブレーキ操作は、以下のとき自動的に解除されます。

- 障害物を回避する操作を行なっているとき
- 衝突の危険がなくなったとき
- 車両前方に検知されている障害物がなくなったとき

レーダーセンサーシステムを利用して、PRE-SAFE®ブレーキは車両の前方にある障害物を長時間に渡り感知することができます。

約 70 km/h 以下の速度で走行中は、BAS プラスは静止している障害物を検知することもできます。静止している障害物とは、駐停車している車両などです。

障害物に接近し、PRE-SAFE®ブレーキが衝突の危険を検知すると、システムは視覚的および聴覚的両面で運転者に警報を行ないます。運転者がブレーキを利かせる、または回避操作を行わなかった場合は、システムが自動的に緩やかに、部分的にブレーキをかけて運転者に警告します。衝突の危険が高まると、PRE-SAFE®(予防的な乗員保護システム)が作動します(▷ 48 ページ)。

約 30 km/h 以上の速度で、衝突の危険がまだあり、運転者がブレーキを利かせる、回避操作を行なう、または著しく加速することを行なわなかった場合は、自動緊急ブレーキのレベルまで自動ブレーキが作動することがあります。自動緊急ブレーキは避けることができなくなった事故のすぐ直前までは作動しません。

⚠ 警告

衝突の危険を感知すると、PRE-SAFE®ブレーキはまず部分的にブレーキをかけて車両を制動します。 ご自身でブレーキをかけないと衝突するおそれがあります。 自動緊急ブレーキにより衝突を防ぐことはできません。 事故の危険性があります。

必ずご自身でブレーキをかけ、危険回避の運転操作を行なってください。

⚠ 警告

PRE-SAFE® ブレーキは、障害物や複雑な交通状況を明確に認識できるとは限りません。

その場合、PRE-SAFE® ブレーキは以下のように作動することがあります。

- 不必要な警告を行ない、車両にブレーキをかける
- 警告を行なわなくなる、または作動しなくなる

事故の危険性があります。

PRE-SAFE® ブレーキが警告を行なったときは、必ず交通状況に十分注意を払いながら、ブレーキをかける準備をしてください。 危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

特に以下の場合は、障害物の感知が困難になります。

- センサーに異物が付着しているとき、またはセンサーが何かでおおわれているとき
- 降雪時
- 他のレーダー送信機により干渉されるとき
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こりやすいとき
- 先行車がオートバイのように車幅が狭い車両のとき
- 先行車が別の車線を走行しているとき

⚠ 警告

PRE-SAFE® ブレーキは、以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 対向車

- 交差する交通
- カーブを走行するとき

この結果、すべての危険な状況では、PRE-SAFE® ブレーキは警告や作動を行なわない場合があります。 事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

先行車との車間距離を十分に維持して衝突を防ぐには、適切にブレーキ操作を行なう必要があります。

▶ **作動および解除：**マルチファンクションディスプレイで PRE-SAFE®ブレーキを作動または解除します (▷ 159 ページ) 。
PRE-SAFE® ブレーキが作動しているとき、ホールド機能が解除されている限りは(▷ 141 ページ)、 マークがマルチファンクションディスプレイに表示されます。パーキングガイダンス装備車では、**P** に入っている、または約 35 km/h より速く走行しているときに、 マークが表示されます。

車両のフロント端部が損傷した後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定および作動の点検を受けてください。これは、低速走行時の衝突で車両のフロントに目に見える損傷がない場合にも当てはまります。

ステアコントロール

ℹ "重要な安全上の注意"にしたがってください。(▷ 62 ページ)

ステアコントロールは、車両の走行姿勢を安定させるのに必要な向きの操舵力をステアリングに伝達し、運転者が適切な回避操作が行なえるようステアリング操作をアシストする機能です。

このステアリング補助機能は、特に以下のような状況で作動します。

- ブレーキ制動時に、右側または左側の前後車輪が濡れた路面または滑りやすい路面にある場合
- 車両が横滑りをし始めた場合

ESP®が故障している場合は、ステアコントロールによるステアリング補助は得られません。しかし、パワーステアリングは作動し続けます。

盗難防止システム

イモビライザー

▶ **キー操作で待機状態にする：**エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ **キーレスゴー操作で待機状態にする：**イグニッションをオフにして、運転席ドアを開きます。

▶ **解除する：**エンジンを始動します。

イモビライザーは、正規のキー以外ではエンジンを始動させない盗難防止装置です。

車両から離れる場合は、必ず SmartKey を携帯して車を施錠してください。有効なキーが車内に残されていると、誰かがエンジンを始動するおそれがあります。

ℹ イモビライザーは、エンジンを始動すると解除されます。

ATA（盗難防止警報システム）

▶ **待機状態にする：** キーまたはキーレスゴー操作で車を施錠します。
表示灯 ① が点滅します。 盗難防止警報システムが約 15 秒後に待機状態になります。

▶ **解除する：** キーまたはキーレスゴー操作で車を解錠します。

システムが待機状態にあるときに以下の部分を開くと、サイレンが鳴り、非常点滅灯が点滅します。

- ドア
- 車（エマージェンシーキーによる解錠）
- トランク
- ボンネット
- グローブボックス
- アームレストの小物入れ
- 後席の小物入れ

▶ **キーを操作して警報を停止する：** キーの [解錠] または [施錠] ボタンを押します。
警報が停止します。

または

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。
警報が停止します。

▶ **キーレスゴー操作で警報を停止させる：** 車外のドアハンドルを握ります。
キーは車外にある必要があります。
警報が停止します。

または

▶ ダッシュボードのキーレスゴースイッチを押します。 キーは車内にある必要があります。
警報が停止します。

開いたドアをすぐに閉じても、警報は解除されません。

けん引防止機能

機能

けん引防止機能が待機状態のときに車両の傾きを感知すると、サイレンが鳴り非常点滅灯が点滅します。 たとえば、ジャッキアップなどにより車両の片側が持ち上げられたときに警報が作動します。

設定スイッチ

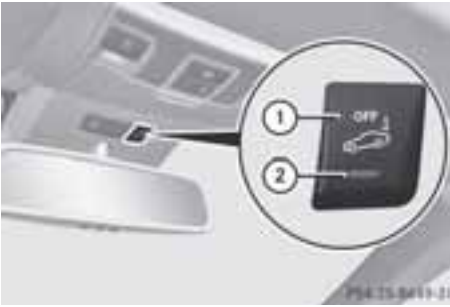
▶ 以下のことを確認してください。
- ドアが閉じていること
- トランクリッドが閉じていること

この場合のみ、けん引防止機能が待機状態になります。

▶ キーまたはキーレスゴー操作で車を施錠します。
約 30 秒後にけん引防止機能が待機状態になります。

オフにする

▶ **解除する：** キーまたはキーレスゴー操作で車を解錠します。
けん引防止機能は自動的に解除されます。

解除スイッチ

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
▶ スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が短く点灯します。
▶ キーまたはキーレスゴー操作で車を施錠します。
けん引防止機能が解除されます。

けん引防止機能は、以下の操作が行なわれると再び作動します。

- 車両を再度解錠する
- ドアを開いて、再度閉じる
- 車両を再度施錠する

誤った警報を防止するため、以下で車両を施錠する場合は、けん引防止警報機能を解除してください。

- 運搬されるとき
- 例えば、フェリーや車両運搬車に積載されるとき
- 複層の車庫などの可動面に駐車するとき

室内センサー

機能

室内センサーを待機状態にしたときは、車内で物体の動きを感知すると、サイレンが鳴り、非常点滅灯が点滅します。 たとえば、車内に人が侵入したときなどに警報が作動します。

設定スイッチ

▶ 以下のことを確認してください。
- サイドウインドウが閉じていること
- アームレストの小物入れが閉じていること

以上のことは、警報の誤作動を防ぎます。
▶ 以下のことを確認してください。
- ルーフが閉じていること
- ドアが閉じていること
- トランクリッドが閉じていること

この場合のみ、室内センサーは待機状態になります。
▶ キーまたはキーレスゴー操作で車を施錠します。
室内センサーが約 30 秒後に待機状態になります。

オフにする

▶ キーまたはキーレスゴー操作で車を解錠します。
室内センサーが自動的に解除されます。

解除スイッチ

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
▶ スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が短く点滅します。
▶ キーまたはキーレスゴー操作で車を施錠します。
室内センサーが解除されます。

誤作動を防止するため、以下のような状況で車を施錠する場合は、室内センサーを解除してください。

- 車内に人や動物が残るとき
- サイドウインドウが開いているとき

室内センサーは以下のときまで解除されたままになります。

- 車を再び解錠する
- ドアを開いて、再び閉じる
- 車を再び施錠する

開閉

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 27 ページ)

キー

重要な安全上の注意

⚠ 警告

子供だけを残して車から離れないでください。

- 施錠されていても、車内からドアが開くおそれがあります。
- 車内に残されたキーでエンジンが始動するおそれがあります。
- パーキングブレーキが解除されるおそれがあります。

子供だけでなく、周りの人も傷害を負うおそれがあります。 子供だけを車内に残さないでください。 ごく短時間でも、車から離れるときは必ずキーを携帯してください。

⚠ 警告

キーに重い物や大きなキーホルダーを付けていると、キーホルダー自体の重みでキーがまわったり、ステアリングに引っかかるおそれがあります。 そのため、エンジンが突然停止するおそれがあります。 また、ステアリング操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。
エンジンスイッチに差し込むキーには、重い物や大きなキーホルダーなどを付けないでください。

- 以下にはキーを近付けないでください。
  - 携帯電話や他のキーなどの電子機器
  - 硬貨や金属片などの金属物
  - 金属ケースなどの金属物の内部

  キーが正常に機能しなくなるおそれがあります。

強い電磁波を発生する物の近くにキーを保管しないでください。電磁波の影響で、リモコン機能が正常に機能しなくなるおそれがあります。

キーの機能

① 🔒 施錠ボタン
② トランクオープナーボタン
③ 🔓 解錠ボタン

▶ **すべてを解錠する：** 🔓 ボタンを押します。

解錠操作をした後、約 40 秒以内にドアなどを開けないと、以下の状態になります。

- 車を再び施錠する
- 盗難防止警報システムが再び待機状態になります。

▶ **すべてを施錠する：** 🔒 ボタンを押します。

キーで以下のすべての施錠 / 解錠操作ができます。

- ドア
- トランクリッド
- グローブボックス
- アームレストの小物入れ
- 後席の小物入れ
- 燃料給油口

解錠操作を行なうと、方向指示灯が 1 回点滅します。 施錠操作を行なうと、3 回点滅します。

また、施錠時に確認音が鳴るキーアンサーバック機能を設定することもできます。 キーアンサーバック機能の設定と解除は、マルチファンクションディスプレイで行ないます。 (▷ 159 ページ)

マルチファンクションディスプレイでロケイターライティング機能を設定しておくと、周囲が暗いときに車外ランプを点灯させることができます。(▷ 159 ページ)

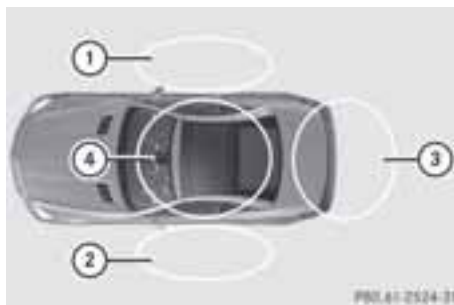
キーレスゴー

重要な安全上の注意

⚠ 警告

埋め込み型心臓ペースメーカー、埋め込み型除細動器等の医療用電子機器を使用されている方は、 車両に装備されているキーレスゴーアンテナから約 22 cm 以内に近づかないようにしてください。

キーレスゴー操作を行なうときは、キーとアンテナの間で電波が送受信されています。 この電波が、埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

医療用電子機器を使用されている方は、医師や医療用電子機器メーカーにキーレスゴーの電波の影響を確認してください。

キーレスゴーアンテナの検知範囲

① 右側外部アンテナの検知範囲

② 左側外部アンテナの検知範囲

③ リアアンテナの検知範囲

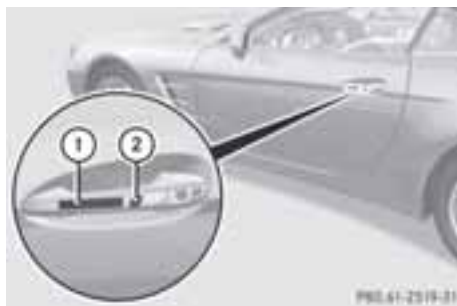
④ 車室内アンテナの検知範囲

キーが車内にあれば、携帯していない乗員でもエンジンを始動することができますので、注意してください。

セントラルロックシステムでの施錠および解錠

キーレスゴーを使用して、始動、車両の施錠または解錠ができます。このためには、必要なのはキーを携帯することのみです。車外のドアハンドルのセンサーの表面に触れると、キーレスゴーにより車両とキーあいだ間で無線通信が確立します。エンジン始動時および走行中は、定期的な無線通信の確立により、キーレスゴーは車内に有効なキーがあるかどうかも確認します。

キーレスゴー機能と従来のキーの機能を組み合わせることができます。たとえば、キーレスゴー操作で車を解錠し、キーの 🔒 ボタンで施錠することができます。

キーレスゴーで施錠および解錠するときは、キーと目標のドアのドアハンドルとの距離は約 1 m 以内である必要があります。

▶ **車両を解錠する：**ドアハンドルの内側に触れます。

▶ **車両を施錠する：**ドアハンドルの施錠操作部①に触れます。

▶ **コンビニエンスクロージング機能：**ドアハンドルのコンビニエンスクロージング操作部②に触れ続けます。

コンビニエンスクロージング機能に関する詳細は、デジタル版取扱説明書、キーワード "コンビニエンスクロージング"をご覧ください。

トランクハンドルを引くと、トランクのみが解錠されます。

ロックシステムの設定変更

これに関する情報は、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

エマージェンシーキー

全体的な注意事項

キーで車を施錠/解錠できない場合は、エマージェンシーキーを使用してください。

エマージェンシーキーで運転席ドアやトランクリッドを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。(▷ 72 ページ)

以下のいずれかの方法で、盗難防止警報システムを解除します。

▶ **キーを操作して警報を停止する：**キーの [解錠] または [施錠] ボタンを押します。

または

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

または

▶ **キーレスゴーで警報を停止する：**エンジンスイッチを押します。キーは車内にある必要があります。

または

▶ キーレスゴーで車を施錠/解錠します。キーは車外にある必要があります。

エマージェンシーキーで車を解錠しても、燃料給油口は自動的に解錠されません。

▶ **燃料給油口を解錠する：**エンジンスイッチにキーを差し込みます。

エマージェンシーキーの取り外し

▶ ストッパー ① を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② をキーから矢印の方向に抜きます。

キーの電池

重要な安全上の注意

⚠ 警告

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。 子供の手の届かないところに保管してください。

誤って電池を飲み込んでしまったときは、直ちに医師の診断を受けてください。

環境保護に関する注意

電池には環境汚染物質が含まれています。 電池を家庭用ゴミとして廃棄することは法律で禁じられています。 使用済みの電池は個別に回収し、環境に適合するリサイクル方法で処分してください。

電池は環境に配慮した方法で廃棄してください。 使用済みの電池は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお持ちいただくか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

バッテリーの交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

電池点検

▶ 🔒 または 🔓 ボタンを押します。
キーの表示灯 ① が軽く点灯すれば、電池は正常です。
キーの表示灯 ① が点滅しない場合は、電池が消耗しています。

▶ 電池を交換してください (▷ 79 ページ) 。

ℹ 信号の到達範囲内でキーの電池を点検したときは、 🔒 または 🔓 ボタンを押します：

- 車の施錠
- 車の解錠

ℹ 電池に関する詳細はメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

電池交換

CR 2025 3 V の電池が必要です。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▷ 78 ページ) 。

▶ エマージェンシーキー ② を図の位置に差し込み、電池収納部カバー ① が浮き上がるまで矢印の方向に押します。 このとき、指で電池収納部カバー ① を押さえないようにしてください。

▶ 電池収納部カバー ① を取り外します。

- ▶ キーを裏返して手の平に載せ、電池 ③ が外れるまでキーを軽くたたきます。
- ▶ 電池のプラス（+）面を上にして、新しい電池を取り付けます。このとき、毛羽立ちのない布で電池を持つようにしてください。
- ▶ 電池の表面に糸くず、脂分、汚れが付着していないことを確認してください。
- ▶ 電池収納部カバー ① の前側にある凸部をキーに差し込んでから、カバーを押して閉じます。
- ▶ エマージェンシーキー ② をキーに収納します。
- ▶ キーのすべてのボタンが正常に機能することを確認します。

キーの不具合

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
キーで車両を施錠/解錠できない。	キーの電池が消耗している。 ▶ リモコン機能で再度車両の施錠/解錠を行なってください。 キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から 🔓 または 🔒 ボタンを押してください。 それでも施錠/解錠できない場合 ▶ キーの電池(▷ 79 ページ)を点検し、必要に応じて、交換してください。(▷ 79 ページ) ▶ エマージェンシーキーで車両を施錠(▷ 83 ページ)または解錠(▷ 83 ページ)してください。
	キーが故障している。 ▶ エマージェンシーキーで車両を施錠(▷ 83 ページ)または解錠(▷ 83 ページ)してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
キーレスゴー操作で施錠/解錠できない。	強い電波などの干渉を受けている。 ▶ リモコン機能で車両を施錠/解錠してください。 キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から 🔓 または 🔒 ボタンを押してください。
	キーレスゴーが故障している。 ▶ リモコン機能で車両を施錠/解錠してください。 キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から 🔓 または 🔒 ボタンを押してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーレスゴーの点検を受けてください。 それでも施錠/解錠できない場合 ▶ キーの電池(▷ 79 ページ)を点検し、必要に応じて、交換してください。(▷ 79 ページ) ▶ エマージェンシーキーで車両を施錠(▷ 83 ページ)または解錠(▷ 83 ページ)してください。

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
キーを紛失した。	▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、紛失したキーを無効にしてください。 ▶ 直ちに自動車保険会社へキー紛失についてを報告してください。 ▶ 必要に応じて、キーシリンダーも新品と交換してください。
エマージェンシーキーを紛失した。	▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失についてを報告してください。 ▶ 必要に応じて、キーシリンダーも新品と交換してください。
キーによるエンジン始動ができない。	バッテリーの電圧が非常に低下している。 ▶ シートヒーター、ルームライトなどの必ず必要としない電気装備を停止してから、再度エンジン始動操作を行なってください。 それでも施錠/解錠できない場合 ▶ スターターバッテリーを点検し、必要に応じて、交換してください。(▷ 234 ページ) または ▶ ジャンプスタートを行なってください。(▷ 236 ページ) または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
キーレスゴーによるエンジン始動ができない。キーが車内にある。	ドアが開いている。そのため、キーが感知されにくくなっている。 ▶ ドアを閉じてから、再度始動操作を行なってください。
	強い電波などの干渉を受けている。 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで、始動操作を行なってください。

ドア

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

子供だけを残して車から離れないでください。

- 施錠されていても、車内からドアが開くおそれがあります。
- 車内に残されたキーでエンジンが始動するおそれがあります。
- パーキングブレーキが解除されるおそれがあります。

子供だけでなく、周りの人も傷害を負うおそれがあります。 子供だけを車内に残さないでください。 ごく短時間でも、車から離れるときは必ずキーを携帯してください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 車内からドアを解錠して開く
- 車内からのリモートコントロールセントラルロック
- 車速感応ドアロック
- サーボロック
- 運転席ドアの解錠（エマージェンシーキー）
- 車両の施錠（エマージェンシーキー）

トランク

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

エンジンがかかっていて、トランクリッドが開いている場合は排気ガスが車内に入り込むことがあります。従って、エンジンがかかっているときはトランクリッドが常に閉じていることを確認してください。

! トランクは、上方に開きます。 そのため、トランクを開くときは、上方に十分なスペースがあることを確認してください。

! 必ずルーフが完全に下降してから、トランクを閉めてください。これを守らないと、ルーフが損傷するおそれがあります。

ℹ トランクリッドの開いたときの寸法 (▷ 270 ページ)

ℹ 荷物の出し入れを容易にするため、トランクリッドを開いた後にローディングアシストを利用して、格納されたルーフを上昇させることができます。また、ラゲッジカバーも開くことができます。荷物の出し入れが終わったら、必ずラゲッジカバーを閉じてください。ラゲッジカバーが開いていると、ルーフを下げることができなくなります。

停車中でルーフが完全に開いている、または閉じているとき、トランクリッドを解錠することができます。

トランクの中にキーを残したままにしないでください。外に閉め出されるおそれがあります。

トランクリッドは、以下の方法で操作できます。

- 車外から開閉する
- 車外から自動で開ける（自動開閉トランクリッド非装備車）
- 車外から自動で開閉する（自動開閉トランクリッド装備車）
- 車外から開閉する（キーレスゴーおよびハンズフリーアクセスの装備車）
- 車内から自動で開閉する（自動開閉トランクリッド装備車）
- 独立施錠する
- エマージェンシーキーで解錠する

車外からの開閉

開く

▶ キーの🔓ボタンを押します。

▶ ハンドル①を引きます。

▶ トランクリッドを引き上げます。

ℹ ルーフのオープン時は、イージーパック(▷ 208 ページ)を利用してトランク内に格納されたルーフを上昇させることで、荷物をスムーズに出し入れできます。 そのために、ラゲッジカバーも開くことができます。

荷物の出し入れが終わったら、忘れずにラゲッジカバーを再び閉じてください。ラゲッジカバーが開いていると、ルーフを閉じることができなくなります。

閉じる

⚠ 警告

トランクリッドを閉じるときは、身体を挟まないように十分注意してください。

▶ 凹部 ① に手をかけて、トランクリッドを引き下げます。

▶ 必要であればキーの 🔒 スイッチか、キーレスゴーで車両を施錠します。

ℹ キーレスゴーキーがトランク内にあるときは、トランクリッドは施錠させません。 再び開きます。

車外からの自動開閉

重要な安全上の注意

⚠ 警告

トランクリッドを開閉するときは、周囲の安全を確認し、身体や物を挟まないように注意してください。 開閉操作を停止するには、トランクリッドのクローザースイッチをもう一度押すか、トランクリッドの外側にあるハンドルを引いてください。

! トランクは、上方に開きます。 そのため、トランクを開くときは、上方に十分なスペースがあることを確認してください。

ℹ トランクリッドの開いたときの寸法(▷ 270 ページ)

開く

キーまたはトランクリッドのハンドルを操作して、トランクリッドを自動で開くことができます。

▶ トランクリッドが開くまで、キーの ⊐ ボタンを押し続けます。

または

▶ トランクリッドが解錠されているときは、トランクハンドルを手前に引いてすぐに手を放します。

閉じる

▶ **閉じる：** トランクリッドのトランククローザースイッチ ① を押します。

自動開閉トランクリッドおよびキーレスゴーの装備車は、トランクリッドを閉じて施錠することができます。

▶ トランクリッドのロックスイッチ ② を押します。
キーレスゴーキーが車外にあるときは、トランクリッドが閉じて施錠されます。

ⓘ キーレスゴーキーがトランク内にあるときは、トランクリッドは施錠させません。再び開きます。

ハンズフリーアクセス

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

ハンズフリーアクセス機能を利用してトランクリッドを自動で開閉するときに、身体などを挟むおそれがあります。 けがをするおそれがあります。 トランク開閉時には手や身体などを挟まないように注意してください。

トランクリッド開閉時、車両の後部周辺から目を離さないようにしてください。身体や手などを挟まれないように注意してください。

開閉操作を停止させる：

- バンパー下のセンサー検知部で足を動かす
- トランクリッド外側のハンドルを手前に引く
- トランクリッド内側のトランククローザースイッチを押します。または、
- キーの [⊇] ボタンを押します。

トランクリッドのクローズ操作が停止したとき：

- バンパー下部で再度足を動かすと、トランクリッドが開きます。

トランクリッドのオープン操作が停止したとき：

- バンパー下部で再度足を動かすと、トランクリッドが閉じます。

⚠ **警告**

バンパー下で足を動かすと、高温の排気システムで火傷する可能性があります。足を動かす動作は、センサーの検知部でのみ行ってください。

! キーレスゴーキーがキーレスゴーアンテナの検知範囲にある場合、以下の状況で不意にトランクが開く場合があります

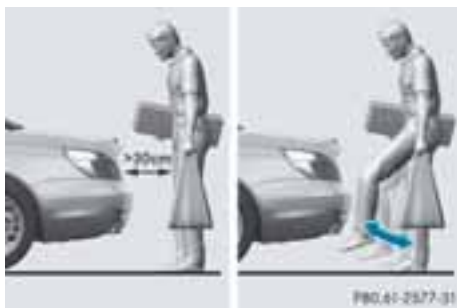
- 洗車機の使用
- 高圧式スプレーガンの使用

キーが車両より最低約 2 m 離れていることを確認してください。

ハンズフリーアクセスの使用に関する重要な注意事項：

- キーレスゴーとハンズフリーアクセスの機能を利用して、手を使わずにトランクリッドを開閉したり、開閉操作を停止させることができます。荷物などで両手がふさがれているときなどに便利な機能です。バンパーの下で足を動かすだけで、この機能を利用できます。
- エンジンスイッチからキーを抜きます。

- キーレスゴーを使用して、エンジンスイッチがオフになっていることを確認します。(▷ 120 ページ)
- キーレスゴーキーを携帯してください。キーは必ず車両の後ろ周辺にあるようにしてください。
- 足を動かす動作を行う場合、地面にしっかりと立っていてください。凍結している路面などで、バランスを崩すおそれがあります。
- このとき、車の後部周辺から最低約 30 cm 離れてください。
- 足を動かす動作中、バンパーと接触しないようにしてください。センサーが正しく作動せず、服が汚れるおそれがあります。
- ハンズフリーアクセスは義足では作動しません。

操作

▶ **開閉する：** バンパー下のセンサー検知範囲 ① 内に足を動かします。この動作を行うとき、バンパーと接触する必要はありません。
トランクリッドの開閉時、警告音が鳴ります。

▶ **何度試みても、トランクリッドが開かないとき：** 10 秒間待ち、その後もう一度バンパーの下で足を動かしてください。

ℹ バンパー下部に足を踏み入れる時間が長すぎると、トランクリッドは開閉しません。この場合は、より素早くバンパー下部に足を踏み入れてください。

車内からの自動開閉

重要な安全上の注意

⚠ **警告**
トランクリッドを閉じるときは、周囲の安全を確認し、身体などを挟まないように十分注意してください。 障害物があるときは、ドアのトランクスイッチから手を放してクローズ操作を停止させます。

❗ トランクは、上方に開きます。 そのため、トランクを開くときは、上方に十分なスペースがあることを確認してください。

ℹ トランクリッドを開いたときの寸法については、"サービスデータ" の (▷ 270 ページ)をご覧ください。

開閉

- **開く：** トランクリッドが開くまで、トランクスイッチを ① を引き続けます。
- **閉じる：** トランクリッドが閉じるまで、トランクスイッチ ① を押し続けます。

停車中に車が解錠されているときは、運転席からトランクリッドを開閉できます。

トランクの独立施錠

トランクの独立施錠機能は、特定の国でのみ使用できます。

トランクを独立施錠することができます。 トランクを独立施錠しているときは、セントラルロックシステムで車を解錠しても、トランクは施錠されたままで開くことはできません。

- トランクリッドを閉じます。
- キーからエマージェンシーキーを取り外します (▷ 78 ページ) 。

- エマージェンシーキーをトランクリッドのキーシリンダーに確実に差し込みます。
- エマージェンシーキー を時計回りにまわして、 1 の位置から 2 の位置にします。
- エマージェンシーキーを抜きます。
- エマージェンシーキーをキーに収納します。

トランクの解錠（エマージェンシーキー）

! トランクは、上方に開きます。 そのため、トランクを開くときは、上方に十分なスペースがあることを確認してください。

キーまたはキーレスゴー操作でトランクを施錠できないときは、エマージェンシーキーを使用します。

エマージェンシキーでトランクリッドを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。 (▷ 72 ページ)

- キーからエマージェンシーキーを取り外します (▷ 78 ページ) 。
- エマージェンシーキーをトランクリッドのキーシリンダーに確実に差し込みます。

- エマージェンシーキーを反時計回りにまわして、 1 の位置から 2 の位置にします。
- トランクハンドルを手前に引きます。トランクが解錠されます。
- エマージェンシーキーを元の位置 1 に戻して、抜き取ります。
- エマージェンシーキーをキーに収納します。

サイドウインドウ

重要な安全上の注意

⚠ 警告

サイドウインドウを開くときは、身体などがサイドウインドウとドアフレームの間に挟まれないように注意してください。 また、サイドウインドウが開いているときにサイドウインドウに触れたり、身体を寄りかけないでください。 サイドウインドウとドアフレームの間に身体が引き込まれて、けがをするおそれがあります。 挟まれそうになったときは、ただちにスイッチを指から放すか、またはスイッチを引き上げて、サイドウインドウを上昇させてください。

⚠ 警告

サイドウインドウを閉じるときは、身体などを挟まないように注意してください。 挟まれそうになったときは、ただちにスイッチを指から放すか、再びスイッチを押し上げて、サイドウインドウを開いてください。

⚠ 警告

思わぬけがの原因となりますので、子供にサイドウインドウを操作をさせないでください。

決して子供だけを車内に残して車から離れないでください。 車から離れるときは、短時間であっても必ずキーをお持ちください。

⚠ 警告

子供がチャイルドセーフティシートに着座している場合でも、子供だけを車内に残して車両から離れないでください。 子供が以下のような傷害を負うおそれがあります。

- 運転装置など車両の各部に触れて重傷や致命的な傷害を受けるおそれがあります。
- 車内が高温または低温になると、命に関わるおそれがあります。

子供がドアを開くと、以下のような危険性があります。

- 周囲の人に重傷や致命的なけがを負わせるおそれがあります。
- 子供が車外に出てけがをしたり、通行車にはねられ重傷または致命的な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 警告

吸盤にはレンズと同じ効果があり、熱を集中させます。 その結果、車両に引火するおそれがあります。

そのため、吸盤の付いた物をウインドウに取り付けないでください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- サイドウインドウの開閉
- すべてのサイドウインドウの開閉
- サイドウインドウのリセット

サイドウインドウの不具合

⚠ **警告**

挟み込み防止機能が作動しない状態で、またはより強い力でサイドウインドウが閉じると、重傷または致命的な傷害を受けるおそれがあります。 サイドウインドウを閉じるときは、身体などを挟まないように注意してください。

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ガイドレールなどに落ち葉などの障害物が挟まっているため、サイドウインドウが全閉しない。	▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ サイドウインドウを閉じます。
サイドウインドウが全閉しないが、原因がわからない。	サイドウインドウを閉じているとき、ウインドウが障害物を検知して停止し、その位置から少し下降した場合は、以下の操作を行なってください。 ▶ その状態からただちに再度スイッチを引き続けて、サイドウインドウを閉じます。 サイドウインドウは、より強い力で閉じます。 サイドウインドウを閉じているときに、ウインドウが再度障害物を検知して停止し、その位置から少し下降した場合は、以下の操作を行なってください。 ▶ その状態からただちに再度スイッチを引き続けて、サイドウインドウを閉じます。 サイドウインドウは挟み込み防止機能が作動しない状態で閉じます。

ルーフ

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

走行する前に、必ずルーフを完全に開閉してください。

ルーフが完全に開閉していないときは、ルーフ油圧装置の圧力が低下し、以下のタイミングでルーフが下降します。

- エンジンスイッチをオンにしたときは、約 7 分後
- エンジンスイッチをオフにしたときは、約 15 秒後

ルーフが下降し始める前に、警告音が数秒間鳴ります。 マルチファンクションディスプレイに、[車マーク] マークおよび バリオルーフの開閉が完了していません というメッセージが表示されます。

走行を続ける前に、再度ルーフをロックしてください。 ロックされていないルーフが走行中に開き、車のコントロールを失う原因になります。 そのため、運転者や乗員がけがをするおそれがあります。

⚠ **警告**

ルーフを手動で閉じる作業には、複雑で専門的な技術が要求されます。 ルーフを

手動で閉じようとすると、ルーフを損傷したり、けがをする原因になります。

そのため、ルーフを手動で閉じるときは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業を行なってください。

! 決してリアコンパートメントトリムに腰をかけたり、重い荷物を載せたりしないでください。ルーフやリアコンパートメントトリムを損傷するおそれがあります。

! 天候は突然変化することがあります。車から離れるときは、ルーフが確実に閉じていることを確認してください。車内に水などが入ると、車両の電子制御部品を損傷するおそれがあります。

! ルーフを開閉するときは、以下の点に注意してください。

- ルーフは上方に動くため、上方に十分な空間があることを確認してください。
- トランクリッドはバンパーよりも後方に開くため、車両後方に十分な空間があることを確認してください。
- トランクに荷物を積むときは、ラゲッジカバーの高さを超えないようにします。
- ラゲッジカバーが荷物で持ち上がらないようにします。
- ラゲッジカバーを確実に閉じます。
- トランクリッドが閉じていること
- 外気温度が約 - 15 ℃以上であること

上記の点に注意して操作しないと、ルーフやトランク、他の車両部品を損傷するおそれがあります。

i ルーフを開く前に、ルーフとリアウインドウが濡れたり汚れたりしていないことを確認してください。車内やトランクに水滴やごみなどが入るおそれがあります。

ルーフスイッチによる開閉

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

ルーフを開閉するときは、トランクリッドやルーフヒンジ、ルーフリンケージなど、作動する部分に身体などが挟まれてけがをしないように注意してください。

挟まれそうになったときは、すぐにルーフスイッチから手を放してください。ルーフの開閉はただちに停止します。

開閉

- ▶ 車両が動き出さないように固定してください。（▷ 129 ページ）
- ▶ ラゲッジカバーを閉じます。（▷ 92 ページ）
- ▶ トランクリッドを閉じます。
- ▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。
- ▶ センターコンソールのカバーを開きます。
  ルーフスイッチ ① はカバーの下にあります。
- ▶ **開く：** ルーフがトランク内に完全に格納され、マルチファンクションディスプレイの ルーフ開閉中 というメッセージが消えるまで、ルーフスイッチ ① を引き続けます。
  フロントサイドウインドウが閉じます。リアサイドウインドウが開きます。

- ▶ **閉じる：** ルーフが完全に閉じ、マルチファンクションディスプレイの ルーフ開閉中 というメッセージが消えるまで、ルーフスイッチ ① を押し続けます。
  サイドウインドウがすべて閉じます。
- ▶ すべてのサイドウインドウが完全に閉じていることを確認してください。

キーによる開閉

重要な安全上の注意

> ⚠ **警告**
>
> ルーフを開閉するときは、トランクリッドやルーフヒンジ、ルーフリンケージなどの可動部品に身体などが挟まれてけがをしないように注意してください。
>
> 身体などが挟まれそうなときは、ただちにキーの [解錠] または [施錠] ボタンから手を放してください。 ルーフ格納機構がすみやかに停止します。

開閉

- ▶ ラゲッジカバーを閉じます。 (▷ 92 ページ)
- ▶ トランクリッドを閉じます。 (▷ 83 ページ)
- ▶ **キーレスゴー非装備車：** キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向けます。
- ▶ **キーレスゴー装備車：** キーは車両から約 2 m 以内の範囲にある必要があります。
- ▶ **開く：** ルーフが完全に開くまでキーの [解錠] ボタンを押します。
  ルーフおよびリアサイドウインドウが開きます。 フロントサイドウインドウが閉じます。
- ▶ **オープニング機能を中断する：** [解錠] ボタンから手を放します。
- ▶ **フロントサイドウインドウを開く：** 再度キーの [解錠] ボタンを押し続けます。
- ▶ **閉じる：** ルーフが完全に閉じるまでキーの [施錠] ボタンを押します。
  ルーフおよびサイドウインドウが閉じます。
- ▶ **クロージング機能を中断する：** [施錠] ボタンから手を放します。

ⓘ ルーフが閉じてラゲッジカバーが開いているときは、キーを操作してルーフを開くことはできません。 その代わりに、すべてのサイドウインドウが自動で開閉します。 (▷ 88 ページ)

ルーフの再施錠

重要な安全上の注意

ルーフは、以下のときは施錠されません。

- マルチファンクションディスプレイに、[車両マーク] マークおよび バリオルーフ開閉中 というメッセージが表示されたとき
- [車両マーク] マークおよび バリオルーフが完全に開閉されていません というメッセージが表示され、警告音が鳴ったとき
- 発進時または走行中に警告音が約 10 秒間鳴ったとき

施錠する

ルーフが確実に施錠されていないときは、再び施錠することができます。

- ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。
- ▶ イグニッション位置が **2** であることを確認してください。
- ▶ ルーフスイッチを押します。 (▷ 90 ページ)

開閉

ラゲッジカバー

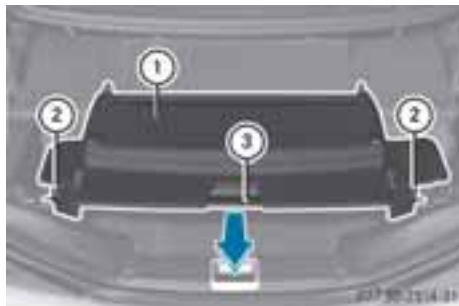
全体的な注意事項

! ルーフ格納時にルーフや荷物が損傷するのを防ぐため、以下の点にご注意ください。

- トランクに荷物を積むときは、ラゲッジカバーより高く積み上げないでください。
- ラゲッジカバーの上または前に物を置かないでください。
- ロールバー後方のカバーの上に物を置かないでください。
- 荷物がラゲッジカバーを押し上げないようにしてください。

! ラゲッジカバーが閉じていることを確認してください。 ルーフの開閉を妨げるおそれがあります。

ラゲッジカバーは、トランク内の荷物や積載物をカバーするために使用します。

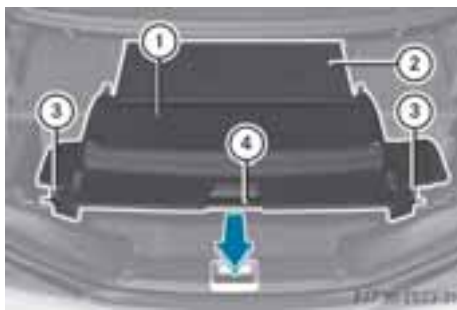
開閉

ラゲッジカバーを閉じた状態

▶ **閉じる：** ハンドル③を持って、ラゲッジカバー ① を矢印の方向に引き出します。

▶ ラゲッジカバー ① をサイドパネルの固定用フック ② に掛けます。

▶ **開く：** サイドパネルの固定用フック② からラゲッジカバー ① を取り外します。

▶ ハンドル ③ を持って、ラゲッジカバー ① を矢印の方向に押します。

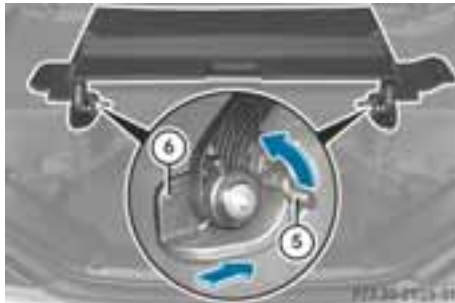
取り外し / 取り付け

ラゲッジカバーを閉じた状態

▶ **取り外す：** 左右のホルダーからネット ② のフックを外し、完全に巻き上がるまで後方にずらします。

▶ ラゲッジカバー ① をサイドパネルの固定用フック ③ から取り外します。

▶ ハンドル ④ を持って、ラゲッジカバー ① を矢印と反対の方向に押します。

開いたラゲッジカバー

- 運転席側のキャッチレバー ⑤ を矢印の方向にまわします。
- 同じ手順を助手席側のキャッチレバーでも繰り返します。
  ラゲッジカバー ① のロックが外れます。
- ラゲッジカバー ① を矢印の方向に引き出します。

- **取り付ける：** ラゲッジカバー ① のガイド ⑥ をブラケットに挿入します。
- ラゲッジカバー ① をいっぱいまでスライドします。
- 運転席側のキャッチレバー ⑤ を矢印の方向にまわします。
- 同じ手順を助手席側のキャッチレバーでも繰り返します。
  ラゲッジカバー ① のロックが外れます。
- ハンドル ④ でラゲッジカバー ① を矢印の方向に引きます。
- ラゲッジカバー ① をサイドパネルの固定用フック ③ に掛けます。
- ネット ② を前方に引き、ホルダーの左右に掛けます。

ドラフトストップ

手動式ドラフトストップ

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

周囲が暗いときや視界の悪い状況でドラフトストップを使用すると、後方の視界が損なわれます。 視界が低下すると、車のコントロールを失い、思わぬ事故を起こしたり、乗員がけがをするおそれがあります。 そのため、周囲が暗くなったときや視界が遮られるときは、すみやかにドラフトストップを格納してください。

⚠ **警告**

走行中にドラフトストップを操作すると、車のコントロールを失い、乗員がけがをするおそれがあります。

ドラフトストップの脱着は、必ず停車中に行なってください。

⚠ **警告**

ドラフトストップが正しく装着されていないと、ドラフトストップが破損し外れて後続車の交通の妨げとなり、事故につながるおそれがあります。

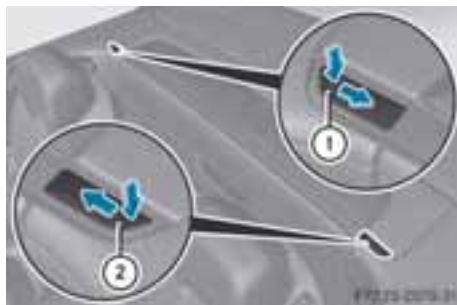
ルーフを開いて走行する前に、必ずドラフトストップが確実に装着されていることを確認してください。

! ドラフトストップの脱着作業は、必ずルーフが開いているときに行なってください。 ドラフトストップや車内部品に損傷を与えるおそれがあります。

ドラフトストップは、オープン走行時に車内への風の巻き込みを減少させます。

ドラフトストップは、運転席側または助手席側から脱着することができます。 これを行なう場合には、もう一人の人に補助してもらうことをお勧めします。

ドラフトストップに関わる作業は、停車後にできれば歩道に近い側から、道路や交通状況に注意しながら行なってください。

取り付けおよび取り外し

ドラフトストップのリアブラケット

- **取り付ける**：ルーフを開きます。(▷ 90 ページ)
- カバー①のマーク部を矢印の方向に押します。
- カバー②でも同様の作業を行ないます。
  ドラフトストップ③のリアブラケットが見えます。

- ドラフトストップ③が収納されていることを確認します。
- ドラフトストップ③のカバー⑥の上半分を押します。
- 左側のカバーでも同様の操作を行います。
  ドラフトストップ③のロックが解除されます。
- ドラフトストップ③を斜めに保持し、ピン④をリアブラケットに挿入します。
  ピン④がブラケットに確実に取り付けられているか確認します。
- ドラフトストップ③をフロントブラケット⑤に差し込みます。
- ドラフトストップ③が 4 個のブラケットすべてに確実に装着されているか確認します。
- ドラフトストップ③のカバー⑥の下半分を押します。
  ドラフトストップ③がロックされます。
- 必要であれば、ドラフトストップ③を展開します。
- **取り外す**：ドラフトストップ③が収納されていることを確認します。
- ドラフトストップ③のカバー⑥の上半分を押します。
  ドラフトストップ③のロックが解除されます。
- まず、ドラフトストップ③をフロントブラケット⑤から取り外します。
- ドラフトストップ③を斜めに保持し、次にリアブラケットから取り外します。
- リアブラケットのカバー①および②を矢印と反対の方向にスライドして、確実に閉じます。

電動式ドラフトストップ

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

周囲が暗いときや視界の悪い状況でドラフトストップを使用すると、後方の視界が損なわれます。 視界が低下すると、車のコントロールを失い、思わぬ事故を起

こしたり、乗員がけがをするおそれがあります。 そのため、周囲が暗くなったときや視界が遮られるときは、すみやかにドラフトストップを格納してください。

! ドラフトストップを展開または格納するときは、リアコンパートメントトリムに荷物などがないことを確認してください。 障害物があると、ドラフトストップを損傷するおそれがあります。

ドラフトストップは、オープン走行時に車内への風の巻き込みを減少させます。ドラフトストップを展開するときは、ルーフを完全に開いておく必要があります。

展開および収納

- ルーフを開いてください。 (▷ 89 ページ)
- センターコンソールのカバーを開きます。
  電動式ドラフトストップのスイッチは、カバーの下にあります。

- **展開する：** スイッチ①を押します。
- **収納する：** 再度スイッチ①を押します。

ガラスルーフのサンシェード

電動ブラインドは、ガラスルーフから入る直射日光を遮り、眩しさや車内温度の上昇を抑えます。

- **閉じる：** ハンドル ① を持って、電動ブラインドを矢印の方向にスライドします。
- **開く：** ハンドル ① を持って、電動ブラインドを矢印と反対の方向にスライドします。

マジックスカイコントロール

全体的な注意事項

マジックスカイコントロールは、電気的に透明度を変化させることができるガラスルーフです。

マジックスカイコントロールは、スイッチ操作でガラスルーフを透明、半透明の状態に切り替えることができます。

i キーをまわしてイグニッション位置を 0 にするか、エンジンスイッチからキーを抜いたとき、マジックスカイコントロールは自動的に半透明に切り替わります。

感電のおそれがあります

⚠ **危険**

マジックスカイコントロールの電気装備には高電圧が発生しています。

ルーフオペレーティングユニットのカバーが損傷したり、取り外した場合は、マジックスカイコントロールの電気構成部品が露出します。 これらの構成部品には高電圧が作用している場合があります。万一これらの構成部品に触れると、感電して致命的な傷害を負うおそれがあります。
そのため、絶対にルーフオペレーティングユニット裏側のカバーを取り外さないでください。 また、電気装備の構成部品（コントロールユニット、ケーブル、またはケーブル接続部）には決して触れないように注意してください。
マジックスカイコントロールに関わる作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

マジックスカイコントロールの構成部品は、ルーフオペレーティングユニット裏側のカバーで保護されています。

マジックスカイコントロールのコントロールユニットには、黄色の高電圧ステッカーが貼られています。 高電圧ケーブルの色はオレンジです。

マジックスカイコントロールの操作

▶ イグニッション位置を 1 または 2 にします。
マジックスカイコントロールは、エンジンを停止する前に設定されていた状態に切り替わります。

▶ **透明度を切り替える：** スイッチ ① を押します。

ℹ 気温が氷点下以下のときは、透明度の切り替わる速度が遅く不安定になります。 システム全体の作動にやや時間がかかることがあります。

ルーフの不具合

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ルーフが開閉しない。	ラゲッジカバーが所定位置にない。 ▶ ラゲッジカバーを閉じます。（▷ 92 ページ）
	トランクリッドが開いている。 ▶ トランクリッドを閉じます。（▷ 84 ページ）
	バッテリーの電圧が低下している ▶ エンジンを始動させてください。
	ルーフの開閉操作が連続して数回行なわれた。ルーフドライブが自動的に解除されている。 約 10 分後に再度ルーフを開閉することができます。 ▶ エンジンスイッチをいったんオフにし、再びオンにしてください。 ▶ 開閉操作を繰り返します。
	ルーフの開閉機構が故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 27 ページ)

運転席のシートポジション

運転席シートの位置については、以下のテーマに関する安全上の注意を守ってください。

- シート (▷ 100 ページ)
- ステアリング (▷ 102 ページ)
- シートベルト (▷ 50 ページ)

以下に関する情報は、デジタル版取扱説明書に記載されています。

- シートおよびステアリングの調整
- シートベルトの着用

シート

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

シートは、キーを抜いても位置の調整ができます。そのため、子供だけを車内に残して車両から離れないでください。シートを調整することで身体を挟まれるおそれがあります。

⚠ **警告**

走行中は運転席シートを調整しないでください。運転に集中できなくなったり、シートが動いて車両のコントロールを失うことがあります。その結果、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **警告**

シートの高さは慎重に調整しないと、挟み込んで負傷するおそれがあります。 とくに子供は、電動シート調整スイッチを誤って押してしまい、挟み込まれるおそれがあります。

注意：

- シートを動かしている間は、シート調整システムのレバー部品の下に手を入れないでください。
- 車内の子供が機械部分の下に手を入れないようにしてください。

⚠ **警告**

シートを調整するときは、挟み込みがないことを確認してください。

エアバッグに関する注意事項をご覧ください。

子供は安全に乗車させてください。"子供を乗せるとき"をご覧ください。

⚠ **警告**

ヘッドレストの中央が目の高さにあり、後頭部が支えられていることを確認してください。頭部がヘッドレストによって正しく支えられていないと、事故のとき、首に重大な負傷をするおそれがあります。ヘッドレストが装着されていないときや

正しく調整されていないときは、決して走行しないでください。

⚠ 警告

シートベルトはバックレストがほぼ垂直で、乗員がまっすぐに座っているときのみ、想定された保護の効果を発揮することができます。シートの位置はシートベルトが正しく装着できるようにしてください。バックレストをできるだけ垂直に調整してください。バックレストを後方に寝かせた状態で絶対に走行しないでください。事故のとき、または急ブレーキ時などに重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

! シートとシートヒーターの損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- シートに液体をこぼさないでください。 シートに液体をこぼしたときは、すみやかに乾燥させてください。
- シートカバーが濡れたときは、シートヒーターを使用しないでください。シートを乾燥させるためにシートヒーターを使用しないでください。
- シートカバーを清掃してください。"日常の手入れ"をご覧ください。
- シートの上に重い物を載せないでください。 また、シートクッションの上にナイフやくぎ、工具などの鋭利な物を置かないでください。 シートはできるだけ人を乗せるためだけに使用してください。
- シートヒーターの使用中は、ブランケットやコート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシート、補助シートなどにより、シートを覆わないでください。

! シートの前後位置を調整するときは、足元やシート後方に物がないことを確認してください。 シートや物を損傷するおそれがあります。

ℹ ヘッドレストは、取り外せません。

詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

デジタル版取扱説明書の情報

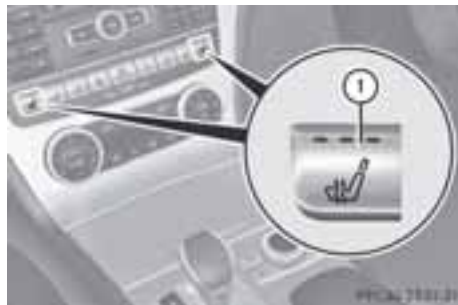
デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- シートの調整
- ヘッドレストの調整
- マルチコントロールシートバックの調整
- 電動ランバーサポートの調整
- シートベンチレーターのオン / オフ
- エアスカーフ

シートヒーターの使用

機能のオン / オフ

⚠ 警告

シートヒーターを連続して使用すると、シートが異常に過熱するおそれがあります。高温により、温度変化を感知できにくい乗員や、異常な高温にも対処できない乗員の健康に悪影響を与えたり、低温火傷を起こすおそれがあります。 したがって、シートヒーターを連続して使用しないでください。

運転席シートと助手席シートのスイッチ

スイッチの 3 つの赤い表示灯は、選択したレベルを表します。

約 8 分後にレベル **3**（強）から **2**（中）へ自動的に切り替わります。

約 10 分後にレベル **2**（中）から **1**（弱）へ自動的に切り替わります。

レベル **1** に設定した約 20 分後に、システムは自動的に停止します。

COMAND システムを使用して、シートクッションとバックレストの暖房部分の配分を設定できます。デジタル版取扱説明書の"シートバランス（シートヒーター）"をご覧ください。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ **オンにする：**お好みのヒーターレベルになるまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

▶ **オフにする：**表示灯が消灯するまで、シートベンチレータースイッチ ① を繰り返し押します。

ℹ バッテリー電圧が低くなると、シートヒーターが停止することがあります。

シートヒーターが作動しないとき

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

ステアリング

重要な安全上の注意

⚠ 警告

ステアリングの調整は停車中にのみ行なってください。走行中にステアリングの調整を行なうと、車両のコントロールを失うおそれがあります。

電動調整式ステアリングは常時調整することができます。そのため、子供だけを車内に残したり、施錠していない車に子供を近づけないでください。子供が誤って車両に近づくと思わぬ事故や重大なけがをする原因となります。

ステアリングのパッド部にエアバッグが格納されています。"エアバッグ"の注意事項も守ってください (▷ 44 ページ)。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下のテーマに関する情報が記載されています。

- ステアリング位置の調整
- イージーエントリー機能

ミラー

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- ドアミラー
- 自動防眩ルームミラー＆ドアミラー（運転席側）
- 助手席側ドアミラーの駐車時の位置

メモリー機能

デジタル版取扱説明書には、以下のテーマに関する情報が記載されています。

- メモリーの設定
- 記憶した位置を呼び出す

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 27 ページ)

ライト

全体的な注意事項

昼間にライトを点灯せずに走行したい場合は、マルチファンクションディスプレイで"デイタイムドライビングライト"の設定をオフにしてください (▷ 159 ページ)。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- 非常点滅灯
- ヘッドライトウォッシャー
- ヘッドライト内面の曇り

ライトの設定

設定方法

ライトは以下を操作して設定できます。

- ライトスイッチ
- コンビネーションスイッチ (▷ 106 ページ)
- マルチファンクションディスプレイ (▷ 159 ページ)

ランプスイッチ

操作

1 左側パーキングランプ
2 右側パーキングランプ
3 サイドランプ、ライセンスプレートおよびメーターパネル照明
4 AUTO ヘッドライトのオートモード（ライトセンサーによる制御）
5 ロービーム / ハイビームヘッドライト
⑥ リアフォグランプ

車から離れるときに警告音が鳴る場合は、ライトを消し忘れている可能性があります。

▶ ライトスイッチを AUTO にまわします。

車外ライト（サイドランプ / パーキングライト以外）は、以下の操作を行なうと自動的に消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜き取ったとき
- キーが 0 の位置で運転席ドアを開いたとき

ヘッドライトのオートモード

⚠ **警告**

ライトスイッチを AUTO に設定しているときは、霧、雪、または霧雨のような天候状態のために視界を悪くする他の原因がある場合は、ロービームヘッドライト

が自動的にオンにならないことがあります。事故の危険性があります。
このような状況のときは、ライトスイッチを [ロービーム] にまわします。

ライトのオートモードはあくまでも運転者を支援する機能です。ライトの点灯／消灯に関する責任は運転者にあります。

通常は、ライトスイッチを AUTO に設定することをお勧めします。ライト設定は、周囲の明るさに応じて以下のように自動的に選択されます（例外：霧、雪、霧雨などの天候による視界不良）。

- エンジンスイッチを **1** の位置にしたとき：周囲の明るさに応じてサイドランプが自動的に点灯または消灯します。
- エンジンがかかっているとき：マルチファンクションディスプレイで"デイタイムドライビングライト"機能を作動させている場合は、デイタイムドライビングライトまたはパーキングランプおよびロービームヘッドライトが周囲の明るさの度合いよって自動的にオンまたはオフに切り替わります。

▶ **ヘッドライトのオートモードをオンにする：** ライトスイッチを AUTO にまわします。

ロービームヘッドライトがオンのときは、メーターパネルの緑色の表示灯 [ロービーム] が点灯します。

ヘッドライト

⚠ **警告**

ライトスイッチを AUTO に設定しているときは、霧、雪、または霧雨のような天候状態のために視界を悪くする他の原因がある場合は、ロービームヘッドライトが自動的にオンにならないことがあります。事故の危険性があります。
このような状況のときは、ライトスイッチを [ロービーム] にまわします。

イグニッションがオンで、ライトスイッチが [ロービーム] の位置にあるときは、ライトセンサーが周囲の明るさの状況が暗いことを感知していなくても、車幅灯とロービームヘッドライトがオンになります。これは、霧や雨のときに有利です。

▶ **ロービームヘッドライトを点灯する：** エンジンスイッチを **2** の位置にするか、エンジンを始動します。

▶ ライトスイッチを [ロービーム] にまわします。
メーターパネルの緑色の表示灯 [ロービーム] が点灯します。

リアフォグランプ

リアフォグランプは、濃霧の交通での車両の視界を改善します。リアフォグランプの仕様についての国別の法律を遵守してください。

▶ **リアフォグランプを点灯する：** エンジンスイッチを **2** の位置にするか、エンジンを始動します。

▶ ライトスイッチを [ロービーム] または AUTO にまわします。

▶ [リアフォグ] スイッチを押す。
メーターパネルの黄色の表示灯 [リアフォグ] が点灯します。

▶ **リアフォグランプを消灯する：** [リアフォグ] スイッチを押します。
メーターパネルの黄色の表示灯 [リアフォグ] が消灯します。

サイドランプ

! バッテリーが過放電すると、次回のエンジン始動を可能にするために、車幅灯またはパーキングランプが自動的に消灯します。法的基準にしたがって車両を安全で十分な明るさのところに常に駐車してください。車幅灯 [車幅灯] を何時間も連続してご使用にならないでください。可能であれば、[P右] 右側または [P左] 左

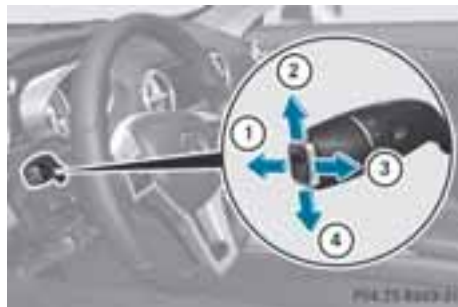
側パーキングランプを点灯してください。

▶ **点灯する：** ライトスイッチを [記号] にまわします。
AMG 車：メーターパネルの緑色の表示灯 [記号] が点灯します。

パーキングランプ

パーキングランプを点灯させると、車両の対応する横側が点灯します。

▶ **パーキングランプを点灯する：** キーがイグニッションに差し込まれていないか、または **0** の位置にあります。
▶ ライトスイッチを [記号]（車両の左側）または [記号]（車両の右側）にまわします。

コンビネーションスイッチ

① ハイビームヘッドライト
② 右側の方向指示灯
③ ヘッドライトのパッシング
④ 左側の方向指示灯

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- 方向指示灯
- ハイビームヘッドライト
- ヘッドライトのパッシング

インテリジェントライトシステム

全体的な注意事項

インテリジェントライトシステムは、実際の走行や天候状況に合わせてヘッドライトを自動的に調整するシステムです。車両速度や天候状況などに応じて路面の照射を向上させる最新機能を提供します。システムには、アクティブライトシステムやコーナリングライト、ハイウェイモード、フォグライト強化機能が含まれます。システムは周囲が暗いときのみ作動します。

マルチファンクションディスプレイを使用して"インテリジェントライトシステム"を作動させたり解除したりできます (▷ 159 ページ)。

アクティブライトシステム

アクティブライトシステムは、前輪のステアリングの動きに合わせて、ヘッドライトを動かすシステムです。 このようにして、走行中は対応する範囲が照射されたままになります。 歩行者、サイクリスト、動物などを認識できます。

以下のときに作動します： ヘッドライトが点灯しているとき。

コーナリングライト

コーナリングライトは、曲がる方向の広い角度にわたる路面の照射を向上させ、急カーブなどでのより良い視界を可能にします。 コーナリングライトは、ヘッドライトがロービームで点灯しているときにのみ作動します。

作動：

- 約 40 km/h 以下の速度で走行していて、方向指示灯を作動させるか、またはステアリングをまわした場合
- 約 40 km/h から 70 km/h の間の速度で走行していて、ステアリングをまわした場合

非作動：約 40 km/h 以上の速度で走行しているか、または方向指示灯をオフにする、またはステアリングを直進位置にまわした場合

コーナリングライトは短時間点灯したままになりますが、約 3 分後に自動的に消灯します。

ハイウェイモード

ハイウェイモードは、ヘッドライトの範囲を広げます。

以下のときに作動します。

- 110 km/h 以上の速度で走行していて、1000 m の間ステアリングを大きく動かしていないとき
- 約 130 km/h 以上の速度で走行しているとき

  この情報はライト機能にのみ適用されます。 走行するときは必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

非作動：作動後に、約 80 km/h 以下の速度で走行しているとき

フォグランプ強化機能

フォグランプ強化機能は運転手の眩しさを軽減し、道路の端の照射を向上させます。

作動： 約 70 km/h 以下の速度で走行していて、リアフォグランプをオンにした場合

非作動： 約 100 km/h 以上の速度で走行しているか、または作動後にリアフォグランプをオフにした場合

この情報はライト機能にのみ適用されます。 走行するときは必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

アダプティブハイビームアシスト

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

アダプティブハイビームアシストは、以下の道路利用者には反応しません。

- 歩行者などライトを持っていないとき
- 自転車にライトが装着されていても、ライトが暗いとき
- ガードレールの後ろにいるなど、道路使用者のライトが遮られているとき

まれに、アダプティブハイビームアシストはライトをもっている道路使用者をまったく検知しなかったり、検知が遅れたりします。 このような場合は、ハイビームヘッドライトが自動で切り替わらなかったり、他の道路使用者がいるときに不意に切り替わる場合があります。 事故の危険性があります。

道路や交通事情に常に注意して、適切なタイミングでハイビームヘッドライトをオフにしてください。

この機能を設定すると、ヘッドライトのハイビームとロービームを自動的に切り替えることができます。システムがライトを点灯している対向車または先行車を検知した場合には、ヘッドライトをハイビームからロービームに切り替えます。

このシステムは、他車との距離に応じてロービームの照射範囲を自動調整します。他車が検知されなくなると、再びハイビームに戻します。

システムの光学センサーは、フロントウインドウ裏側のルーフオペレーティングユニット付近に装着されています。

アダプティブハイビームアシストのオン / オフの切り替え

▶ **作動させる：** マルチファンクションディスプレイを使用してアダプティブハイビームアシストを作動させます (▷ 159 ページ)。

▶ ライトスイッチを AUTO にまわします。

▶ コンビネーションスイッチを矢印 ① の方向にいっぱいまで押します (▷ 106 ページ)。
周囲が暗く、ライトセンサーがロービームヘッドライトを作動させたとき

は、マルチファンクションディスプレイの表示灯 [icon] が点灯します。

約 45 km/h 以上の速度で走行している場合

ヘッドライトの照射範囲は、他車や他の道路使用者との距離に応じて自動的に設定されます。

約 55 km/h 以上の速度で走行していて、他の道路使用者が認識されていない場合

自動的にハイビームヘッドライトが点灯します。メーターパネルの表示灯 [icon] も点灯します。

45 km/h 以下の速度で走行しているか、または他の道路使用者が認識されている、または道路が十分に照らされている場合

自動的にハイビームヘッドライトが消灯します。メーターパネルの表示灯 [icon] が消灯します。マルチファンクションディスプレイの表示灯 [icon] は点灯したままになります。

▶ **解除する：** コンビネーションスイッチを通常の位置に戻します。
メーターパネルの表示灯 [icon] が消灯します。

ルームライト

ルームライトとオーバーヘッドコントロールユニットの概要は"はじめに"をご覧ください。

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- ルームライトの自動点灯
- ルームライトの手動点灯
- 緊急時点灯機能

電球の交換

⚠ 危険

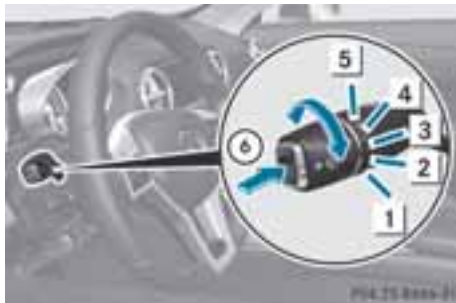
キセノンバルブには高電圧が発生しています。キセノンバルブのカバーを取外し、電気端子に触れると、感電するおそれがあります。 致命的なけがをするおそれがあります。

決して、キセノンバルブの構成部品や電気端子に触れないでください。 キセノンバルブに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

車両のフロントランプ、リアランプにはキセノンバルブか LED ランプが装着されています。 お客様自身でランプの交換を行なわないでください。 必要な専門知識と専用ツールを備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

バルブやライトは、車両の安全性の重要な装備です。そのため、これらの機能が正常であることを常に確認してください。ヘッドライトの設定は、定期的に点検してください。

フロントワイパー

フロントワイパーのオン / オフ

コンビネーションスイッチ

1 [0] ワイパー停止

2 [•••] 低速間欠モード（レインセンサーは低感度に設定）

3 [••••] 高速間欠モード（レインセンサーは高感度に設定）

4 [—] 低速作動モード

5 [=] 高速作動モード

⑥ 一回のワイパー作動／ ウォッシャー液を使用してワイパーを作動させる

ワイパーブレードが劣化すると、ウインドウの水滴を十分に拭き取ることができません。交通状況の確認を妨げるおそれがあり、そのため事故の原因になります。ワイパーブレードは春と秋の年に 2 回交換してください。

ℹ 車両には、マジックビジョンコントロールワイパー / ウォッシュシステムが装備されています。 ウォッシャー液はワイパーブレードを通じて送られ、ウォッシャー液 を噴射してワイパーを作動させると、液は直接ワイパーブレードから出ます。

ワイパーブレードの交換

重要な安全上の注意

⚠ 警告

ワイパーブレードを交換中にワイパーが動き出した場合、ワイパーアームに挟まれるおそれがあります。 けがの危険性があります。

ワイパーブレードを交換する前に、ワイパーおよびイグニッションのスイッチを必ずオフにしてください。

フロントワイパーブレードの交換

ワイパーブレードの垂直位置への移動

キーレスゴー非装備車：

▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。

▶ フロントウインドウのワイパーをポジション[—]に設定します。

▶ ワイパーアームが垂直位置に達したら、キーを回してポジション **0** にして、キーをエンジンスイッチから抜きます。

▶ ワイパーアームをウインドウから起こします。

キーレスゴー装備車：

▶ エンジンを停止します。

▶ ブレーキペダルから足を放します。

▶ フロントウインドウのワイパーをポジション[—]に設定します。

▶ フロントワイパーが動き出すまで、スタート / ストップボタンを何回か押します。

▶ ワイパーアームが垂直位置に達したら、スタート / ストップボタンを押します。

▶ ワイパーアームをウインドウから起こします。

ワイパーブレードを取り外す

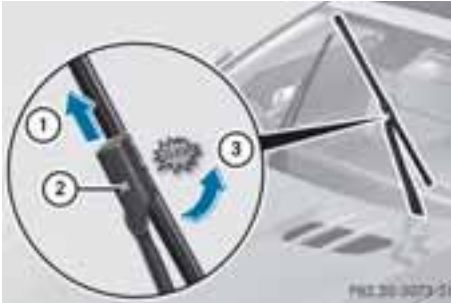
▶ **ワイパーブレードを取り外す位置にする：** ワイパーアームを片方の手で持ちます。 もう一方の手でワイパーブレードを抵抗を感じるポイントを越えて矢印の方向 ③ にまわします。

カチッと音がして、ワイパーブレードが取外し位置で止まります。

▶ **ワイパーブレードを取り外す：**リリースノブ ② をしっかり押して、ワイパーブレードを上方 ① へ引きます。

ワイパーブレードを取り付ける

▶ ワイパーアーム上のタブ ② に固定されるまで、新品のワイパーブレードを矢印の方向に ① 押します。

▶ ワイパーブレードを抵抗を感じるポイントを越えて矢印の方向 ③ にまわします。
カチッという音がして、ワイパーブレードが外れ、再び自由に動くようになります。

▶ ワイパーブレードが確実に固定されたことを確認します。

▶ ワイパーアームをウインドウの元の位置に戻します。

フロントワイパーの故障

これに関する情報は、デジタル版取扱説明書に記載されています。

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 27 ページ)

エアコンディショナーシステムの概要

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

以下のページで推奨されている設定に注意してください。停止したままにすると、ウインドウがくもりやすくなります。視界が妨げられて周囲の交通状況を把握できず、事故の原因になります。

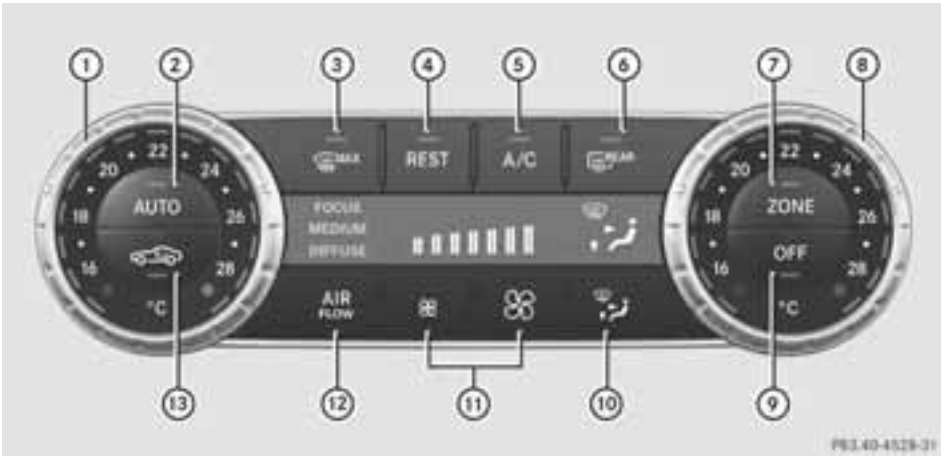
エアコンディショナーは温度と車内の湿度を調整して、空気中の汚染物質をフィルターにかけます。

エアコンディショナーは、エンジンが作動中の場合のみ使用可能です。システムは、サイドウインドウとルーフが閉じている場合のみ、適切に機能します。

イグニッションがオフの場合にのみ、余熱ヒーター機能を作動または解除することができます。デジタル版取扱説明書をキーワード"余熱ヒーター"でご覧ください。

ℹ 暖かい天気のときは、短時間車両を換気してください。これにより、冷却処理が早くなり、より早く希望の車内温度に達します。

ℹ エアコンディショナーシステムを乾燥させるために、キーを抜いてから 1 時間は、余熱ヒーター機能が自動的に作動する可能性があります。 その後、エアコンディショナーシステムを乾燥させるために、約 30 分間車両の換気が行なわれます。

オートエアコンディショナー（2 ゾーン）の操作パネル

① 左側の温度を設定する
② エアコンディショナーを AUTO モードに設定する
③ デフロスターモード
④ 余熱ヒーターベンチレーションの作動と停止を切り替える
⑤ AC モードの作動/解除
⑥ リアデフォッガーの作動と停止の切り替え
⑦ 独立温度設定機能を切り替える
⑧ 右側の温度を設定する
⑨ エアコンディショナーの作動と停止を切り替える
⑩ 送風口の選択
⑪ 送風の設定
⑫ エアコンディショナーのモード設定
⑬ 内気循環モードに切り替える

ⓘ 操作に関する注意事項 / ヒントは、デジタル版取扱説明書に記載されています。

エアコンディショナーシステムの操作

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- エアコンディショナーのオン / オフ
- AC モードのオン / オフ
- エアコンディショナーの AUTO モード設定
- 温度の設定
- 送風口の設定
- 送風量の設定
- 独立温度設定機能のオン / オフ
- ウインドウデフロスター

- デフロスターモード
- リアデフォッガーの作動と停止の切り替え
- 内気循環モードの作動 / 解除
- 内気循環スイッチの操作によるコンビニエンスオープン / クローズ
- 余熱ヒーターベンチレーションのオン / オフ
- 送風口の調整

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 27 ページ)

慣らし運転

重要な安全上の注意

新しい、または交換されたブレーキパッド / ライニングおよびディスクは、数百 km 走行後にのみ最適なブレーキ効果に到達します。 ブレーキペダルにより大きな力をかけることにより、減少したブレーキ効果を補ってください。

最初の約 1,500 km

最初に十分な注意を払ってエンジンを取り扱えば、その後、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

- 最初の約 1,500 km は、さまざまな車両速度とエンジン回転数で走行してください。
- アクセルをいっぱいに踏み込むなど、エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- エンジン回転数がタコメーターのレッドゾーン（許容限度）の ⅔ を超えないように、適切にギアシフト操作しながら運転してください。
- エンジンブレーキをかけるためにマニュアルギアシフトでギアをシフトダウンしないでください。
- 走行中にアクセルペダルを限界以上にいっぱいまで踏み込むこと（キックダウン）は避けてください。
- シフトポジション **3**、**2** または **1** は、山道などを低速で走行するときだけに使用してください。

約 1,500 km 後は、車両を最大負荷およびエンジン回転数まで徐々にもっていくことができます。

AMG 車の慣らし運転に関する注意事項

- 最初の約 1,500 km までは、約 140 km/h 以上の速度で走行しないでください。
- エンジン回転数が約 4,500 rpm を超える状態は短時間にしてください。
- 効率的な制御を行なう、走行モード **C** を選択することをお勧めします。

ⓘ エンジンや駆動系部品の交換を行なったときも、上記の注意事項を守って慣らし運転を行なってください。

セルフロッキング式リアディファレンシャルロック装備車（AMG）

車両には、セルフロッキング式のディファレンシャルがリアアクスルに装備されています。リアアクスルのディファレンシャルを保護するために、新車時から約 3,000 km の慣らし運転後を目安にオイルを交換してください。このオイル交換により、ディファレンシャルの整備寿命が延びます。 オイル交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

走行

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

運転席の足元にあるものは、ペダルの動きを制限したり、踏んだペダルを妨げることがあります。車両の操作および道路の安全性がおびやかされます。 事故の危険性があります。

すべてのものが車内に正しく収納され、運転席の足元に入り込むことができないことを確認してください。ペダルとの十分な隙間を確保するために、記載されているようにフロアマットを確実に装着します。固定していないフロアマットを使用しないでください。

⚠ **警告**

以下のような適していない履物は、ペダルの正しい作動を妨げることがあります。

- 薄いソールの靴
- 高いヒールの靴
- スリッパ

事故の危険性があります。

適した履物を着用し、ペダルの正しい作動を確保します。

⚠ **警告**

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

⚠ **警告**

走行時にパーキングブレーキが完全に解除されていない場合は、パーキングブレーキは以下のようになることがあります。

- オーバーヒートおよび火災の原因
- ホールド機能の損失

火災と事故の危険性があります。発進する前に、パーキングブレーキを完全に解除してください。

! 走行する前に、パーキングブレーキを確実に解除してください。 パーキングブレーキの加熱、誤作動や早期摩耗の原因となります。

! 素早く暖機運転します。 エンジンが暖まっていないときは、必要以上にエンジン回転数を上げないでください。

オートマチック車のシフト操作は、完全に停車して行なってください。

滑りやすい路面で発進するときは、駆動輪を空転させないように穏やかにアクセルペダルを操作してください。 駆動系部品が損傷するおそれがあります。

! **AMG 車：**エンジンオイル温度が約 +20 ℃以下のときなどエンジンが暖まっていない場合は、エンジン保護のためにエンジン回転数が制限されることがあります。 エンジンを保護し、スムーズに作動させるため、エンジンが冷えているときはアクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。

キーの位置

キー

0 キーを抜く

1 エンジン停止時にワイパーなどの電気装備が使用できる位置

2 イグニッション（すべての電気装備への電源供給）および運転するときの位置

3 エンジンを始動する

ℹ キーがその車両のものでなくても、イグニッションロックに差し込んで回すことはできます。しかし、イグニッションはオンになりません。エンジンの始動はできません。

キーレスゴー

全体的な注意事項

キーレスゴースイッチ装備車には、キーレスゴー機能が内蔵されたキーと脱着式のキーレスゴースイッチが付いています。

スタート / ストップボタンを使ってエンジンをオン / オフできます。 キーレスゴーで操作を行なうには、車室内にキーがあり、エンジンスイッチにキーレスゴースイッチを差し込む必要があります。

キーレスゴースイッチを押すたびに、イグニッション位置が切り替わります。 イグニッション位置の選択は、ブレーキペダルを踏んでいない状態で行ないます。

ブレーキペダルを踏んだ状態でキーレスゴースイッチを押すと、ただちにエンジンが始動します。

キーレスゴースイッチは、エンジンスイッチから取り外せます。 その後、キーをエンジンスイッチに差し込めます。

ℹ キーレスゴースイッチは、車から離れるときでもエンジンスイッチから取り外す必要はありません。 しかし、車両を離れるときは必ずキーを携帯してください。 キーが車内にある限り：

- 車両はキーレスゴースイッチで始動できます。
- 電気で作動する装備を操作できます。

ℹ 車両が動いている間にキーレスゴースイッチを約 3 秒間押して保持すると、エンジンを停止することができます。 この機能は、ECO スタート / ストップ自動エンジン停止機能とは独立して作動します。

キーレスゴースイッチのキーの位置

▶ キーレスゴースイッチ① をエンジンスイッチ②に差し込みます。

ℹ キーレスゴースイッチ ① をエンジンスイッチ ②に差し込むと、システムは認識に約 2 秒間かかります。 その後、キーレスゴースイッチ ①を使用することができます。

電源供給をオンにする

▶ キーレスゴースイッチ ① がまだ押されていなければ、キーはイグニッションから取り外されていることに相当します。

▶ キーレスゴースイッチ ① を 1 回押します。
電源供給がオンになります。 これで例えばワイパーなどの電気装備を作動させることができます。

ℹ このポジションで運転席のドアが開いているときに、キーレスゴースイッチ ① を 2 度押すと、電力供給がオフになります。

エンジンスイッチを 2 の位置にしたとき

▶ キーレスゴースイッチ ① を 2 回押します。
イグニッションがオンになります。

ℹ このポジションで運転席のドアが開いているときに、キーレスゴースイッチ ① を 2 度押すと、電力供給がオフになります。

イグニッションをオンにしたときは、メーターパネルのすべての表示灯が点灯します。 エンジン始動後に表示灯が消灯しなかったり、または走行中に点灯した場合は、技術的な問題があることがあります(▷ 177 ページ)。

キーレスゴースイッチの取り外し

キーレスゴースイッチを取り外し、エンジンスイッチにキーを差し込んでまわすことにより、通常の方法でエンジンを始動することができます。

▶ エンジンスイッチ ② からキーレスゴースイッチ ① を取り外します。

ℹ キーレスゴースイッチは、車から離れるときでもエンジンスイッチから取り外す必要はありません。

エンジンの始動

重要な安全上の注意

⚠ 警告

子供だけを残して車から離れないでください。

- ドアを開けることによって、他の人々や道路利用者を危険にさらすおそれがあります。
- 車両から降りて、通過する車にぶつかるおそれがあります。
- 車両の装備品を操作してしまうおそれがあります。

さらに以下のような場合に、子供が車両を動かしてしまうおそれもあります。

- パーキングブレーキを解除する。
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション P からシフトする。
- エンジンを始動する。

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。 保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さないでください。 キーは必ず子供の手の届かないところに保管してください。

⚠ **警告**

エンジンの燃焼は、一酸化炭素のような有毒な排気ガスを排出します。これらの排気ガスを吸い込むと中毒につながります。致命的なけがの危険性があります。従って、十分な換気がない閉じた空間でエンジンを作動させたままにしないでください。

⚠ **警告**

排気システム、または熱くなっているエンジンの部品に接触すると、環境の影響または動物によってもたらされた可燃性の素材が発火するおそれがあります。火災のおそれがあります。

定期的な点検を行ない、エンジンルーム、または排気システムに可燃性の異物がないことを確認してください。

! エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。

キーによるエンジンの始動

▶ ブレーキペダルを踏み、踏んだままにします。

▶ シフトポジションを **P** にしてください。
マルチファンクションディスプレイにシフトポジション **P** が表示されます。

ⓘ シフトポジションが **N** のときも、エンジンを始動することができます。

▶ エンジンスイッチのキーを **3** の位置 (▷ 120 ページ) にまわして、エンジンがかかったらすぐに放します。

キーレスゴースイッチ操作によるエンジンの始動

エンジンスイッチにキーを差し込まなくても、キーレスゴースイッチを使用することで車両をスタートできます。車内にキーがあり、キーレスゴースイッチがエンジンスイッチに差し込まれていなければなりません。

▶ ブレーキペダルを踏み、踏んだままにします。

▶ シフトポジションを **P** にしてください。
マルチファンクションディスプレイにシフトポジション **P** が表示されます。

ⓘ シフトポジションが **N** のときも、エンジンを始動することができます。

▶ キーレスゴースイッチ(▷ 120 ページ)を 1 度押します。
エンジンが始動します。

発進

オートマチックトランスミッション

⚠ **警告**

エンジン回転数がアイドリング回転数以上で、トランスミッションをポジション **D** または **R** に入れると、車両は突然発進することがあります。事故の危険性があります。

トランスミッションをポジション **D** または **R** に入れるときは、常にブレーキペダルをしっかりと踏み、同時に加速しないでください。

ⓘ セレクターレバーを **P** から動かすためには、ブレーキペダルを踏む必要があります。 その後で、シフトロックが解除されます。

▶ ブレーキペダルをしっかりと踏みます。

▶ トランスミッションをシフトポジション **D** または **R** にします。

▶ パーキングブレーキを解除します。詳しくはデジタル版取扱説明書をご覧ください。
▶ ブレーキペダルを徐々に戻します。
▶ アクセルペダルを注意しながら踏み、発進します。

ℹ 発進すると、車が自動的に施錠されます。ドアのロックノブが下がります。
ドアは車内からいつでもロックを解除して開くことができます。
車速感応ドアロックを解除することもできます (▷ 159 ページ)。

ℹ エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。 これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正な作動温度に達します。

ヒルスタートアシスト

⚠ **警告**
しばらくすると、ヒルスタートアシストは車両にブレーキを効かせなくなり、動き出すおそれがあります。 事故やけがの危険性があります。
従って、すばやくブレーキペダルからアクセルペダルに足を動かします。ヒルスタートアシストで車が停止しているときは、絶対に車から離れないでください。

ヒルスタートアシストは、坂道発進時に車が後退または前進するのを防ぎ、運転者の発進操作を補助します。 ブレーキペダルから足を放しても、ヒルスタートアシストが車を停止したまま保持します。 そのため、車が動き出す前に、ブレーキペダルからアクセルペダルへ余裕を持って踏みかえることができます。

▶ ブレーキペダルから足を放します。
車両はその後、約 1 秒間停止します。
▶ 発進します。

ただし、ヒルスタートアシストは以下のような状況では作動しません。

• 傾斜していない路面や下り坂で発進するとき
• シフトポジションを **N** にしたとき
• パーキングブレーキが効いているとき
• ESP®が故障しているとき

ECO スタート / ストップ機能

重要な安全上の注意

⚠ **警告**
エンジンが自動的にオフになり、車両から出ると、エンジンは自動的に再始動します。車両が動き始めることがあります。 事故やけがの危険性があります。
車両から出たい場合は、必ずイグニッションをオフにし、動き出さないように車両を固定します。

全体的な注意事項

① ECO スタート / ストップ表示

マルチファンクションディスプレイに ECO マークが緑で表示される場合は、車両が停止したときに ECO スタート/ストップ機能がエンジンを自動的にオフにします。
再び発進すると、自動的にエンジンが始動します。その結果、ECO スタート / ストップ機能は、燃料消費と排出ガスを低減させます。
キーまたはキーレスゴースイッチを使ってエンジンをオンにするたびに、ECO スタート / ストップ機能が作動します。

ECO スタート/ストップ機能が手動で解除された(▷ 124 ページ)、または故障が原因でシステムが解除された場合は、ECO マークは表示されません。

AMG 車：マルチファンクションディスプレイの AMG メニューの Stop/Start active または Stop/Start inactive というメッセージが消えます。

AMG 車：ECO スタート / ストップ機能は走行モード **C** でのみ使用できます。

ⓘ **AMG 車**： 自動シリンダー遮断が走行モード **C** で作動している場合は、作動しているシリンダー数 4 も ECO マークの中に表示されます。これはエンジンが 4 つのシリンダーで作動していることを意味します。

シリンダー遮断が作動していない場合は、エンジンは 8 つすべてのシリンダーで作動しています。このような場合は、作動しているシリンダー数 8 が ECO マークの中に表示されます。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- エンジン自動停止
- 自動エンジンスタート
- ECO スタート / ストップ機能の作動 / 作動解除

エンジンの故障

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

オートマチックトランスミッション

セレクターレバー

シフトポジションの概要

! エンジン回転数が高すぎるときや走行中は、 D から直接 R、または R から直接 D か P にシフトしないでください。

走行中には運転席ドアを開かないでください。 開いていると、シフトポジション D または R で低速のときに、パーキングポジション P に自動的にシフトします。

トランスミッションが損傷するおそれがあります。

セレクターレバー

P パーキングポジション

R リバースギア

N ニュートラル

D ドライブ

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- パーキングポジション P の選択
- リバースギア R の選択
- ニュートラル N の選択
- ニュートラル N（ECO スタート / ストップ機能が作動した状態）
- シフトポジション D の選択
- シフトポジション D（ECO スタート / ストップ機能が作動した状態）

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- シフトポジション表示と走行モード表示
- シフトポジション
- ギアシフト操作
- 運転のヒント
- 走行モード選択スイッチ
- パドルシフト
- オートマチックトランスミッションの走行モード
- ギアレンジ
- トランスミッションの故障

マニュアルギアシフト

マニュアルギアシフトの作動

マニュアルギアシフト M は、シフトチェンジの自発性、応答性および滑らかさの点で走行モード S と異なります。

モード選択スイッチまたは走行モード選択ダイヤル（AMG 車）を使用して、マニュアルギアシフト M を選択することができます。マニュアル走行モード M では、トランスミッションが D の位置の場合に、パドルシフトを使用してギアを変更することができます。選択された

ギアはマルチファンクションディスプレイに表示されます。

▶ マルチファンクションディスプレイに M が表示されるまで、走行モード選択スイッチを押します。詳しくはデジタル版取扱説明書をご覧ください。

▶ AMG 車： マルチファンクションディスプレイに M が表示されるまで、走行モード選択ダイヤルをまわします。詳しくはデジタル版取扱説明書をご覧ください。

シフトアップ

▶ 右側のパドルを引きます。詳しくはデジタル版取扱説明書をご覧ください。
1 段高いギアにシフトします。
エンジン回転数が赤い範囲に達する前に、アップシフトインジケーターがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

① シフトアップインジケーター
② シフトインジケーター

▶ シフトアップアイコン ① がマルチファンクションディスプレイに表示されたら、ギアをシフトアップします。

AMG 車

! マニュアルギアシフト M では、現在のギアでのエンジン許容回転数に達しても、自動的にシフトアップしません。 エンジンの許容回転数に達すると、エンジンの過回転を防ぎエンジンを保護するため、燃料供給が停止します。 エンジン回転数が許容回転数を超えて、タコメーターのレッドゾーンに入らないように注意してください。 エンジンが損傷するおそれがあります。

▶ マルチファンクションディスプレイのディスプレイの色が赤色に変わり、シフトアップアイコン ① が表示されたら、ギアをシフトアップします。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- シフトダウン
- キックダウン
- マニュアル走行モードの解除

給油

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

燃料は可燃性の高いものです。 燃料を不適切に扱った場合は、火災および爆発の危険性があります。

火気、裸火、火花の発生および喫煙は避けてください。給油の前にはエンジン、当てはまる場合は補助ヒーターを停止します。

⚠ **警告**

燃料は健康に有毒で危険です。けがの危険性があります。

燃料が肌、目または衣服と接触しておらず、飲み込まれていないことを確認しなければなりません。燃料の気体を吸い込まないでください。燃料は子供から離してください。

お客様または他の方が燃料に触れた場合は、以下に従ってください。

- 石鹸および水道水を使用して、ただちに肌から燃料を洗い流してください。
- 燃料が目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。ただちに医療補助を求めてください。
- 燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医療補助を求めてください。吐かせないでください。
- 燃料が付着した衣服はただちに替えてください。

⚠ **警告**

静電気の蓄積により、火花が発生したり、燃料の気体に引火するおそれがあります。火災および爆発の危険性があります。

燃料給油口または給油ノズルを開く前に、必ず車体に触ってください。 蓄積されている可能性がある静電気を放電します。

! ガソリンエンジン車両に給油するために軽油を使用しないでください。 誤って異なる燃料を給油した場合は、イグニッションをオンにしないでください。さもないと、燃料が燃料システムに入ります。 少量の誤った燃料でも、燃料システムやエンジンの損傷につながるおそれがあります。 修理費用が高くなります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡して、燃料タンクや燃料系統から完全に抜き取ってください。

! 給油ノズルの自動停止後は、それ以上補給しないでください。燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。

! 給油中に燃料を塗装面にこぼさないよう注意してください。 塗装面が損傷するおそれがあります。

! 燃料携行缶から燃料を補給するときは、フィルターを使用してください。 燃料携行缶に付着した微粒子によって、フューエルラインや燃料噴射システムの部品が詰まるおそれがあります。

給油中は車内に戻らないでください。再び帯電することがあります。

燃料タンクに補充しすぎると、燃料ポンプノズルを取り外すときに多少の燃料が飛散することがあります。

燃料と燃料の品質に関する詳細 (▷ 267 ページ)。

セルフ式のガソリンスタンド

セルフ式のガソリンスタンドで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

- 給油前に必ずエンジンを停止して、ドアやサイドウインドウなどを閉じてください。
- 燃料給油口を開くときから、一連の給油作業を必ずひとりで行なってください。

  給油作業を行なう人以外は燃料給油口に近づかないでください。
- 給油作業を行なう人は、身体の静電気を除去するため、給油前に車体などの金属に触れてください。

  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり火傷をするおそれがあります。 火災のおそれがあります。
- 給油中は車内に戻らないでください。再び帯電することがあります。
- フューエルキャップの開閉は確実に行なってください。 火気を近づけないようにしてください。
- 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。
- 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料があふれるおそれがあります。

- 給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。 燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

給油

燃料給油フラップの開閉

① 燃料給油フラップを開く
② キャップをはめる
③ タイヤ空気圧ラベル
④ 使用燃料表示

キーまたはキーレスゴーで車を施錠 / 解錠すると、燃料給油フラップも自動的に施錠 / 解錠されます。

燃料給油フラップは車両の右側後方にあります。

メーターパネル内には、キャップの位置を示す が表示されています。給油ノズルの横の矢印は、給油口の取り付け位置を示しています。

開く

▶ エンジンを停止します。
▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
▶ キーレスゴー：運転席ドアを開きます。イグニッション位置が 0 で、"キーを抜き取った"状態と同じになります。
運転席ドアを再び閉じることができます。
▶ 燃料給油フラップ①の矢印の位置を押します。
燃料給油フラップが少し開きます。
▶ 燃料給油フラップを完全に開きます。
▶ キャップを反時計回りにまわして取り外します。
▶ 外したキャップを燃料給油口 ② の裏側にあるホルダーにかけます。
▶ 給油ノズルを奥まで差し込み、給油を開始します。
▶ 給油ノズルが自動停止した時点で給油を停止してください。

ℹ 給油ノズルの自動停止後は、それ以上補給しないでください。燃料があふれるおそれがあります。

閉じる

▶ キャップを給油口に合わせ、時計回りにいっぱいまでまわして確実に閉めます。
▶ 燃料給油フラップを閉じます。

ℹ 車を施錠する前に燃料給油フラップを閉じてください。

燃料および燃料タンクの不具合

この項には、安全に関わる不具合とその解決方法の記載があります。さらなる問題についての記載および解決方法は、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
燃料が漏れている。	燃料供給システムまたは燃料タンクに問題がある。 ⚠ 警告 火災または爆発の危険性があります。 ▶ エンジンスイッチのキーを 0 の位置にまわし、ただちに抜いてください。(▷ 120 ページ). ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

駐車

重要な安全上の注意

⚠ 警告

葉、草または小枝のような可燃性の素材が熱くなった排気システムの部品にさらされて長く接触すると、発火するおそれがあります。火災のおそれがあります。

可燃性の素材が熱い車両の部品に接触しないように車両を駐車します。乾燥した草原、または収穫した穀物畑に駐車しないように特に注意してください。

⚠ 警告

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

⚠ 警告

保護者のいない子供を車両に残すと、例えば以下のようにして動かし始めるおそれがあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションのパーキングポジション P からのシフト
- エンジンの始動

彼らは車両装備を操作するおそれもあります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。 子供だけを車内に残して車両から離れないでください。

! 動いている車両によって、車両の損傷、または駆動系の損傷につながるおそれがあります。

パーキングブレーキに関する情報は、デジタル版取扱説明書に記載されています。

車両が不意に動き出さないように、以下の方法で車を固定してください。

- 電気式パーキングブレーキを利かせる
- トランスミッションをポジション P にし、キーをエンジンスイッチから抜かなければなりません
- 坂道で駐車するときは、前輪を歩道方向に向けてください。

エンジンの停止

重要な安全上の注意

⚠ 警告

エンジンをオフにすると、オートマチックトランスミッションはニュートラルポジション N に切り替わります。車両が動き出すおそれがあります。事故の危険性があります。

エンジンをオフにした後は、必ずパーキングポジション P に切り替えてください。 パーキングブレーキを効かせて、駐車した車両が動き出すのを防いでください。

デジタル版取扱説明書の情報

マニュアルまたはオートマチックトランスミッション装備車のエンジン停止方法の説明は、デジタル版取扱説明書に記載されています。

駐車

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

運転のヒント

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 一般的な運転のヒント
- ブレーキ操作
  - 重要な安全上の注意
  - 下り坂での走行 / 制動
  - 高負荷 / 低負荷
  - 濡れた路面での走行 / 制動
  - 凍結防止剤等が撒かれた路面でのブレーキ性能の制限
  - 新品のブレーキパッド / ライニング
  - AMG 車向けセラミック強化ブレーキシステム
- 濡れた路面の走行
- 寒冷時の走行
  - 重要な安全上の注意
  - サマータイヤでの走行
  - 滑りやすい路面

走行装備

クルーズコントロール

重要な安全上の注意

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、クルーズコントロールは事故被害を軽減したり、物理的限界を超えて運転を支援することはできません。クルーズコントロールは道路、天気、交通事情を考慮することはできません。クルーズコントロールは補助装置です。 運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時にブレーキをかけ、車線を維持する責任があります。

次のような場合にはクルーズコントロールを使用しないでください。

- 一定の速度を維持できないような道路や交通状況のとき（例、混雑してる交通やカーブしている道路）。
- 滑りやすい路面。ブレーキや加速により駆動輪が駆動力を失い、車両が滑るおそれがあります。
- 霧や激しい雨、雪のときなど、不十分な視界のとき。

運転者を交代する場合は、交代する運転者に記憶されている制限速度を伝えてください。

⚠ 警告

設定速度を呼び出し、それが現在の速度と異なるときは、車両が加速または減速します。 設定速度を覚えていないと、車両が不意に加速したりブレーキがかかることがあります。 事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。 設定速度を覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。

全体的な注意事項

クルーズコントロールは一定の走行速度を維持します。 設定速度を超えないようにするために自動的にブレーキを効かせます。 長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときは、適時シフトレンジを 1、2、3 にしてください。(▷ 125 ページ) そうすることにより、エンジンのブレーキ効果を利用します。 その結果、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキが過熱して早く摩耗するのを防ぎます。

道路や交通状況が長時間の一定速度の維持に適している場合にのみ、クルーズコントロールを使用してください。 約 30 km/h 以上の走行速度を記憶できます。

クルーズコントロールレバー

クルーズコントロールレバー

① 現在の走行速度、またはより速い速度を記憶する
② LIM 表示灯
③ 現在の速度の記憶および最後に記憶した速度の呼び出し
④ 現在の走行速度、またはより遅い速度を記憶する
⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える
⑥ クルーズコントロールの解除

クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールおよび可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② は選択したシステムを示しています。

- **LIM 表示灯 ② が消灯：** クルーズコントロールが選択されています。
- **LIM 表示灯 ② が点灯：** 可変スピードリミッターが選択されています。

クルーズコントロールを作動させると、記憶された速度がマルチファンクションディスプレイに約 5 秒間表示されます。 その後、速度は [速度計] マークと共にステータスインジケーターに常に表示されます。

走行と駐車

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- クルーズコントロールの選択
- 速度の記憶、維持、呼び出し
- 速度の設定
- クルーズコントロールの解除

ディストロニック・プラス

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

ディストロニック・プラスは以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 駐停車している車両など、道路上の静止している障害物
- 対向車や横切る車両

この場合、ディストロニック・プラスは警告も介入も行ないません。 事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

⚠ **警告**

ディストロニック・プラスは、他の道路使用者や複雑な交通状況を常に明確に認識できるとは限りません。

その場合、ディストロニック・プラスは以下のように作動することがあります。

- 不必要な警告を行ない、車両にブレーキをかける
- 警告を行なわなくなる、または作動しなくなる
- 不意に加速する

事故の危険性があります。

特に、ディストロニック・プラスから警告が送られた場合は、慎重に運転しブレーキをかける用意をしてください。

⚠ **警告**

ディストロニック・プラスは最大制動力の約 40% までで車両にブレーキをかけます。 制動力が不十分なときは、ディストロニック・プラスが音とランプで警告を送ります。 事故の危険性があります。

その場合は、必ずご自身でブレーキをかけ、危険回避の運転操作を行なってください。

! ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。 車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能が解除されます：

- けん引されるとき
- 洗車時

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、ディストロニック・プラスは事故被害を軽減したり、物理的限界を超えて運転を支援することはできません。 ディストロニック・プラスは路面、天候および交通状況を考慮することはできません。 ディストロニック・プラスはあくまでも運転を支援するシステムです。 運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時にブレーキをかけ、車線を維持する責任があります。

以下のときは、ディストロニック・プラスを使用しないでください：

- 一定の速度を維持できないような道路や交通状況のとき（例、混雑してる交通やカーブしている道路）。
- 滑りやすい路面。 ブレーキや加速により駆動輪が駆動力を失い、車両が滑るおそれがあります。
- 霧や激しい雨、雪のときなど、不十分な視界のとき。

ディストロニック・プラスは、オートバイなど前方を走行している幅の狭い車

両、または異なるラインを走行している車両を検知しないことがあります。

特に以下の状況では、障害物の感知が困難になります。

- センサーに異物が付着しているとき、またはセンサーが何かでおおわれているとき
- 降雪時
- 他のレーダー送信機による干渉
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こりやすいとき

ディストロニック・プラスが先行車を検知しなくなると、設定速度に予期せず加速することがあります。

以下の場合は加速するおそれがあります：

- 車線変更やスリップする道路を走行しているとき、上がりすぎる
- 左側通行で右車線のとき上がる
- 右側通行で左車線のとき上がる

運転者を交代する場合は、交代する運転者に記憶されている制限速度を伝えてください。

全体的な注意事項

ディストロニック・プラスは速度を制御し、前方に検知された車両との距離を自動的に維持する補助を行ないます。ディストロニック・プラスは設定された速度を超えないように自動的にブレーキを効かせます。

長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときは、適時シフトレンジを **1**、**2**、**3** にしてください。(▷ 125 ページ) そうすることにより、エンジンのブレーキ効果を利用します。その結果、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキが過熱して早く摩耗するのを防ぎます。

前方にゆっくり走行している車両が検知されると、ディストロニック・プラスは車両にブレーキを効かせます。あらかじめ設定した先行車との距離を維持します。

ディストロニック・プラスが衝突の危険があることを検知すると、視覚的および聴覚的に警告が発せられます。 ディストロニック・プラスは運転者の操作なしで衝突を回避することはできません。 断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの距離警告灯 が点灯します。安全な場合のみ、ただちにブレーキを操作して先行車のと距離を広げ、危険回避の操作を行なってください。

走行中にディストロニック・プラスの効果を発揮させるには、レーダーセンサーをオンにして作動させる必要があります。さくいんにある"レーダーセンサーシステム"をご覧ください。

ℹ (▷ 159 ページ)国によっては、レーダーセンサーシステムを解除する必要があります。

レーダーセンサーシステムに関する詳細は、(▷ 272 ページ) をご覧ください。

前方に車両がいない場合は、ディストロニック・プラスは、30 km/h から 200 km/h の速度範囲で、クルーズコントロールと同じように作動します。前を走行している車両がいる場合は、約 0 km/h ～ 200 km/h の間の速度範囲で作動します。

急な坂道を走行しているときは、ディストロニック・プラスを使用しないでください。

クルーズコントロールレバー

クルーズコントロールレバー

① 現在の走行速度、またはより速い速度を記憶する
② 指定最短距離を設定する
③ LIM 表示灯
④ 現在の速度の記憶および最後に記憶した速度の呼び出し
⑤ 現在の走行速度、またはより遅い速度を記憶する
⑥ ディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを切り替える
⑦ ディストロニック・プラスを解除する

クルーズコントロールレバーでディストロニック・プラスや可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ③ は選択したシステムを示しています。

- **LIM 表示灯 ③ が消灯：** ディストロニック・プラスが選択されています。
- **LIM 表示灯 ③ が点灯：** 可変スピードリミッターが選択されています。

ディストロニック・プラスの選択

▶ LIM 表示灯 ③ が消灯しているか確認してください。
消灯しているときは、ディストロニック・プラスがすでに選択されています。
消灯していないときは、クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ⑥ に押します。
クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ③ が消灯します。 ディストロニック・プラスが選択されます。

ディストロニック・プラスの設定、速度の記憶、維持、呼び出し

重要な安全上の注意

! ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。 車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能が解除されます：

- けん引されるとき
- 洗車時

ディストロニック・プラスを作動させるには、以下の条件を満たさなければなりません。

- エンジンがかかっていること。ディストロニック・プラスが使用できる前に最大 2 分間走行していること
- パーキングブレーキによって車両が停止されていないこと
- ESP®が作動していること
- トランスミッションがポジション D であること
- ボンネットが閉じていること
- P から D にシフトするときに運転席ドアが閉じている、または運転者のシートベルトが装着されている。
- 助手席ドアが閉じていること
- 車両が滑っていないこと

走行時の作動

- ▶ クルーズコントロールレバーを軽く手前に引く ④か、上 ① または下 ⑤ に操作します。
  ディストロニック・プラスが作動します。
- ▶ 希望の速度が設定されるまでクルーズコントロールレバーを押し上げたままにするか ① 下げたままにします ⑤ 。
- ▶ アクセルペダルから足を放してください。
  希望の記憶した速度までのみ、先行車の速度に自車の速度が合わせられます。

先行車が検知され、マルチファンクションディスプレイに表示されると、約 30 km/h 以下の速度で走行するときもディストロニック・プラスを作動させることができます。例えば車線変更などで先行車が検知されなくなり、表示されなくなると、ディストロニック・プラスは解除されます。このときは警告音が鳴ります。

ℹ アクセルペダルから完全に足を放していない場合は、マルチファンクションディスプレイにディストロニックプラス 制御待機中というメッセージが表示されます。このときは、ゆっくり走行している先行車との設定距離は維持されません。アクセルペダルの位置に応じた速度で走行します。

停止車両に向かって走行しているときの作動

- ▶ クルーズコントロールレバーを軽く手前に引く ④か、上 ① または下 ⑤ に操作します。
  ディストロニック・プラスが作動します。
- ▶ 希望の速度が設定されるまでクルーズコントロールレバーを押し上げたままにするか ① 下げたままにします ⑤ 。

自車の先行車が停止している場合は、自車が同様に停止したときにのみディストロニック・プラスを作動させることができます。

ℹ 30 km/h 以下では、先行車が検知されたときにのみ、ディストロニック・プラスを作動させることができます。そのためには、メーターパネルのディストロニック・プラスの距離表示を作動させなければなりません (▷ 159 ページ)。

ℹ クルーズコントロールレバーを使用して記憶したい速度を設定したり、クルーズコントロールレバーのコントローラーを使用して指定の最短距離を設定することができます。

発進と走行

ブレーキを踏んだとき、自車が停止していないときはディストロニック・プラスは解除されます。

- ▶ **先行車が発進した場合は、** ブレーキペダルから足を放します。
- ▶ クルーズコントロールレバーを軽く手前に引く ④ か、上 ① または下 ⑤ に操作します。

または

- ▶ 軽く加速します。
  自車が発進して、速度を先行車の速度に合わせます。

先行車がいない場合は、ディストロニック・プラスはクルーズコントロールと同じ方法で作動します。

先行車が減速したことをディストロニック・プラスが検知すると、車両にブレーキを効かせます。あらかじめ設定した先行車との距離を維持します。

ディストロニック・プラスが衝突の危険があることを検知すると、視覚的および聴覚的に警告が発せられます。 ディストロニック・プラスは運転者の操作なしで衝突を回避することはできません。 断続

的な警告音が鳴り、メーターパネルの距離警告灯が点灯します。安全な場合のみ、ただちにブレーキを操作して先行車のと距離を広げ、危険回避の操作を行なってください。

より速く走行している先行車をディストロニック・プラスが検知すると、走行速度が上がります。しかし、記憶した速度までのみ車両は加速します。

車線の変更

追い越し車線に変更したい場合は（右側通行の国では、追い越し車線は左側車線です）、ディストロニック・プラスは以下のときに運転者を補助します。

- 約 60 km/h 以上で走行しているとき
- ディストロニック・プラスが先行車との距離を維持しているとき
- 対応する方向指示灯を作動させたとき
- ディストロニック・プラスが衝突の危険を検知しないとき

これらの条件を満たした場合は、車両は加速します。車線変更に時間がかかりすぎたり、自車と先行車との距離が近かすぎるときは、加速は中断されます。

停止

⚠ **警告**

車から離れるときは、ディストロニック・プラスによりブレーキがかかっていても以下の場合は車両が動き出すことがあります。

- システムまたは電源供給に異常があるとき
- 乗員または車外の誰かがクルーズコントロールレバーを操作して、ディストロニック・プラスが解除されたとき
- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造されたとき
- バッテリーの接続を外したとき
- 同乗者などがアクセルペダルを踏んだとき

事故の危険性があります。

車から離れるときは、必ずディストロニック・プラスをオフにして車両が動き出さないように固定します。

ディストロニック・プラスを解除してください(▷ 137 ページ)。

先行車が停止したことをディストロニック・プラスが検知すると、車両が停止するまでブレーキを効かせます。

一度車両が停止すると、停車したままになり、ブレーキを踏む必要はありません。しばらくするとパーキングブレーキにより車両が固定され、サービスブレーキは解除されます。

指定した最短距離によっては、自車は先行車後方の十分な距離があるところで停止することがあります。指定最短距離はクルーズコントロールレバーのコントローラーを使用して設定します。

ディストロニック・プラスが作動していて以下のようなときにパーキングブレーキによって車両が動かなくなります。

- 運転席ドアを開いたときに運転席シートベルトが着用されていないとき
- ECO スタート / ストップ機能によりエンジンが自動的にオフになっていない場合で、エンジンがオフになっているとき
- システムに異常が発生したとき
- 電力供給が不十分なとき

異常が発生したときは、トランスミッションが自動的にポジション P になることもあります。

現在の速度の記憶および最後に記憶した速度の呼び出し

⚠ **警告**

設定速度を呼び出し、それが現在の速度と異なるときは、車両が加速または減速します。 設定速度を覚えていないと、車両が不意に加速したりブレーキがかかる

ことがあります。 事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。 設定速度を覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。

▶ クルーズコントロールレバーを手前 ④ に軽く引きます。

▶ アクセルペダルから足を放してください。
ディストロニック・プラスが作動します。初めて作動させたときは、そのときの速度が記憶されます。それ以外のときは、以前に記憶させた値に車両の巡航速度を設定します。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- 速度の設定
- 指定最短距離の設定
- メーターパネルのディストロニックプラス表示

ディストロニックプラスの解除

クルーズコントロールレバー

ディストロニック・プラスを解除するにはいくつかの方法があります。

▶ クルーズコントロールレバーを前方 ① に軽く押します。

または

▶ 車両が停止していない場合はブレーキを効かせます。

または

▶ クルーズコントロールレバーを矢印 ③ の方向に軽く押します。
可変スピードリミッターが選択されます。クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。

ディストロニック・プラスを解除すると、マルチファンクションディスプレイに ディストロニック・プラス オフ というメッセージが約 5 秒間表示されます。

ℹ エンジンを停止するまで、最後に記憶された速度がそのまま記憶されます。

ℹ ディストロニック・プラスは、アクセルペダルを踏んでも解除されません。追い越すために一時的に加速したときは、追い越しが終了した後にディストロニック・プラスは、最後に記憶された速度に車両の速度を調整します。

以下のときはディストロニック・プラスが自動的に解除されます。

- パーキングブレーキを効かせたとき、または車両がパーキングブレーキで自動的に固定されたとき
- 約 25 km/h 以下で走行していて先行車両がいないとき、または先行車両が検知されなくなったとき
- ESP®が作動したときや ESP®の機能を解除したとき
- トランスミッションが **P**、**R**、または **N** ポジションにあるとき
- レーダーセンサーシステムを停止したとき (▷ 159 ページ)

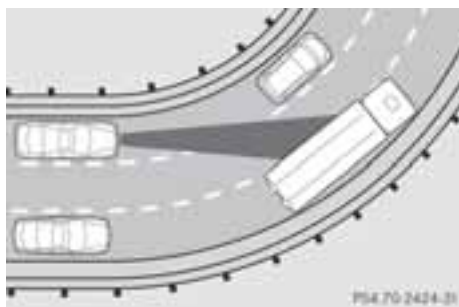
- 発進するためにクルーズコントロールレバーを運転者の方向に引き、助手席ドアが開いているとき
- 車両が滑ったとき

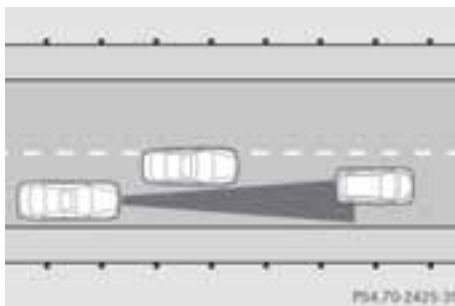
ディストロニック・プラスが解除されると警告音が鳴ります。マルチファンクションディスプレイに ディストロニック・プラス オフ というメッセージが約 5 秒間表示されます。

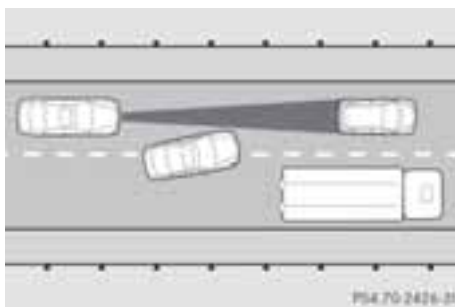
ディストロニック・プラス使用時の運転のヒント

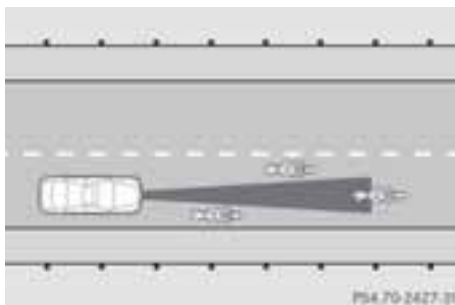
全体的な注意事項

以下には、特に注意すべき道路や交通状況の記載が含まれています。 そのような状況では必要であればブレーキを効かせてください。 ディストロニックプラスは解除されます。

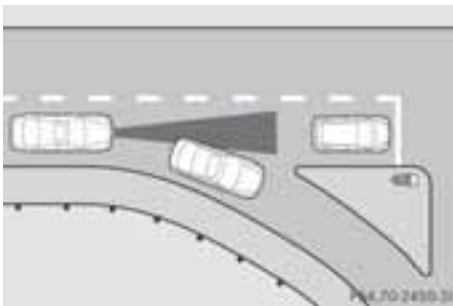
カーブでの走行、カーブに入るときやカーブを抜けるとき

カーブではディストロニックプラスの車両を検知する能力には限界があります。予期せずまたは遅くブレーキを効かせることがあります。

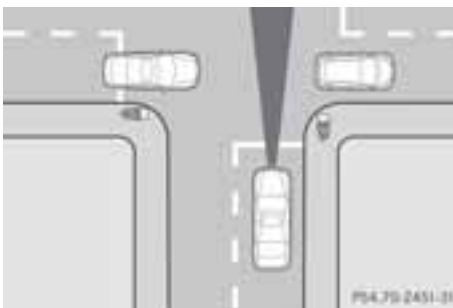
異なるライン上を走行している車両

ディストロニックプラスは異なるラインを走行している車両を検知しないことがあります。 先行車との距離は非常に短くなります。

車線変更する他の車両

ディストロニックプラスは割り込んでくる車両を検知しません。 この車両との距離は非常に短くなります。

幅の狭い車両

ディストロニックプラスは道路の端の幅の狭い車両を検知しないことがありま

す。 先行車との距離は非常に短くなります。

障害物や停止車両

ディストロニックプラスは障害物や停止車両に対してブレーキを効かせないことがあります。 例えば、検知していた車両がカーブを曲がり、障害物や停止車両が現れたときは、ディストロニックプラスはこれらに対してブレーキを効かせないことがあります。

横切る車両

ディストロニックプラスは車線を横切る車両を誤って検知することがあります。交差点の信号でディストロニックプラスを作動させると、例えば不意に車両が発進することがあります。

可変スピードリミッター

重要な安全上の注意

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、可変スピードリミッターは事故被害を軽減したり、物理的限界を超えて安全を確保することはできません。 可変スピードリミッターは路面、天候および交通状況を考慮することはできません。 可変スピードリミッターは補助装置です。 運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時にブレーキをかけ、車線を維持する責任があります。

運転者を交代する場合は、交代する運転者に記憶されている制限速度を伝えてください。

全体的な注意事項

設定された速度を超えないように可変スピードリミッターは自動的にブレーキを効かせます。 長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときは、適時シフトレンジを **1**、**2**、**3** にしてください(▷ 125 ページ)。そうすることにより、エンジンのブレーキ効果を使用します。 これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキの過熱と早期の摩耗を防ぎます。 さらにブレーキが必要な場合は、継続的にではなく、繰り返しブレーキペダルを踏んでください。

可変スピードリミッターまたはスノータイヤスピードリミッターを設定することができます。

- **可変**スピードリミッターは市街地などでの速度制限のためのものです。
- **スノータイヤ**スピードリミッターは、ウィンタータイヤを装着して走行するときなど、長時間の速度の制限のためのものです(▷ 141 ページ)。

ⓘ スピードメーターに表示された速度は記憶された制限速度と若干異なる場合があります。

可変スピードリミッター

クルーズコントロールレバー

クルーズコントロールレバー
① 現在の走行速度、またはより速い速度を記憶する
② LIM 表示灯
③ 現在の速度の記憶および最後に記憶した速度の呼び出し
④ 現在の走行速度、またはより遅い速度を記憶する
⑤ クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを切り替える
⑥ 可変スピードリミッターを解除する

クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールまたはディストロニック・プラスおよび可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② は選択したシステムを示しています。

- **LIM 表示灯 ② が消灯：** クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスが選択されています。
- **LIM 表示灯 ② が点灯：** 可変スピードリミッターが選択されています。

エンジンがかかっているときにクルーズコントロールレバーを使用して、約 30 km/h 以上のあらゆる速度に速度を制限できます。

可変スピードリミッターの選択

▶ LIM 表示灯 ② が点灯しているか確認してください。

点灯しているときは、可変スピードリミッターはすでに選択されています。

消灯していないときは、クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ⑤ に押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。可変スピードリミッターが選択されます。

現在の速度の記憶

▶ クルーズコントロールレバーを上方 ① または下方 ④へ軽く押します。

現在の速度が記憶されます。 5 秒間、マルチファンクションディスプレイに制限速度 100 km/h のように記憶した速度が表示されます。

クルーズコントロール装備車両：記憶した速度がステータスインジケーターに LIM 100 km/h のように常に表示されます。

ディストロニック・プラス装備車両：スピードメーターの、目盛りの始まりから記憶した速度までのセグメントが点灯します。

エンジンがかかっているときにクルーズコントロールレバーを使用して、約 30 km/h 以上のあらゆる速度に速度を制限できます。

現在の速度の記憶および最後に記憶した速度の呼び出し

⚠ 警告

設定速度を呼び出し、それが現在の速度より低いときは、車両が減速します。 設定速度を覚えていないと、車両が不意に減速することがあります。 事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。 設定速度を

覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。

▶ クルーズコントロールレバーを運転者の方向 ③に軽く引きます。

速度の設定

▶ **設定速度を 10 km/h 単位で調整する：**高い速度には上方へ ①、低い速度には下方へ ④ 、クルーズコントロールレバーを圧力点を越えて軽く押します。

または

▶ 希望する速度に設定されるまでクルーズコントロールレバーを圧力点を越えて保持します。 高い速度には上方へ ①、低い速度には下方へ ④ 、クルーズコントロールレバーを押します。

▶ **設定速度を 1 km/h 単位で調整する：**高い速度には上方へ ①、低い速度には下方へ ④ 、クルーズコントロールレバーを圧力点まで軽く押します。

または

▶ 希望する速度に設定されるまでクルーズコントロールレバーを圧力点まで押して保持します。 高い速度には上方へ ①、低い速度には下方へ ④ 、クルーズコントロールレバーを押します。

可変スピードリミッターの解除

可変スピードリミッターを解除するにはいくつかの方法があります。

▶ クルーズコントロールレバーを前方 ⑥に軽く押します。

または

▶ クルーズコントロールレバーを矢印 ⑤の方向に軽く押します。
クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が消灯します。 可変スピードリミッターは解除されます。
クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスが選択されます。

アクセルペダルを圧力点を越えて踏むと(キックダウン)、現在の速度が保存した速度と約 20 km/h 以上異ならないときのみに、可変スピードリミッターは自動的に解除されます。 このときは警告音が鳴ります。

ブレーキにより可変スピードリミッターを解除することはできません。

ℹ エンジンを停止すると、記憶されている速度は消去されます。

スノータイヤスピードリミッター

マルチファンクションディスプレイを使用して、約 160 km/h(例えばウィンタータイヤで走行するとき) から最高速度までの間の値に、常に速度を制限できます(▷ 159 ページ)。

記憶された速度に到達する少し前に、マルチファンクションディスプレイに速度が表示されます。

可変スピードリミッターを解除しても、スノータイヤスピードリミッターは作動したままになります。

アクセルペダルをいっぱいまで踏み込んでも（キックダウン)、記憶された制限速度を超えることはできません。

ホールド機能

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

車両を離れるときは、ホールド機能によりブレーキを利かせているにも関わらず、以下のときに発進するおそれがあります。

- システムまたは電圧の供給に不具合がある
- 例えば車両乗員によってアクセルペダルが踏まれることによりホールド機能が解除される

- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造される
- バッテリーの接続が外された

事故の危険性があります。

車両を離れる前には常にホールド機能を解除し、発進しないように車両を固定してください。

! ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能が解除されます：

- けん引されるとき
- 洗車時

ホールド機能 (▷ 142 ページ)を解除してください。

全体的な注意事項

ホールド機能は以下のようなときに運転者を補助します。

- 特に急な坂道で発進するとき
- 急な坂道で車を動かすとき
- 発進待ちをしているとき

運転者がブレーキペダルを踏まなくても、車両が停止した状態を保ちます。

発進するためにアクセルペダルを踏み込むと、ブレーキ効果が解除されホールド機能は解除されます。

作動条件

ホールド機能は以下のときに作動させることができます。

- 停車しているとき
- エンジンがかかっている、またはエンジンを ECO スタート/ストップ機能によって自動的に停止しているとき
- 運転席ドアを閉じているとき、または運転者がシートベルトを着用しているとき
- パーキングブレーキが解除されているとき
- トランスミッションがポジション D、R、N のとき
- ディストロニック・プラスが解除されます。

ホールド機能を作動させる

▶ 作動条件が合っていることを確認します。

▶ ブレーキペダルを踏んでください。

▶ マルチファンクションディスプレイ ① に HOLD が表示されるまで、レーキペダルを素早く深く踏み込みます。
ホールド機能が作動します。ブレーキペダルから足を放すことができます。

i 最初にブレーキペダルを踏んだときにホールド機能が作動しない場合には、少し待った後に再度試してください。

ホールド機能を解除する

ホールド機能は以下のときに自動的に解除されます。

- 加速したとき、およびトランスミッションがシフトポジション D または R のとき
- トランスミッションをシフトポジション P にシフトしたとき
- マルチファンクションディスプレイから HOLD という表示が消えるまで、

一定の圧力で再度ブレーキペダルを踏んだとき
- パーキングブレーキを効かせて確実に停車したとき
- ディストロニック・プラスを作動したとき

i しばらくするとパーキングブレーキにより車両が固定され、サービスブレーキは解除されます。

ホールド機能が作動した状態で以下の状況になると、パーキングブレーキが自動的に車両を固定します。

- 運転席ドアを開いたときに運転席シートベルトが着用されていないとき
- ECO スタート / ストップ機能によりエンジンが自動的にオフになっていない場合で、エンジンがオフになっているとき
- システムに異常が発生したとき
- 電力供給が不十分なとき

異常が発生したときは、トランスミッションが自動的にポジション P になることもあります。

レーススタート

重要な安全上の注意

i スポーツハンドリングモードに関する安全上の注意を遵守してください(▷ 67 ページ)。

レーススタートはサーキットでのみの使用を目的としています。
レーススタートは停車状態から最適な加速力で発進できる機能です。この前提条件は、路面状況のグリップ力が高い場合です。

i レーススタートは SL 63 AMG モデルでのみ使用できます。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 作動条件
- レーススタートを使用する

アダプティブダンピングシステム

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

アクティブボディコントロール（AMG 車を除く）

車高

重要な安全上の注意

⚠ 警告

以下のとき、車高が少し下がります：

- 通常レベルでサスペンション制御 SPORT を選択したとき
- エンジンを停止しているとき

ホイールハウスの近くや車両の下に人がいると、挟まれるおそれがあります。 けがの危険性があります。
エンジンを停止しているときは、ホイールハウスの近くや車両の下に人がいないことを確認してください。

! エンジンを停止すると、サスペンション制御 SPORT が標準の車高で選択されている場合は、車高が下がります。 車高が自動的に約 10 mm 下がります。 駐車するときは、車高が下がって縁石に接触しないように車両の位置を確認してください。 車両が損傷するおそれがあります。

燃料消費を減少させ、走行性能を向上させるために、速度が上がると車高が下がります。サスペンション制御 SPORT では最大で約 13 mm、COMFORT では最大で約 5 mm 下がります。速度が下

がると、設定された車高まで車高が上がります。

通常の路面では"標準"設定を、スノーチェーンを装着して走行するときや路面が特に悪いときは"高い"を選択してください。選択した内容は、エンジンスイッチからキーを抜いても記憶されます。

高い車高に調整する

▶ エンジンがかかっていることを、または ECO スタート/ストップ機能によってエンジンが停止していることを確認します。

▶ 速度が 120 km/h を超えていないことを確認します。

▶ **表示灯 ② が点灯していない場合：**① スイッチを押します。
ECO スタート/ストップ機能によってエンジンが停止している場合は、エンジンが再始動します。
表示灯 ② が点灯します。車高が高い車高に調整されます。

標準の車高に調整する

▶ エンジンがかかっていることを、または ECO スタート/ストップ機能によってエンジンが停止していることを確認します。

▶ **表示灯 ② が点灯している場合：**① スイッチを押します。
表示灯 ② が消灯します。車高が標準の車高に調整されます。

"高い車高"の設定は以下のときに解除されます。

• 約 120 km/h 以上で走行したとき
• 80 km/h 以上の速度で約 3 分間走行したとき

サスペンション制御

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

COMAND ディスプレイの走行状況メニュー

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

アクティブボディコントロール（AMG 車）

車高

重要な安全上の注意

エンジンがオフになっているとき、車両は少し下がっています。

⚠ **警告**

車両を下げるときに、車体と車輪の間、または車両の下に手足がある場合、挟まれるおそれがあります。 けがの危険性があります。

車両を下げるときは、車両の下、またはホイールアーチのすぐ近くに誰もいないことを確認してください。

! 標準の車高を選択し、エンジンをオフにすると、車高が下がります。 車高が自動的に約 10 mm 下がります。 駐車するときは、車高が下がって縁石に接触しないように車両の位置を確認してください。 車両が損傷するおそれがあります。

燃料消費を減少させ、走行性能を向上させるために、速度が上がると車高が下がります。サスペンション制御 SPORT で

は最大で約 13 mm、COMFORT では最大で約 5 mm 下がります。速度が下がると、設定された車高まで車高が上がります。

通常の路面では"標準"設定を、スノーチェーンを装着して走行するときや路面が特に悪いときは"高い"を選択してください。

高い車高に調整する

- エンジンがかかっていることを、または ECO スタート/ストップ機能によってエンジンが停止していることを確認します。
- 速度が 120 km/h を超えていないことを確認します。
- **アイコン ② が表示されない場合：** ステアリングの ◀ または ▶ を押して、アシスト メニューを選択します。
- ▲ または ▼ スイッチを押して、車高 を選択します。
- OK スイッチを押します。
  以下のメッセージが表示されます：OK で上昇します.
- OK スイッチを押します。
  ECO スタート/ストップ機能によってエンジンが停止している場合は、エンジンが再始動します。
  アイコン ② が表示されます。車高が高い車高に調整されます。

標準の車高に調整する

- エンジンがかかっていることを、または ECO スタート/ストップ機能によってエンジンが停止していることを確認します。
- **アイコン ② が表示される場合：** ステアリングの ◀ または ▶ を押して、アシスト メニューを選択します。
- ▲ または ▼ スイッチを押して、車高 を選択します。
- OK スイッチを押します。
  以下のメッセージが表示されます：OK で下降します.
- OK スイッチを押します。
  アイコン ② が消えます。車高が標準の車高に調整されます。

"高い車高"の設定は以下のときに解除されます。

- 約 120 km/h 以上で走行したとき
- 80 km/h 以上の速度で約 3 分間走行したとき

サスペンション制御

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

COMAND ディスプレイの走行状況メニュー

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

パークトロニック

重要な安全上の注意

パークトロニックは超音波センサーによる駐車時に運転者を支援するシステムです。車両と物体との距離を視覚的、聴覚的に示します。

パークトロニックは駐車を支援するシステムです。 運転者の代わりに周辺状況を確認することはできません。 運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。 ステアリング操作や駐車を行なう間は、進行方向に人や動物、障害物が存在しないことを確認してください。

! 駐車するときは、鉢植えやトレーラーけん引部などセンサーの上下にあるものに十分注意をしてください。パークトロニックはこれらが車両の至近距離にあるときは感知できません。車両や物を損傷するおそれがあります。

センサーは超音波を吸収しやすい雪やその他のものを感知しないことがあります。

自動洗車機や大型車の排気ブレーキ、空気圧ドリルなどの超音波により、パークトロニックが誤作動することがあります。

不整地などではパークトロニックが正しく作動しないことがあります。

パークトロニックは以下のようなときに自動的に作動します。

- エンジンスイッチを 2 の位置にしたとき
- トランスミッションをポジション **D**、**R** または **N** にしたとき
- パーキングブレーキを解除したとき

パークトロニックは約 18 km/h 以上の速度で解除されます。それより低い速度で再作動します。

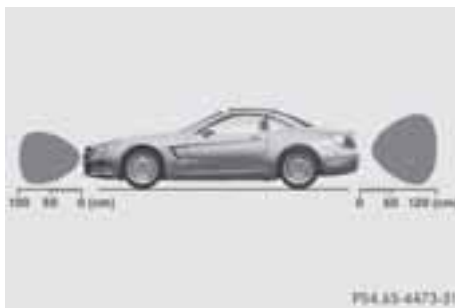
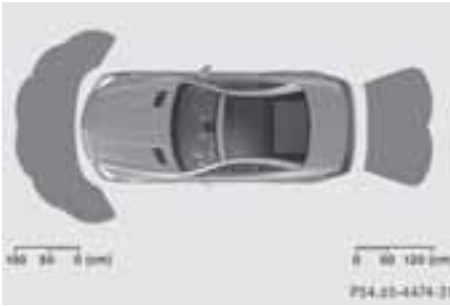
パークトロニックはフロントバンパーの 6 個のセンサーとリアバンパーの 4 個のセンサーを使用して、車両周辺のエリアをモニターします。

センサーの感知範囲

全体的な注意事項

以下のとき、パークトロニックは障害物を考慮しません：

- 人や動物、障害物などが検知範囲の下にあるとき
- 車両から突き出た荷物や車両後部、積載用スロープなどが検知範囲の上にあるとき

① 例：左側フロントバンパーのセンサー

側面図

上面図

センサーに汚れ、氷および泥がないようにしてください。適切に機能しないことがあります。センサーに損傷を与えないように注意して、定期的に清掃してください。(▷ 223 ページ)

フロントセンサー

センター部	約 100 cm
コーナー部	約 60 cm

リアセンサー

センター部	約 120 cm
コーナー部	約 80 cm

最小範囲

センター部	約 20 cm
コーナー部	約 15 cm

この範囲内に障害物があるときは、対応する警告灯が点灯して警告音が鳴ります。最短感知距離以下になると、警告灯が表示されなくなることがあります。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- 警告表示
- パークトロニックの解除 / 作動
- パークトロニックの問題

パーキングアシストリアビューカメラ

重要な安全上の注意

パーキングアシストリアビューカメラは駐車支援システムです。 運転者の代わりに周辺状況を確認することはできません。 運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。 ステアリング操作や駐車を行なう間は、進行方向に人や動物、障害物が存在しないことを確認してください。

次のような環境下ではパーキングアシストリアビューカメラは機能しなかったり、制限された方法で機能します。

- テールゲートが開いているとき
- 激しい雨、雪または霧のとき
- 夜や非常に暗い場所のとき
- カメラが非常に明るい光にさらされているとき
- エリアが蛍光灯の光、または LED の光で照らされているとき (ディスプレイがちらつくことがあります)
- 冬に暖かい車庫に入るなど、急激な温度の変化があったとき
- カメラのレンズが汚れていたり、遮られているとき
- 車両の後部が損傷しているとき。このようなときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの位置や設定を点検してください。

! 以下のような路面に接していない障害物は、実際よりも遠くにあるように見えることがあります。

- 駐車車両のバンパー
- トレーラーのトーイングバー
- トレーラーけん引ヒッチのボールヘッドカップリング
- HGV のリア部
- 傾いた柱

ガイドラインはあくまでも目安として利用してください。 障害物に近付くときは、障害物が一番下のガイドラインを越えないように注意してください。

リアビューカメラは、状況によっては障害物の歪んだ映像を映し出したり、障害物が正確に映し出されなかったり、まったく映らないことがあります。 障害物は以下場所ではリアビューカメラで表示できません：

- リアバンパーの近接部
- リアバンパーの下
- テールゲートハンドルのすぐ上のエリア

全体的な注意事項

パーキングアシストリアビューカメラ ① はトランクハンドルにあります。

パーキングアシストリアビューカメラ ① は映像により駐車およびステアリング操作を補助するシステムです。システムは、COMAND ディスプレイに車両後方の映像をガイドライン入りで表示します。

車両後方エリアは、ルームミラーに写るように鏡像で表示されます。

ℹ COMAND ディスプレイに表示されるメッセージの文字は、言語設定により異なります。以下は COMAND ディスプレイのパーキングアシストリアビューカメラのメッセージの例です。

パーキングアシストリアビューカメラの作動 / 解除

▶ **作動させる：** エンジンスイッチが **2** の位置になっていることを確認します。

▶ “パーキングアシストリアビューカメラのディスプレイ表示” 機能が COMAND システムで選択されていることを確認してください。デジタル版取扱説明書をご覧ください。

▶ リバースギアに入れます。
車両後方のエリアがガイドラインとともに COMAND ディスプレイに表示されます。

解除する： パーキングアシストリアビューカメラは以下のときに解除されます。

- トランスミッションをシフトポジション **P** にしたとき
- 約 10 m 前進
- シフトポジション **R** 以外にしたとき（約 15 秒後）
- 10 km/h 以上の速度で前進したとき

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- COMAND ディスプレイの表示
- 後退駐車機能

アテンションアシスト

重要な安全上の注意

アテンションアシストはあくまでも運転を支援するシステムです。 疲労や集中力低下の度合いを検出するのが遅すぎたり、全くしないことがあります。 十分な休憩を取ったり、集中力のある運転者の代わりになるものではありません。

アテンションアシストは高速道路や幹線道路のような道路で、長時間の変化の少

ない走行をするときに運転者を補助します。80 km/h から 180 km/h の範囲で作動します。

アテンションアシストが運転者の疲労の増加や集中力の欠如などの典型的な兆候を検知したときは、休憩を促します。

アテンションアシストは以下のような基準を考慮して、運転者の疲労や集中力欠如の度合いを判断します。

- ステアリング操作などのお客様の運転スタイル
- 時間や走行の長さなどの走行に関する要因

以下のときは、アテンションアシストの機能が制限されたり、警告が遅れる、またはまったく行なわれないことがあります。

- 路面が平坦でなかったり、穴があるなど、道路の状態が悪いとき
- 横風が強いとき
- 高いスピードでカーブを曲がっているときや急加速をしているときなど、スポーティな運転を行なっているとき
- 主に 80 km/h 以下や 180 km/h 以上の速度で運転しているとき
- COMAND システムを使用しているときや COMAND システムで電話を発信しているとき
- 時刻が正しく設定されていないとき
- 車線を変更したり走行速度を変えるなどの活発な運転状況のとき

マルチファンクションディスプレイの警告とディスプレイメッセージ

▶ マルチファンクションディスプレイを使用してアテンションアシストを作動させます(▷ 159 ページ)。

マーク ① がマルチファンクションディスプレイに表示されます。

▶ **マルチファンクションディスプレイに** アテンションアシスト 休憩しませんか？ **というメッセージが表示されます。** 必要であれば、休憩を取ってください。

▶ OK または ⮌ スイッチを押して、メッセージを確認します。

アテンションアシストが作動しているときは、警告は走行を開始して約 20 分が経過してから行なわれます。マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されるとともに、断続警告音が 2 回鳴ります。

長時間の運転では、適切な休憩をするために、適切な時間に定期的に休憩を取るようにしてください。休憩を取らずに、アテンションアシストがなお集中力の欠如の増加を検知しているときは、約 15 分後に再度警告が行なわれます。

走行を継続するときは以下のときに、アテンションアシストはリセットされ、運転者の疲労の評価を開始します。

- エンジンを停止したとき
- 運転者を交代したり、休憩を取るために、運転者がシートベルトを外して運転席のドアを開いたとき

アクティブドライビングアシスタンスパッケージ

全体的な注意事項

アクティブドライビングアシスタンスパッケージはディストロニックプラス(▷ 132 ページ) と、アクティブブラインドスポットアシスト (▷ 150 ページ)、

アクティブレーンキーピングアシスト
(▷ 153 ページ) で構成されています。

アクティブブラインドスポットアシスト

重要な安全上の注意

アクティブブラインドスポットアシストはあくまでも運転を支援するシステムです。 状況によっては車両を検知できないことがあり、運転者の代わりに安全確認を行なうことはできません。

⚠ **警告**

アクティブブラインドスポットアシストは、以下のときは作動しません。

- 自車が追い越そうとしている隣接車線の車両が接近し過ぎ、死角エリアに入ったとき
- 隣接車線の接近車両との速度差が約 11 km/h を超えているとき

この場合、アクティブブラインドスポットアシストは警告も介入も行ないません。 事故の危険性があります。

常に交通状況に注意し、隣接する車両と安全な距離を維持してください。

全体的な注意事項

アクティブブラインドスポットアシストはレーダーセンサーシステムを使用して、運転者後方の車両側方のエリアをモニターします。ドアミラーの警告表示によって、モニターしている範囲で検知された車両に運転者の注意が向けられます。そのときに車線変更する側の方向指示灯を作動させると、視覚的および聴覚的な衝突警告が行なわれます。側方衝突の危険性が検知されると、修正のためのブレーキが衝突回避を補助します。進路修正ブレーキの機能を支援するために、アクティブブラインドスポットアシストは前方レーダーセンサーシステムも使用します。

アクティブブラインドスポットアシストは約 30 km/h 以上の速度で運転者を支援します。

走行中にアクティブブラインドスポットの効果を発揮させるには、レーダーセンサーをオンにして作動させる必要があります。さくいんにある"レーダーセンサーシステム"をご覧ください。

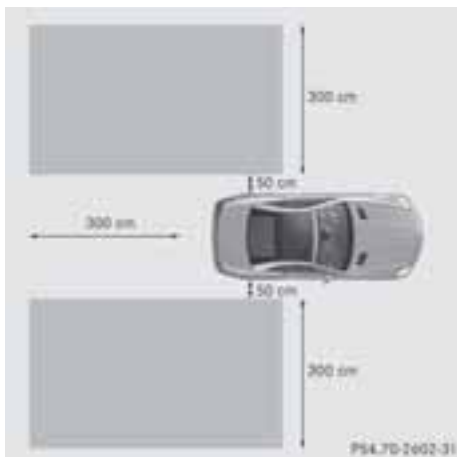
ℹ (▷ 159 ページ)国によっては、レーダーセンサーシステムを解除する必要があります。

レーダーセンサーシステムに関する詳細は、(▷ 272 ページ) をご覧ください。

モニター範囲

特に以下の状況では、障害物の検知が困難になります。

- センサーに異物が付着しているとき、またはセンサーが何かでおおわれているとき
- 霧や激しい雨、雪などで視界が悪いとき
- 先行車がオートバイのように車幅が狭い車両のとき
- 非常に幅の広い車線
- 狭い車線
- 車線の中央を走行していない車両
- 隔壁その他の道路分離帯

モニター範囲にある車両は検知されません。

アクティブブラインドスポットアシストは図に示すように、約 3.0 m までの車両後方、および車両のすぐ側方の範囲をモニターします。このために、アクティブブラインドスポットアシストはリアバンパーのレーダーセンサーを使用します。

車線が狭い場合は、特に車両が車線の中央を走行していない場合は、お客様の車両の隣車線の次の車線の車両を検知することがあります。これは、車両が車線の外端部を走行している場合などです。

以下は、システムの特性に起因するものです。

- ガードレール、または似たような高さのある車線境界の近くを走行しているときに警告が間違って発せられることがあります。
- トラックなど特に長い車両が長い時間並走しているときに、警告が中断されることがあります。

アクティブブラインドスポットアシストの 2 個のレーダーセンサーは、それぞれフロントとリアのバンパーに内蔵されています。追加のレーダーセンサーは、ラジエーターグリルのカバーの裏に装着されています。バンパーとラジエーターグリルのカバーに汚れや、氷、泥がないことを確認してください。リアセンサーが自転車用ラック、または突き出た荷物などによって覆われないようにしてください。強い衝撃を受けたり、バンパーに損傷を与えたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの機能を点検してください。アクティブブラインドスポットアシストが正しく作動しないことがあります。

表示灯と警告表示

① 黄色の表示灯/赤の警告灯

アクティブブラインドスポットアシストは約 30 km/h 以下の速度では作動しません。モニター範囲にある車両は検知されません。

アクティブブラインドスポットアシストが作動しているとき、ドアミラーの表示灯 ① は、約 30 km/h 以下の速度では黄色に点灯します。30 km/h 以上の速度では、表示灯は消え、アクティブブラインドスポットアシストが作動可能になります。

約 30 km/h 以上の速度でブラインドスポットアシストのモニター範囲内に車両が検知されると、対応する側の警告灯 ① が赤に点灯します。この警告は、後方または側方から車両がブラインドスポットのモニター範囲に入ると常に行なわれます。 車両を追い越すときは、速度差が約 12 km/h 以下の場合にのみ警告が行なわれます。

黄色の表示灯はリバースギアになると消灯します。アクティブブラインドスポットアシストは作動しなくなります。

表示灯/警告灯の明るさは周囲の明るさによって自動的に調整されます。

視覚と音声による衝突警告

方向指示灯を作動させて車線を変更し、モニター範囲側で車両が検知されると、視覚と音声による衝突警告が発せられます。その後、2 倍の速さの警告音が聞こえ、赤色の警告灯 ① が点滅します。方向指示灯をそのままにすると、検知された車両が赤色の警告灯 ① の点滅により表示されます。警告音はそれ以上鳴りません。

車線修正ブレーキの適用

⚠ **警告**

車線修正ブレーキの適用は、常に衝突を防ぐわけではありません。 事故の危険性があります。

特に、アクティブブラインドスポットアシストが警告するまたは車線修正ブレーキの適用をする場合、必ずステアリング操作、ブレーキ操作、加速操作を行なってください。常に両側との安全な車間距離を維持してください

⚠ **警告**

アクティブブラインドスポットアシストはすべての交通状況と道路使用者を検知するわけではありません。まれに、システムが適切でないブレーキの適用を行なうことがあります。 事故の危険性があります。

ステアリングを反対方向に軽く操作する、または加速すると、適切でないブレーキの適用を中断できます。他の交通や障害物との距離が十分であることを常に確認してください。

車線ブレーキの適用が行なわれると、ドアミラーにある赤色の警告灯 ① が点滅して、2 倍の速さの警告音が鳴ります。さらにマルチファンクションディスプレイにマーク ② が表示されます。

アクティブブラインドスポットアシストがモニター範囲で側方の衝突の危険性を検知すると、車線修正ブレーキの適用が行なわれます。これは、運転者の衝突回避を補助するために設計されています。

車線修正ブレーキの適用は、約 30 km/h から 200 km/h の速度範囲で使用できます。

以下のときは、車線修正ブレーキの適用は少し行なわれるか、またはまったく行なわれません。

- 車両の両側に車両や障害物があるとき
- 側方すぐのところに車両が接近しているとき
- 高い速度でカーブを曲がるスポーティな運転を行なっているとき
- 明確にブレーキ操作またはアクセル操作を行なうとき
- ESP® または PRE-SAFE® ブレーキのような走行安全システムが介入しているとき
- ESP® の機能が解除されているとき
- タイヤ空気圧の低下やタイヤの不具合が検知されたとき

アクティブブラインドスポットアシストの作動

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

アクティブレーンキーピングアシスト

重要な安全上の注意

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、アクティブレーンキーピングアシストは事故被害を軽減したり、物理的限界を超えて安全を確保することはできません。 アクティブレーンキーピングアシストは、道路、天候、交通状況を考慮することはできません。アクティブレーンキーピングアシストはあくまでも運転を支援するシステムです。 運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時にブレーキをかけ、車線を維持する責任があります。

アクティブレーンキーピングアシストは車両を車線内に保ち続けることはできません。

⚠ **警告**

アクティブレーンキーピングアシストは必ずしも明確に車線ラインを検知することはできません。

このような場合、アクティブレーンキーピングアシストは以下を行うことがあります

- 意味のない警告を行ない、車両に車線修正ブレーキをかける
- 警告を行なわなくなる、または作動しなくなる

事故の危険性があります。

特にアクティブレーンキーピングアシストが警告しているときは、必ず交通状況に注意を払い車線内に保つようにしてください。 危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

以下のときはシステムの作動が損なわれたり、正しく機能しないことがあります。

- 道路に十分な照明がなかったり、雪や雨、霧や小雨のときなど視界が悪いとき
- 対向交通や太陽、または他の車からの反射光（路面が濡れているなど）でまぶしいとき
- フロントウインドウが汚れていたり、曇っているとき、または、カメラ付近がステッカーなどで覆われているとき
- 工事などで 1 車線の車線マークが全くない、いくつかある、不明瞭なとき
- 車線ラインが摩耗しているときや黒ずんでいるとき、または汚れや雪などに覆われているとき
- 先行車両との車間距離が短くて車線マークが検知できないとき
- 車線の分岐や他との交差、合流などで車線マークが頻繁に変わるとき
- 道路が狭かったりカーブしているとき
- 道路上の日陰との差が大きいとき

全体的な注意事項

アクティブレーンキーピングアシストはフロントウインドウ上部にあるカメラ ① で車両前部をモニターします。アクティブレーンキーピングアシストは路面の車線マークを検知し、意図せずに車線を外れる前に運転者に警告を行ないます。警告に反応しない場合は、ブレーキの車線

修正を適用することにより車両を元の車線に戻すことができます。

マルチファンクションディスプレイの表示単位 速度/距離: (▷ 159 ページ)で機能 km を選択すると、アクティブレーンキーピングアシストが約 60 km/h の速度で作動を開始します。miles 表示が選択されていると、支援範囲は約 40 mph から始まります。

ステアリングの警告の振動

前輪が車線マークを超えると警告が行なわれます。警告はステアリングを約 1.5 秒間以上振動させることにより行なわれます。

車線ラインを越えたとき、必要な状況で適切なタイミングでのみ警告を行なうため、システムは特定の状況を認識し、それに応じて警告を行ないます。

以下のときは、早めに警告の振動が行なわれます。

- カーブの外側の車線ラインに近づいたとき
- 高速道路などの非常に幅の広い道路のとき
- システムが実線の車線マークを検知したとき

以下のときは、遅めに警告の振動が行なわれます。

- 狭い車線の道路のとき
- カーブの内側をまたいだとき

車線修正ブレーキの適用

⚠ **警告**

車線修正ブレーキを適用しても車両が元の車線に戻るとは限りません。 事故の危険性があります。

特に、アクティブレーンキーピングアシストが警告する、または車線修正ブレーキが適用される場合、必ずステアリング操作、ブレーキ操作、加速操作を行なってください。

⚠ **警告**

アクティブレーンキーピングアシストは交通状況や道路を利用している人を検知しません。まれに、実線の車線マークの上を故意に走行した後などにシステムによって適切でないブレーキが適用されることがあります。 事故の危険性があります。

ステアリングを反対方向に軽く操作すると、適切でないブレーキの適用を中断できます。他の交通や障害物との距離が十分であることを常に確認してください。

ごくまれに、アクティブレーンキピングアシストは不明瞭なマーク、または道路の特定の構造物を立体的な車線マークとして認識することがあります。ステアリングを反対方向に軽く操作すると、適切でないブレーキの適用を中断できます。

車線修正ブレーキが介入すると、マルチファンクションディスプレイに ① が表示されます。

特定の状況で車線から外れた場合には、片側の車輪にブレーキが軽くかかります。これは車両を元の車線に戻すのを補助するために設計されたものです。

この機能は、約 60 km/h から 200 km/h の間の速度で作動します。

車線修正ブレーキの適用は、実線の認識可能な車線マークの上を走行した後のみ行なわれます。これ以前は、ステアリングの断続的な振動により警告が発せられます。さらに、両側に車線マークのある

車線を認識しなくてはなりません。ブレーキの適用により、走行速度も少し低下します。

ℹ 車両が元の車線に戻った後にのみ、車線修正ブレーキの適用は行なわれます。

以下のときは、車線修正ブレーキの適用は行われません。

- 明確に、および活発にステアリング操作やブレーキ操作、加速操作を行なったとき
- きついカーブの内側をまたいだとき
- 方向指示灯を作動させたとき
- ESP®、PRE-SAFE® ブレーキまたはアクティブブラインドスポットアシストのような走行安全システムが介入したとき
- 高い速度でカーブを曲がっているときや急加速をしているときなど、スポーティな運転を行なっているとき
- ESP® の機能が解除されているとき
- トランスミッションがシフトポジション D でないとき
- タイヤ空気圧の減少やタイヤの不具合が検知されて表示されたとき

アクティブレーンキーピングアシストは道路や交通状況は検知しません。不適切なブレーキの適用は以下のときに、いつでも中断されます。

- ステアリングを反対方向に軽く操作したとき
- 方向指示灯を作動させたとき
- 明確にブレーキ操作または加速操作を行なったとき

車線修正ブレーキの適用は以下のときに自動的に中断されます。

- ESP®、PRE-SAFE® ブレーキまたはアクティブブラインドスポットアシストのような走行安全システムが介入したとき
- 車線マークが認識できなくなったとき

アクティブレーンキーピングアシストの作動

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 27 ページ)

重要な安全上の注意

⚠ 警告

走行中に車両のマルチファンクションディスプレイや COMAND システムの操作を行なうと、交通状況に対する注意が払われなくなります。また車のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

交通状況が安全な時にのみ、操作するようにしてください。 安全が確保されない場合は、必ず安全な場所に停車してから操作してください。

⚠ 警告

メーターパネルに故障や異常がある場合は、安全性に関わる機能が認められません。 走行安全性が損なわれる可能性があります。 事故の危険性があります。

注意して運転してください。すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

マルチファンクションディスプレイを操作するときは、そのときに運転している国の法規則に従ってください。

マルチファンクションディスプレイは、特定のシステムからのメッセージや警告のみを表示します。 そのため、常に安全に走行してください。 車両を安全に操作しないと、事故の原因になるおそれがあります。

メーターパネルの図は、(▷ 32 ページ)をご覧ください。

表示および操作

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- メーターパネル照明
- エンジン冷却水温度計
- タコメーター
- セグメント付きスピードメーター
- マルチファンクションディスプレイ
- 外気温度計

マルチファンクションディスプレイの操作

概要

① マルチファンクションディスプレイ

② 音声認識の開始：別冊の取扱説明書をご覧ください

③ 右側操作パネル

④ 左側操作パネル

⑤ リターンスイッチ

▶ **マルチファンクションディスプレイを起動する：** イグニッション位置を **1** にします。

マルチファンクションステアリングのスイッチを使用して、マルチファンクションディスプレイの操作と設定を行なうことができます。

左側操作パネル

	• メニューやメニューバーの呼び出し
 	軽く押す： • リストのスクロール • サブメニューや機能の選択 • オーディオ メニュー：保存した放送局、音楽トラックまたはビデオシーンの選択 • TEL（電話）メニュー：電話帳の表示、名前や電話番号の選択
▲ 	**長押しする：** • オーディオ メニュー：高速スクロールによる、前 / 次の放送局または音楽トラック、ビデオシーンの選択 • TEL （電話）メニュー：電話帳を開いている場合、高速スクロールの開始
	• 選択項目 / ディスプレイメッセージの確定 • TEL （電話）メニュー：電話帳への切り替えと発信の開始 • オーディオ メニュー：放送局サーチ機能による希望の放送局の選局

右側操作パネル

	• 通話を拒否する、または終了する • 電話帳 / 発信履歴を終了する
📞	• 発信する、または受ける • リダイアルメモリーに切り替える
＋ －	• 音量の調整
🔇	• ミュート

リターンスイッチ

↩	**軽く押す：** • 前の画面に戻る • 音声認識のオフ：別冊の取扱説明書をご覧ください • ディスプレイメッセージの消去/最後に使用した トリップ メニュー機能の呼び出し • 電話帳 / 発信履歴の終了
↩	**長押しする：** • トリップ メニューの基本画面の呼び出し

メニューおよびサブメニュー

メニュー概要

ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、メニューバーを呼び出し、メニューを選択します。

マルチファンクションディスプレイの操作 (▷ 158 ページ)

デジタル版取扱説明書には、個々のメニューについての詳しい情報が記載されています。

車両に取り付けられている装備に応じて、以下のメニューを呼び出すことができます。

- ﾄﾘｯﾌﾟ メニュー
- ﾅﾋﾞ メニュー（ナビゲーション案内）
- ｵｰﾃﾞｨｵ メニュー
- TEL メニュー（電話）
- ｱｼｽﾄメニュー（支援機能）
- ﾒﾝﾃﾅﾝｽ メニュー
- 設定 メニュー（設定）
- AMG メニュー（AMG 車両）

ディスプレイメッセージ

概要

全体的な注意事項

本項目では、安全に関わるディスプレイメッセージおよびその対応方法などについて記載しています。他のメッセージおよびその対応方法の記載については、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

ディスプレイメッセージはマルチファンクションディスプレイに表示されます。

取扱説明書では記号マークを伴うディスプレイメッセージを簡略化しているため、マルチファンクションディスプレイのマークと異なる場合があります。

ディスプレイメッセージの指示に従って対応し、この取扱説明書の追加の注意事項に従ってください。

特定のディスプレイメッセージには、警告音、または連続音が伴います。

車両を駐停車するときは、ホールド機能 (▷ 141 ページ) および駐車 (▷ 129 ページ) に関する注意に従ってください。

ディスプレイメッセージを非表示にする

▶ ディスプレイメッセージを非表示にするには、ステアリングの OK または ⮌ スイッチを押します。
ディスプレイメッセージが消えます。

マルチファンクションディスプレイには、重要度の高いメッセージが赤色で表示されます。 重要度の高いディスプレイメッセージは非表示にはなりません。

これらのメッセージは、故障や異常の原因が解決するまでマルチファンクションディスプレイに常時表示されます。

メッセージメモリー

マルチファンクションディスプレイは **メッセージメモリ** の中の特定のディスプレイメッセージを保存します。 以下のようにしてディスプレイメッセージを呼び出すことができます。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、メンテナンス メニューを選択します。
メッセージがある場合は、ディスプレイに 2 メッセージ のように故障の件数が表示されます。

▶ ▲ または ▼ スイッチを押して、 2 メッセージ を選択します。

▶ 押して OK 確定します。

▶ ▲ または ▼ スイッチを押して、ディスプレイメッセージをスクロールします。

エンジンスイッチからキーを抜くと、重要度の高い一部のメッセージを除いて、メッセージがすべて削除されます。 故障の原因が解決すると、重要度の高いメッセージも削除されます。

安全装備

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 現在 使用できません 取扱説明書を参照	ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、BAS（ブレーキアシスト）、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライト、BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも故障した。 メーターパネルの 、 、 警告灯も点灯している。 アテンションアシストの機能は解除されている。 考えられる原因 • セルフ・ダイアグノシスがまだ完了していない。 • バッテリーの電圧が不十分な可能性がある。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 約 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリング操作しながら、適切な道路を選んで注意して走行してください。ディスプレイメッセージが消えると、上記の機能が再び作動します。 ディスプレイメッセージが消えないとき ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙｦ ｻﾝｼｮｳ	故障のため、ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	アダプティブブレーキライト、BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも故障した。 さらに、メーターパネルの [!]、[ESP]、[ESP OFF]、[ABS] 警告灯も点灯している。 アテンションアシストの機能は解除されている。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 現在 使用できません 取扱説明書を参照	ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライト、BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも故障した。 さらに、メーターパネルの [icon] と [icon] 警告灯も点灯している。 アテンションアシストの機能は解除されている。 たとえば、セルフダイアグノシスがまだ完了していないと考えられる。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。これにより緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 約 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリング操作しながら、適切な道路を選んで注意して走行してください。ディスプレイメッセージが消えると、上記の機能が再び作動します。 ディスプレイメッセージが消えないとき ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 コショウ マニュアルヲ サンショウ	故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライト、BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも故障した。 さらに、メーターパネルの [icon] と [icon] 警告灯も点灯している。 アテンションアシストの機能は解除されている。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 これにより緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 コショウ マニュアルヲ サンショウ	故障のため、EBD（エレクトロニックブレーキパワーディストリビューション）ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライト、BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも故障した。 さらに、メーターパネルの と 、 も点灯し、警告音が鳴った。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには前輪および後輪がロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 ブ レーキ オイル レベ ル テンケン	リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 さらに、メーターパネルの も点灯し、警告音が鳴った。 ⚠ **警告** ブレーキの性能が損なわれるおそれがある。 事故の危険性があります。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。（▷ 129 ページ） ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 ▶ 絶対にブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
プレセーフ ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙｦ ｻﾝｼｮｳ	PRE-SAFE®の重要な機能に異常がある。エアバッグなどの他の乗員保護装置はすべて機能している。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
プレセーフ 機能が現在 制限されています 取扱説明書を参照	PRE-SAFE® ブレーキが解除されている、または一時的に作動しない状態になっている。考えられる原因 • 激しい雨や雪により機能が損なわれている • ラジエーターグリルとバンパーに装着されたセンサーが汚れている • 周囲のテレビ・ラジオ放送局などの設備から発生している電磁波などの影響により、レーダーセンサーシステムが一時的に作動しない状態になっている • AMG 車： ESP® が解除された • システムが作動温度範囲外にある • バッテリーの電圧が低下している 上記の原因が解消すると、ディスプレイメッセージが消える。 PRE-SAFE® ブレーキが再び作動する。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 129 ページ) ▶ ラジエーターグリルとバンパーに装着されたセンサーを清掃します(▷ 223 ページ)。 ▶ エンジンを再始動してください。 ▶ AMG 車：ESP® を再び作動させてください。(▷ 67 ページ)
プレセーフ 機能が 制限されています 取扱説明書を参照	PRE-SAFE® ブレーキが故障のために機能していない。BAS プラスまたは車間距離警告も故障した。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
故障 工場で点検	ロールバーが故障している。 ⚠ **警告** その場合は、事故などで衝撃を受けてもロールバーが起き上がらなくなるおそれがあります。 けがをするおそれが高まります。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
SRS ｼｽﾃﾑ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ	SRS（乗員保護補助装置）が故障している。メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。 けがをするおそれが高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 乗員保護補助装置に関する詳しい情報は、(▷ 43 ページ)を参照してください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 フロント左 SRS システム故障 工場で点検 または フロント右 SRS システム故障 工場で点検	フロント左側またはフロント右側の SRS に異常がある。メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。 けがをするおそれが高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 左ウインドウバッグ故障 工場で点検 または 右ウインドウバッグ 故障 工場で点検	左側または右側のヘッドバッグに異常がある。メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** 左側または右側のヘッドバッグが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。 けがをするおそれが高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジン

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
レイキャクスイ　テイシャ シテ、エンジン ヲ テイシ!	冷却水の温度が高すぎる。 警告音も鳴った。 ⚠ **警告** エンジンがオーバーヒートした状態では絶対に走行しないでください。エンジンが過熱した状態で走行すると、エンジンルームに漏れたフルード類に引火するおそれがある。 ボンネットを開いただけで、過熱したエンジンからの蒸気で重度の火傷をするおそれがある。 けがの危険性があります。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。（▷ 129 ページ） ▶ 車から降り、エンジンが冷えるまで車から安全な距離を確保してください。 ▶ 雪やほこりなどにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ ディスプレイメッセージが消え冷却水温度が約 120 ℃以下に下がるまではエンジンを再始動しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ エンジン冷却水温度計で冷却水温度を点検してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、通常の作動条件で冷却水温度が約 120 ℃に上がるまではオーバーヒートは起こしません。

走行装備

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ABC 故障	ABC（アクティブ・ボディ・コントロール）の機能が制限されている。 ⚠ **警告** 車両のサスペンション制御特性に影響が生じるおそれがあります。 事故の危険性があります。 ▶ 80 km/h 以上の速度で走行しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ABC 故障 停車してください	ABC の車高が低すぎる。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 数秒後に車高が調整され、ディスプレイメッセージが消えるとき

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	車両からオイルが漏れている。 メッセージが常時表示されている。 ⚠ **警告** 車両のサスペンション制御特性に影響が生じるおそれがあります。 事故の危険性があります。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。（▷ 129 ページ） ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
	ABC に異常がある。 メッセージが常時表示されている。 ⚠ **警告** サスペンション制御特性に影響が生じています。 事故の危険性があります。 ▶ 80 km/h 以上の速度で走行しないでください。 ▶ ステアリングを大きくまわさないでください。ステアリングを大きくまわすと、フロントフェンダーやタイヤを損傷するおそれがあります。 ▶ 擦れる音がしないか確認してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

タイヤ

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
タイヤ空気圧 タイヤを点検してください	タイヤ空気圧警告システムがタイヤからの急激な空気の漏れを検知した。 警告音も鳴った。 ⚠ **警告** タイヤ空気圧が低すぎると、以下の危険が生じるおそれがある。 • 荷重が大きく車両速度が高い場合は特に、タイヤが破裂するおそれがある。 • タイヤが過度に、また不均一に摩耗し、それによってタイヤの駆動力が損なわれるおそれがある。 • ステアリング操作やブレーキ操作などの車両操縦性が大幅に損なわれるおそれがある。 事故の危険性があります。 ▶ 急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。周囲の状況に注意しながら操作してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。（▷ 129 ページ） ▶ パンクしているタイヤがある場合は、タイヤの点検を行なってください。(▷ 228 ページ) ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であれば適正な空気圧に調整してください。 ▶ 適正なタイヤ空気圧に調整した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。（▷ 250 ページ）

車両

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	ボンネットが開いている。 警告音も鳴った。 ⚠ **警告** ボンネットが開いた状態で走行すると視界が遮られるおそれがある。 事故の危険性があります。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。（▷ 129 ページ） ▶ ボンネットを閉じます。
 ﾊﾟﾜｰｽﾃｱﾘﾝｸﾞ ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙｦ ｻﾝｼｮｳ	ステアリングのパワーアシストが故障している。 警告音も鳴った。 ⚠ **警告** ステアリング操作に大きな力が必要になる。 事故の危険性があります。 ▶ 大きな力を加えればステアリングが操作できるか確認してください。 ▶ **安全にステアリング操作ができるときは、**注意しながら、メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 ▶ **安全にステアリング操作ができないときは、**走行しないでください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

警告灯と表示灯

全体的な注意事項

この章では、メーターパネルに表示される安全に関わる表示灯と警告灯および対応方法について説明しています。 メーターパネルに表示される他の表示灯と警告灯の概要および対応方法については、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

安全装備

シートベルト

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
フロントドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。 (▷ 51 ページ) 警告灯が消灯します。
	助手席シートの上に荷物を置いている。 ▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の安全な場所に収納してください。 警告灯が消灯します。
赤色のシートベルト警告灯が点滅し、断続的な警告音も鳴った。	運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。その状態で、約 25 km/h 以上の速度で走行している。または速度が一時的に約 25 km/h を超えた。 ▶ シートベルトを着用してください。 (▷ 51 ページ) 警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
	助手席シートの上に荷物を置いている。 その状態で、約 25 km/h 以上の速度で走行している。または速度が一時的に約 25 km/h を超えた。 ▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の安全な場所に収納してください。 警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。

安全装備

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
(!) エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 ⚠ 警告 ブレーキの性能が損なわれるおそれがある。 事故の危険性があります。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。（▷ 129 ページ） ▶ 絶対にブレーキ液を補給しないでください。補給しても異常は解消しません。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。
(ABS) エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	故障のため ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）が解除されている。そのため、BAS（ブレーキアシスト）、BAS プラス、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトなどの機能も解除されている。 アテンションアシストの機能は解除されている。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ABS コントロールユニットが故障すると、ナビゲーションシステム、オートマチックトランスミッションなど、他のシステムも作動しなくなる可能性がある。
(ABS) エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	ABS が一時的に作動しない。そのため、BAS、BAS プラス、ESP®、EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトなどの機能も解除されている。 考えられる原因 • セルフ・ダイアグノシスがまだ完了していない。 • バッテリーの電圧が不十分な可能性がある。 アテンションアシストの機能は解除されている。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには前輪および後輪がロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 事故の危険性があります。 ▶ 約 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリング操作しながら、適切な道路を選んで注意して走行してください。警告灯が消灯すると、上記の機能が再び作動します。 警告灯がまだ点灯したままのとき ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
(ABS) エンジンがかかっているときに黄色のABS 警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	EBD が故障のために作動しない。そのため、ABS、BAS、BAS プラス、ESP®、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトなどの機能も作動しない状態になっている。 アテンションアシストの機能は解除されている。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには前輪および後輪がロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯、黄色の ESP® 表示灯、ESP® オフ表示灯、黄色の ABS 警告灯が点灯する。	ABS と ESP® が故障のために作動しない。そのため、BAS、BAS プラス、EBD、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトなどの機能も作動しない状態になっている。 アテンションアシストの機能は解除されている。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには前輪および後輪がロックする可能性がある。 ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
走行中に黄色の ESP® 表示灯が点滅する。	車が横滑りをするおそれがあるか、少なくとも 1 つの車輪が空転し始めているため、ESP® やトラクションコントロールが作動している。 クルーズコントロールやディストロニック・プラスは解除されている。 ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中は緩やかに加速してください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESP® の機能を解除しないでください。 例外事項については、(▷ 65 ページ) をご覧ください。

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
[ESP OFF表示] エンジンがかかっているときに黄色のESP® オフ表示灯が点灯する。	ESP® の機能が解除されているとき ⚠ 警告 ESP® がオフになっている場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ ESP® を再び作動させてください。 例外事項については、(▷ 65 ページ) をご覧ください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ESP® が作動しないとき ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で ESP® の点検を受けてください。
SPORT AMG 車のみ： エンジンがかかっているときに黄色のESP® スポーツ表示灯が点灯する。	スポーツモードになっている。 ⚠ 警告 スポーツモードがオンになっている場合、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ スポーツハンドリングモードの特定の状況でのみ切り替えます (▷ 67 ページ)。

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンがかかっているときに黄色のESP® 表示灯と黄色のESP® オフ表示灯が点灯する。	故障のため、ESP®、BAS、BAS プラス、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトの機能が作動しない状態になっている。 アテンションアシストの機能は解除されている。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 これにより緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンがかかっているときに黄色の ESP® 表示灯と黄色の ESP® オフ表示灯が点灯する。	ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライト、BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも故障した。 アテンションアシストの機能は解除されている。 セルフ・ダイアグノシスがまだ完了していない。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。これにより緊急ブレーキ時の制動距離が伸びる可能性がある。 ESP® が作動しない場合は、ESP® の機能で走行安全性を確保することができない。 横滑りして事故が起きる危険が増える。 ▶ 約 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリング操作しながら、適切な道路を選んで注意して走行してください。警告灯が消灯すると、上記の機能が再び作動します。 警告灯がまだ点灯したままのとき ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに赤色の SRS 警告灯が点灯する。	SRS（乗員保護補助装置）が故障している。 ⚠ 警告 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。 けがをするおそれが高まります。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で SRS の点検を受けてください。 乗員保護補助装置に関する詳しい情報は、(▷ 43 ページ) を参照してください。

エンジン

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
[冷却水警告灯] エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	冷却水温度が約 120 ℃を超えている。ラジエターへの送風が遮られているか、冷却水量がかなり不足している可能性がある。 ⚠ 警告 エンジンが十分に冷却されないため、エンジンが損傷するおそれがある。 エンジンが過熱した状態では絶対に走行しないでください。エンジンが過熱した状態で走行すると、エンジンルームに漏れたフルード類に引火するおそれがあります。 ボンネットを開いただけで、過熱したエンジンからの蒸気で重度の火傷をするおそれがある。 けがをするおそれがあります。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 129 ページ) ▶ 車から降り、エンジンが冷えるまで車から安全な距離を確保してください。 ▶ 冷却水の点検・補給時の注意事項 (▷ 217 ページ) に従って、冷却水量を点検のうえ冷却水を補給してください。 ▶ 冷却水の減りかたが著しい場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジン冷却システムの点検を受けてください。 ▶ 雪やほこりなどにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ 冷却水温度が約 120 ℃以下のときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行することができます。 ▶ 山道の走行などでエンジンに大きな負荷をかけたり、発進 / 停止を繰り返したりしないでください。

走行装備

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯する。	設定された速度に対し、先行車との車間距離が近すぎる。 ▶ 車間距離を広げてください。
走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	同じ走行車線にいる前車または固定障害物に急速に近付いている。 ▶ ただちにブレーキをかける準備をしてください。 ▶ 交通状況に注意して運転してください。 ブレーキ操作や危険回避の操作が必要となる可能性があります。 ディストロニックプラスについて詳しくは、(▷ 133 ページ)をご覧ください。 PRE-SAFE® ブレーキについて詳しくは、(▷ 69 ページ)をご覧ください。

役に立つ情報

ℹ これらの取扱説明書は印刷時点で利用可能な COMAND システムのすべての標準装備やオプション装備について記載しています。 国により、仕様が異なる場合があります。 本書に記載されているすべての機能が、お客様の車両に当てはまらない可能性があることにご留意ください。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 27 ページ).

全体的な注意事項

これらの取扱説明書の COMAND システムの項には、COMAND システムとオンラインおよびインターネット機能の操作の基本原則が記載されています。 詳細はデジタル版取扱説明書をご覧ください。

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

常に交通状況に注意してください。

道路や交通状況が許す場合のみ、COMAND システムや電話を使用してください。

50km/h の速度でも、車両は 1 秒間に約 14 m の距離を走行するということを念頭に置いてください。ナビゲーションシステムは、一時停止の標識や前方優先道路の標識、交通規則、道路の安全性についての情報を提供するものではありません。車両を運転している場合に、これらのことに注意を払うのは運転者の義務です。車両が停止している場合にのみ、新しい目的地を入力してください。

著作権の情報

全体的な注意事項

車両やその電子部品で使用されているフリーのオープンソースソフトウェアのライセンスの情報を以下のウェブサイトで見つけることができます：**http://www.mercedes-benz.com/opensource**

機能の制限

安全のために、車両走行中は COMAND システムのいくつかの機能が制限されたり、利用できないことがあります。 このことは、例えば、いくつかのメニュー項目が選択できなかったり、COMAND システムにこの結果に対するメッセージが表示されることで、ご確認いただけます。

COMAND システムの操作

概要

① COMAND ディスプレイ(▷ 190 ページ)
② シングル DVD ドライブ付き COMAND コントロールパネル
③ COMAND コントローラー(▷ 195 ページ)

COMAND システムを使用して以下の基本機能が操作できます。

- ナビゲーションシステム
- オーディオ機能
- 電話機能
- ビデオ機能
- システムの設定
- オンラインとインターネット機能
- デジタル版取扱説明書

以下のようにして基本機能を呼び出すことができます。

- 対応する機能の選択スイッチを使用する
- COMAND ディスプレイの基本機能バーを使用する

COMAND ディスプレイ

ディスプレイの概要

ラジオの表示例

①	ステータスバー	時刻および電話操作の現在の設定を表示します。
②	オーディオメニューの呼び出し	作動しているオーディオ基本機能を強調します。 三角はこの基本機能に選択可能なサブメニューがあることを示します。
③	基本機能バー	基本機能バーから希望する基本機能を呼び出すことができます。 基本機能が作動しているときは、白色の文字によって識別可能です。
④	表示/選択ウインドウ	ラジオモードで作動しているオーディオ基本機能の内容を表示します。
⑤	ラジオメニューバー	ラジオモードで作動しているオーディオ基本機能の他の機能を表示します。

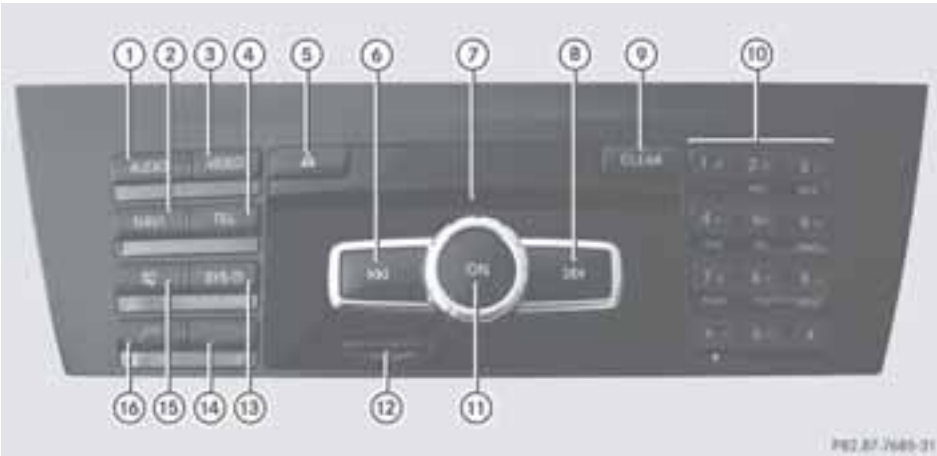
メニュー概要

ナビ	オーディオ	電話	TV/映像	システム	🌐 マーク
地図表示切替	ラジオ	電話	テレビ	設定メニューを呼び出す	デジタル版取扱説明書を呼び出す
地図表示形式	ディスク	アドレス帳	DVD ビデオ		COMAND Online とインターネットを呼び出す
VICS 表示	メモリーカード		外部入力		
施設マークの表示	ミュージックレジスター				
設定	USB メモリー				
案内の中止/継続	メディアインターフェース				
コンパスを表示する	Bluetooth® オーディオ				
	外部入力				

システムメニュー概要

設定	時刻	消費	シート	ディスプレイオフ
ディスプレイの設定	時刻の設定	燃料消費量表示を呼び出す	運転席/助手席の設定を変更する	ディスプレイのオフ
音声認識	フォーマットの設定			
言語の設定	タイムゾーンの設定			
お気に入りスイッチ				

設定	時刻	消費	シート	ディスプレイオフ
☑Bluetooth®の作動/解除				
データのインポート/エクスポート				
COMAND システムをリセットする				

COMAND コントロールパネル

	機能	ページ
①	最後に選択されていたオーディオモード（例：ラジオモード）に切り替える	
②	ナビゲーションモードに切り替える 設定メニューを表示する	
③	最後に選択されていたビデオモード（例：テレビモード）に切り替える	
④	電話基本メニュー（Bluetooth® インターフェースによる電話機能）を呼び出す アドレス帳を呼び出す	
⑤	挿入/排出スイッチ	
⑥	放送局サーチ機能を使って放送局を選択する 早戻し 前のトラックを選択する	

	機能	ページ
⑦	ディスクスロット • CD/DVD を挿入する • CD/DVD を排出する	
⑧	放送局サーチ機能を使って放送局を選択する 早送り 次のトラックを選択する	
⑨	クリアスイッチ • 文字を削除する • 項目を削除する	

	機能	ページ
⑩	テンキー • 放送局プリセットによって放送局を選択する • 手動で放送局を登録する • 携帯電話の認証 • 電話番号の入力 • 文字入力 • メモリーから天気予報の場所を選択する [#] 再生されている現在のトラックを表示する [#] 文字バーのあるリスト：文字の設定（かな/漢字/アルファベット/カタカナ/数字入力）を切り替える [#] 選択リストとしてのリスト：文字の設定（カタカナ/アルファベット）を切り替える [*] 周波数を手動で入力して放送局を選択する [*] トラックを選択する	
⑪	COMAND システムのオン/オフを切り替える 音量の調整	
⑫	SD メモリーカードスロット	
⑬	設定メニューを呼び出す	
⑭	通話を拒否する 通話を終える 保留中の通話を拒否する	
⑮	ミュート ハンズフリーマイクのオン/オフを切り替える ナビゲーションの音声案内を停止する	
⑯	通話を受ける 番号をダイアルする リダイアル 保留中の通話を受ける	

COMAND コントローラー

概要

① COMAND コントローラー

COMAND コントローラーを使用して COMAND ディスプレイのメニュー項目を選択できます。

以下のことができます。

- メニューまたはリストの呼び出し
- メニューまたはリスト内のスクロール、そして
- メニューまたはリストの終了

操作

例：COMAND コントローラーを操作する

COMAND コントローラーは以下のようなことができます。

- 軽く押す、または押して保持する
- 時計回り、または反時計回りにまわす
- 左右にスライドする
- 前後にスライドする
- 斜めにスライドする

操作の例

説明では、操作の順番は以下に記載されているようになります。

▶ AUDIO スイッチを押す。

最後に選択されていたオーディオソースがオンになります。

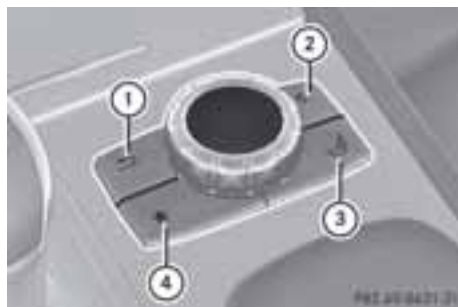
▶ COMAND コントローラーをスライドして 、オーディオを選択し、押して 確定します。

オーディオメニューが表示されます。

▶ COMAND コントローラーをまわして 、ミュージックレジスター のように異なるオーディオソースを選択し、押して 確定します。

ミュージックレジスターがオンになります。

COMAND コントローラーのスイッチ

概要

① リターンスイッチ(▷ 196 ページ)

② クリアスイッチ(▷ 196 ページ)

③ シート機能スイッチ

④ お気に入りスイッチ

ℹ 車両にシート機能スイッチが装備されていない場合は、2 つのお気に入りスイッチがあります。

リターンスイッチ

リターンスイッチ [↩] を使用して、メニューを終了するか、または現在の操作モードの基本画面を呼び出すことができます。

▶ **メニューを終了する：** リターンスイッチ [↩] を軽く押します。

COMAND システムは現在の操作モードのなかで、一つ上のメニュー階層に切り替わります。

▶ **基本画面を呼び出す：** リターンスイッチ [↩] を押して保持します。

COMAND システムは現在の操作モードの基本表示に切り替わります。

クリアスイッチ

▶ **個々の文字を削除する：**クリアスイッチ [c] を軽く押します。

▶ **入力全体を削除する：** クリアスイッチ [c] を押して保持します。

シート機能のスイッチ

[シート] スイッチを使用して、以下のシート機能を呼び出すことができます。

- マルチコントロールシートバック（電動ランバーサポート付）
- アクティブマルチコントロールシートバック（ダイナミックシートとマッサージ機能）
- バランス（シートヒーターの配分）

お気に入りスイッチ

あらかじめ設定した機能をお気に入りスイッチ [*] に指定し、スイッチを押してそれらを呼び出すことができます。

COMAND Online とインターネット

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- インターネットアクセスデータの選択/設定
- COMAND Online とインターネット
- Google™ ローカル検索
- 目的地/ルートのダウンロード
- 天気表示
- インターネット

全体的な注意事項

アクセスの条件

⚠ **警告**

COMAN Online を操作するときは、そのときに運転している国の法規則に従ってください。走行中に通信機器を操作することが法律で認められている場合は、交通状況が許すときのみ操作してください。交通状況から注意がそれて、事故の原因になったり、お客様や他の乗員の方々が負傷するおそれがあります。

オンライン機能とインターネットアクセスは、Bluetooth® インターフェースを介して利用することができます。

機能を使用するには、以下の条件が必要です。

- 携帯電話が DUN Bluetooth® プロファイル（**D**ial-**U**p **N**etworking：ダイアルアップネットワーク）をサポートしていて、Bluetooth® インターフェース によって COMAND システムに接続されていること。 DUN Bluetooth® プロファイルは携帯電話

のインターネットへのダイアルアップ接続を確立させることができます。
- データオプションがある有効な携帯電話の契約が必要で、それには関連する接続費用が請求されます。
- 接続している携帯電話のアクセスデータが COMAND システムに設定されていること(▷ 198 ページ)。

ℹ 適合している携帯電話の詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場へお問い合わせください。

ℹ 携帯電話によっては、独立して DUN Bluetooth® プロファイルをオンにしなければならないものもあります (携帯電話の取扱説明書をご覧ください)。

ℹ 携帯電話の中には同時に 2 つの Bluetooth® プロファイルのみをサポートするものがあります (例：Bluetooth® 電話機能のハンズフリープロファイルおよびオーディオストリーミングの Bluetooth® オーディオプロファイル)。さらにインターネット接続を確立させたときは、Bluetooth® オーディオ経由での再生が停止することがあります。

ℹ 正しくないアクセスデータを使用すると、追加の費用が発生することがあります。 これは、契約と違う項目や、他の契約/データパッケージの項目を使用したときに発生します。

ℹ 個々の COMAND システムのメルセデス・ベンツのアプリケーションの使用可能状況は国によって異なります。

ℹ 利用規約は COMAND Online が初めて使用されたとき、およびそれ以降年に 1 度表示されます。 車両が停止しているときにのみ、利用規約を読んで同意してください。

ℹ インターネットのページは走行中は表示できません (▷ 204 ページ)。

データをインポート/エクスポートし、そのために インターネットデータ オプションを選択するときは、携帯電話のネットワークプロバイダーのパスワードは保存**されません**。

インターネットに再度接続するときは、以下のように進めます。

▶ **ステップ 1：** 携帯電話のネットワークプロバイダーを削除します。

▶ **ステップ 2：** 携帯電話のネットワークプロバイダーを再度選択する (オプション 1)か、手動で設定します (オプション 2)。

車両が走行している間の接続障害

以下の場合は、接続が切断されることがあります。

- 特定の地域において、携帯電話のネットワーク範囲が不十分なとき
- 携帯電話の送信/受信エリア（携帯電話の基地局）を他に移動して空いているチャンネルがないとき
- 使用可能なネットワークに適していない SIM カードを使用しているとき

機能の制限

以下の状況のときは、携帯電話を使用できなかったり、携帯電話を使用できなくなったり、使用できるようになるまでに待たなければならないことがあります。

- 携帯電話の電源が入っていないとき
- COMAND システムの"Bluetooth®"機能がオフになっているとき
- Bluetooth® インタフェースの電話機能を使用している間に携帯電話の"Bluetooth®"機能がオフになったとき

- 携帯電話が携帯電話のネットワークにログインしていないとき
- 携帯電話のネットワークおよび携帯電話のどちらにも、電話とインターネット接続の同時使用が認められていないとき

ℹ 使用している携帯電話と携帯電話ネットワークによっては、インターネットに接続しているときは着信できないことがあります。

ローミング

他の国でご自身の車両を運転していて、オンラインとインターネット機能を使用すると、追加費用（ローミング料金）が発生することがあります。他の国にいるときは、SIM カードがデータローミングをできるようにしなければなりません。携帯電話のネットワークプロバイダーがローミングパートナーとデータローミングの契約を結んでいない場合は、インターネット接続を確立できないことがあります。 他の国にいるときにデータローミングを避けたい場合は、携帯電話のこの機能を非作動にしてください。

アクセスデータの設定

概要

接続された携帯電話のインターネットアクセスデータは、携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。 COMAND システムにおいて必要なインターネットアクセスデータの設定は以下に記載されています。

選択された/手動で設定された携帯電話のネットワークプロバイダーは、選択/設定されたときに接続されている携帯電話のみで有効です。 再接続されたときは携帯電話のネットワークプロバイダーは自動的に設定されます。

ℹ 正しくないアクセスデータを使用すると、追加の費用が発生することがあります。 例えば、適切でないデータは契約と異なる項目や、他の契約/データパッケージの項目です。

ℹ 他の国で車両を運転していて、COMAND システムとインターネット機能を使用すると、追加費用（ローミング料金）が発生することがあります。

ℹ 車両が停止しているときにアクセスデータの設定を調整してください。 交通状況から注意がそれて、事故の原因になったり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

インターネットアクセスデータの選択/設定

携帯のネットワークプロバイダーを呼び出す

▶ COMAND コントローラーをスライドしてから ↑◎、まわして ⟲◎⟳、基本機能バーでマーク 🌐 を選択し、押して ◎ 確定します。
カルーセルビュー（マルチウインドウ）が表示されます。

▶ COMAND コントローラーをスライドしてから ◎↓、まわして ⟲◎⟳、設定 を選択し、押して ◎ 確定します。

携帯電話を初めて COMAND システムに接続するときは、あらかじめ設定されている携帯電話のネットワークプロバイダーはありません。 プロバイダー： に選択されていません という言葉が続きます。

携帯電話が接続されていて、携帯電話のネットワークプロバイダーが選択されている場合は、携帯電話のネットワークの名称がプロバイダー： の後に表示されます。

▶ COMAND コントローラーを押します ◎。

携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示されます。

携帯電話のネットワークプロバイダーのリスト（空欄）

携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを設定するために、以下のことができます。

- 携帯電話のネットワークプロバイダーのあらかじめ設定されたアクセスデータを選択する(▷ 199 ページ)
- 携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを手動で設定する(▷ 202 ページ)

携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの選択

プロバイダーの検索

▶ COMAND コントローラーをまわして ⟲◎⟳、携帯電話のネットワークプロバイダーリストで プロバイダー検索 を選択し、押して ◎ 確定します (▷ 198 ページ)。

国のリストが表示されます。

▶ 押して ⦿、日本 を確定します。
使用可能な携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示されます。

ℹ 携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータが接続している携帯電話で一度選択されると、携帯電話が接続されるたびに再び読み込まれます (▷ 198 ページ)。

ℹ 接続している携帯電話の SIM カードおよび関連するデータパッケージ（アクセス設定）を提供している携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを設定してください。 他に国にいるときは、アクセスデータは同じままです（ローミング）。 他のネットワークのアクセスデータは選択**されません**。

複数のアクセスデータを提供している携帯電話のネットワークプロバイダーがあります。 これは、例えば使用しているデータパッケージによって異なります。

携帯電話のネットワークアクセス設定が 1 つの場合

▶ COMAND コントローラーをまわして ⟲⦾⟳、携帯電話のネットワークプロバイダーを選択し、押して ⦿ 確定します。
メニューが表示されます。

▶ **プリセットアクセスデータを確認する：** 編集 を選択し、⦿ で確定します。
アクセスデータのリストが表示されます。
アクセスデータを確認します。 アクセスデータの記載(▷ 202 ページ).

▶ **アクセスデータが正しい場合：** リセットスイッチ [↩] を押すか、または [↩] マークを選択し、押して ⦿ 確定します。
携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを受け取ることができます。

▶ 保存 を選択し、押して ⦿ 確定します。
携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示されます。プロバイダーのアクセスデータを受け取ります。

▶ **アクセスデータを編集する：** "携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの手動設定" (▷ 202 ページ) に記載されているように進めてください。
編集したアクセスデータを確定すると、携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示され、選択したプロバイダーが表示されます。

携帯電話のネットワークアクセス設定が複数の場合

▶ COMAND コントローラーをまわして ⟲◎⟳、適切なアクセス設定を選択し、押して ◎ 確定します。
メニューが表示されます。

▶ **アクセス設定を確認する：** 編集 を選択し、押して ◎ 確定します。
アクセスデータのリストが表示されます。
アクセスデータを確認します。 アクセスデータの記載(▷ 202 ページ).

▶ **アクセスデータが正しい場合：** リセットスイッチ ⮌ を押すか、または ⮌ マークを選択し、押して ◎ 確定します。
携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを受け取ることができます。

▶ 保存 を選択し、押して ◎ 確定します。
携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示されます。プロバイダーのアクセスデータを受け取ります。

▶ **アクセスデータを編集する：** "携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの手動設定" (▷ 202 ページ) に記載されているように進めてください。
編集したアクセスデータを確定すると、携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示され、選択したプロバイダーが表示されます。

選択したプロバイダーがある携帯電話のネットワークプロバイダーのリスト

現在選択されているアクセス設定（項目の前の ● で示されています）は接続されている携帯電話に使用されています。

▶ **カルーセルビュー（マルチウインドウ）に戻る：** リターンスイッチ ⮌ を 2 回押します。

または

▶ COMAND コントローラーを押して ◎、リターンスイッチ ⮌ を押します。

携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの手動設定

アクセスデータのリスト（新しいプロバイダー）

アクセスデータのリストを呼び出す

▶ COMAND コントローラーを押して ⊛、携帯電話のネットワークプロバイダーのリストで 新しいプロバイダー作成 を確定します。
アクセスデータのリストが表示されます。 標準的な名前 プロバイダー <x> がプロバイダー： 欄に自動的に入力されます。 ここで項目を作成することができます。

ℹ 携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータは接続されている携帯電話に一度設定されます。

アクセスデータの説明

入力欄	意味
プロバイダー名：	携帯電話のネットワークプロバイダーのリストに表示されるプロバイダーの名前。 名前を自由に選択できます。 標準的な項目は プロバイダー <x> です。
電話番号:	接続を確立するためのアクセス番号 ℹ アクセス番号はプロバイダーによって異なります。
アクセスポイント：	APN ネットワークアクセスポイント (**A**ccess **P**oint **N**ame：アクセスポイント名) ℹ ネットワークのアクセスポイントは入力されている必要はありません。
ユーザー ID：	ユーザー ID は携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。 ℹ すべての携帯電話のネットワークプロバイダーで入力は必要ではありません。

入力欄	意味
パスワード：	パスワードは携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。 ℹ すべての携帯電話のネットワークプロバイダーで入力は必要ではありません。 ℹ パスワードはデータをインポート/エクスポートすると失われます。
DNS アドレス：	DNS アドレス (Domain Name Service：ドメインネームサービス) は自動的に決めるか、手動で入力することができます。 必要な情報は携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。 ℹ ほとんどの携帯電話のネットワークプロバイダーは自動 機能をサポートしています。 マニュアル オプションを選択すると、通常は DNS アドレスを入力する必要があります。
DNS 1： DNS 2：	DNS サーバーのアドレスを手動で入力するための欄。 アドレスは携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。

接続の確立 / 終了

接続を確立する

接続を確立するための前提条件は、"全体的な注意事項" (▷ 196 ページ) をご覧ください。

▶ **オプション 1：** COMAND コントローラーをスライドしてから ↑◎、まわして ↻◎↺、基本機能バーでアイコン 🌐 を選択し、押して ◎ 確定します。

カルーセルビュー（マルチウインドウ）が表示されます。

▶ Mercedes-Benz Apps パネル、または以前に作成されている場合はお気に入りが前面になるまで、COMAND コントローラーをまわすか ↻◎↺、スライドします ←◎→。

▶ **オプション 2：** ウェブアドレス (▷ 205 ページ) を入力します。

▶ どちらのオプションも、COMAND コントローラーを押します 。
インターネットの接続が確立されます。 インターネットの接続の作動は、マーク ① で識別されます。例は、Google™ ローカル検索 機能のメニューを示しています。

▶ **接続を中止する：** 接続を確立している間に、押して 中止 を確定します。

または

▶ COMAND システムまたはマルチファンクションステアリングの スイッチを押します。

ℹ インターネット接続の作動と同時に通話をすると、 マークが ① に表示されます。インターネット接続は、使用されている携帯電話と携帯電話ネットワークによって接続されたままになります。

接続を終了する

▶ COMAND システムまたはマルチファンクションステアリングの スイッチを押します。

または

▶ カルーセルビュー（マルチウインドウ）の右下にあるハサミマークを選択して、押して 確定します。

ℹ 携帯電話のインターネット接続が中止されると、COMAND システムは再接続しようとします。 そのため、COMAND システムでまたはマルチファンクションステアリング経由で接続を常に閉じるようにしてください。

インターネット

表示制限

インターネットのページは走行中は表示できません。

ウェブサイトを呼び出す

カルーセルビュー（マルチウインドウ）を呼び出す

▶ COMAND コントローラーをスライドしてから 、まわして 、基本機能バーで マークを選択し、押して 確定します。
カルーセルビュー（マルチウインドウ）が表示されます。

ウェブアドレスを入力することができます。

ウェブアドレスの入力

文字バーまたはテンキーのどちらかを使用してウェブアドレスを入力できます。

▶ COMAND コントローラーをスライドしてから ◎↓、まわして ❨◎❩、www を選択し、押して ◎ 確定します。
入力メニューが表示されます。

▶ **文字バーを使用して入力する：** 入力行にウェブアドレスを入力します。
最初の文字を入力行に入力するとすみやかに、リストがその下に表示されます。 入力した文字で始まるウェブアドレスと、すでに呼び出されたウェブアドレスがリストに表示されます。
初めて呼び出したときはリストは空欄です。

▶ ウェブアドレスを入力した後に、COMAND コントローラーをスライドしてから ◎↓、まわして ❨◎❩、 ok マークを選択し、押して ◎ 確定します。
ウェブサイトが呼び出されます。

ウェブサイトを操作する

手順	動作
▶ コントローラーをまわす ❨◎❩	リンク、文字欄または選択リストなどの選択できる 1 つの項目から次に操作し、ウェブサイトのそれぞれの項目を強調します。
コントローラーをスライドする ▶ 左右 ←◎→ ▶ 上下 ↑◎↓ ▶ 斜め ↘◎↙	ページのポインターを動かします。
▶ コントローラーを押す ◎	メニューを呼び出す、または選択した項目を開きます。
▶ 押す ↩	前のページを呼び出します。
▶ 押す c	インターネットのブラウザーを、または複数が開いているときは現在のウインドウを閉じます。

役に立つ情報

ⓘ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ⓘ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 27 ページ)

ラゲッジルーム

小物入れ

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には以下のトピックが記載されています。

- グローブボックス
- アームレストの小物入れ / 携帯電話入れ
- メガネホルダー
- フロントセンターコンソールの小物入れ
- 傘ホルダー
- リアセンターコンソールの小物入れ
- 後席の小物入れ

重要な安全上の注意

⚠ 警告

収納物を車内に正しく収納しないと、滑ったり、飛び出したりして、乗員けがをするおそれがあります。特にブレーキ操作や急な進路変更を行ったときは、けがをするおそれがあります。

- このようなときや似たような状況で収納物が飛び出さないように、常に収納する
- 収納物は必ず小物入れ、収納ネットまたはラゲッジネットからはみ出さないようする
- 走行中はロック可能な小物入れを閉じる
- 重い物、固い物、先の尖った物、鋭利な物、壊れやすいもの、大きな物はトランクに収納し、固定する

ラゲッジネット

ラゲッジネット ① は助手席足元にあります。

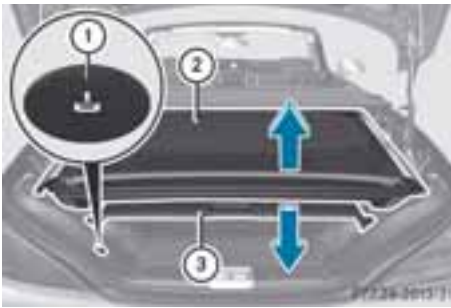
トランクのイージーパック

ルーフの昇降

⚠ 警告

ルーフが上昇したり下降したりするとき、挟まれる恐れがあります。 けがの危険性があります。

ルーフが上昇したり下降したりするとき、可動部分から離れてください。 挟まれた場合は、スイッチを再度押してください。

❗ 必ずルーフが完全に下降してから、トランクを閉めてください。これを守らないと、ルーフが損傷するおそれがあります。

荷物を積みやすくするために、トランクリッドを開いた後に格納したルーフを上昇させることができます。

ルーフ ② を上昇させることができるのは、ラゲッジカバー ③ が閉じて、トランクリッドが完全に開いた状態のときだけです。

▶ **ルーフを上昇させる：** スイッチ ① を押します。
ルーフが少し上がります。スイッチ ① が明るく点灯します。

▶ ラゲッジカバー ③ を元の位置にスライドさせます。(▷ 92 ページ)

ルーフ ② を下降させることができるのは、ラゲッジカバー ③ が閉じて、トランクリッドが完全に開いた状態のときだけです。

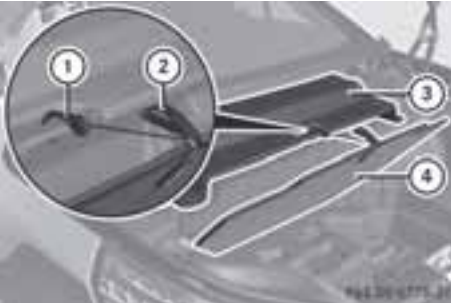
▶ **ルーフを下降させる：** ラゲッジカバー (▷ 92 ページ) を閉じます。

▶ スイッチ ① を押します。
ルーフが少し下がります。スイッチ ① がほのかに点灯します。

自動開閉トランクリッド装備車： トランクリッドが開いているとき、ローディングアシストが自動的に上がります。トランクリッドが閉じているときは、自動的に下がります。

ローディングアシスト関連のトラブル

原因	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ローディングアシストを使用して、トランク内に格納したルーフを下げることができなくなりました。	トランクをそれ以上閉めることができません。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

トランクフロアボード下の収納スペース

▶ **開く：**トランクセパレーター ③ (▷ 92 ページ)を開きます。

▶ トランクフロアボード ④ をハンドル ② で持ち上げます。

▶ マジックテープ付きフック ① をトランクフロアボード ④ の底面から引いて外します。

▶ マジックテープ付きフックのハンドル部 ① をトランクセパレーター ③ に取り付けます。

トランクフロアボード下の収納スペースには、タイヤフィット、タイヤ交換工具などが収納されています。

室内装備

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- カップホルダー
- ボトルホルダー
- 灰皿
- ライター
- 12 V 電源ソケット

サンバイザー

概要

① ミラーライト
② フック
③ クリップ
④ バニティミラー
⑤ バニティミラーカバー

デジタル版取扱説明書の情報

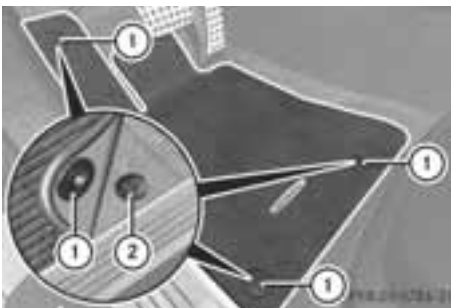
デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- サンバイザーのバニティミラー
- 横方向からの眩しさを防ぐ

フロアマット

⚠ **警告**

運転席の足元にあるものは、ペダルの動きを制限したり、踏んだペダルを妨げることがあります。車両の操作および道路の安全性がおびやかされます。 事故の危険性があります。

すべてのものが車内に正しく収納され、運転席の足元に入り込むことができないことを確認してください。ペダルとの十分な隙間を確保するために、記載されているようにフロアマットを確実に装着します。固定していないフロアマットを使用しないでください。

▶ シートを後方に動かします。

▶ **取り付ける：**フロアマットを足元に敷きます。

▶ フロアマットの凹部 ① を押し、フロアの凸部 ② にはめ込みます。

▶ **取り外す：**フロアの凸部 ② からフロアマットを引いて外します。

▶ フロアマットを取り外します。

後付けした遮光フィルム

ウインドウの内側に遮光フィルムなどを貼り付けると、携帯電話やラジオなどの電波受信に影響を与えるおそれがあります。導電性フィルムや金属コーティングが施されたフィルムを貼り付けた場合は、特に電波受信への影響が懸念されます。遮光フィルムについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 27 ページ)

エンジンルーム

ボンネット

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

解除すると、走行中にボンネットが開いて視界の妨げとなり危険です。 事故の危険性があります。

走行中にボンネットを解除しないでください。

⚠ **警告**

開閉中、ボンネットが急に下がる場合があります。 ボンネットの動作範囲では、けがの危険性があります。

ボンネットの動作範囲に誰もいないことを確認して、ボンネットを開閉してください。

⚠ **警告**

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。 エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ **警告**

エンジンがオーバーヒートしたときにボンネットを開いたり、エンジンルームに炎が発生した場合、高温のガスやその他のサービスプロダクトに触れるおそれがあります。 けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、オーバーヒートしたエンジンを冷やしてください。 エンジンルームで火災が発生したときは、ボンネットを閉じたままにし、消防局に連絡してください。

⚠ **警告**

エンジンルームには作動する構成部品があります。 ラジエーターファンなどの特定の構成部品は、エンジンスイッチをオフにしても、動きつづけるか、自動的に作動を開始しします。 けがの危険性があります。

エンジンルームで作業を行わなければならない場合：

- エンジンスイッチをオフにします。
- ファンの回転範囲などの動いている部分は危険なので決して近づかないでください。
- 動いている部品に衣類が触れないようにしてください。

アクティブボンネット（歩行者保護）

作動原理

❗ 一度作動したアクティブボンネットは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で修理してください。アクティブボンネット機能は再度作動可能になります。アクティブボンネットによる歩行者の付加保護は元に戻ります。

アクティブボンネットは特定の国でのみ作動します。

アクティブボンネットは、特定の状況下で歩行者のけがの危険性を軽減するシステムです。アクティブボンネットが上がることにより、エンジンなどの固い構成部品との間隔が広がります。

アクティブボンネットが作動すると、ヒンジ周囲の後方で約 85 mm 上がります。 アクティブボンネットは火薬によって作動します。

ワークショップまで運転するためには、作動したアクティブボンネットをお客様ご自身でリセットしてください。アクティブボンネットが作動すると、歩行者保護が制限されます。

リセット

⚠ **警告**

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。 エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

▶ ヒンジ（矢印）の近くに手のひらを置いて、アクティブボンネット① を固定されたと感じるまで押し下げます。

ヒンジの付近でアクティブボンネットを少し持ち上げることができるときは、確実に固定されていません。 手順を繰り返してください。

ボンネットを開く

⚠ **警告**

ボンネットを開いているとき、ワイパーを作動位置のままにしていると、ワイパーリンケージでけがをするおそれがあります。 けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、必ずワイパーおよびエンジンスイッチをオフにしてください。

! ワイパーアームを起こしたままでボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが接触して、損傷するおそれがあります。

▶ フロントワイパーが停止していることを確認します。

▶ ボンネットの解除レバー ① を引きます。

ボンネットが解除されます。

▶ 隙間に手を入れ、ボンネット固定ハンドル ② を引き上げながらボンネットを持ち上げます。

ボンネットを約 40 cm 持ち上げると、ガス封入式の支柱によりボンネットは自動的に開き、開いたまま保持されます。

ボンネットを閉じる

▶ ボンネットを下げ、約 20 cm の高さから下ろします。

▶ ボンネットが確実に固定されていることを確認します。
ボンネットがわずかに持ち上がる場合は、確実に固定されていません。再度開き、少し力を入れて閉じます。

エンジンオイル

エンジンオイル量に関する注意事項

! エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

! エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的にエンジンオイル量を点検し、必要に応じて補給または交換してください。

運転スタイルによって、車は 1000 km 当たり最大で約 0.8 L のオイルを消費します。 新車のときや頻繁にエンジン回転数を上げて走行する場合は、オイル消費量はこれより増加します。

エンジンによって、エンジンオイルレベルゲージの取り付け位置が異なる場合があります。

エンジンオイル量を点検するときは、以下の点に注意してください。

- 車を水平な場所に停車している。
- エンジンが温まっている場合は、エンジンを停止してから約 5 分以上経過している。
- エンジン始動直後などエンジンが通常の作動温度に達していないときは、約 30 分 以上経過してから点検を行なってください。

オイルレベルゲージでエンジンオイル量を点検する

例

▶ オイルレベルゲージ ① をオイルレベルゲージチューブから引き抜きます。

▶ オイルレベルゲージ ①を拭きます。

▶ オイルレベルゲージ ① をガイドチューブにいっぱいまでゆっくり差し込んで、再び引き抜きます。
量が MIN マーク ③ と MAX マーク ② の間にあるときは、オイル量は適正です。

▶ オイルレベルが MIN マーク ③ にまで減っている、またはそれより下回っている場合、エンジンオイルを約 1.0 L 追加してください。

エンジンオイルの補給

⚠ **警告**

エンジンオイルがエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火する可能性があります。 火災およびけがの危険性があります。

エンジンオイルが補給口の脇に飛散していないことを確認してください。エンジンを冷やし、エンジンを始動する前に、エンジンオイルで汚れた構成部品を清掃してください。

環境

エンジンオイルを補給するときは、こぼさないように注意してください。 エンジ

ンオイルが地面や排水溝に流れると、環境に悪影響を与えます。

! サービスシステム装備車両のために承認されているエンジンオイルとオイルフィルターのみを使用してください。サービスプロダクトに関するメルセデス・ベンツの仕様に適合するためにテストされ、承認されたエンジンオイルとオイルフィルターのリストはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。
エンジンまたは排気システムの損傷は以下のことに起因します。

- サービスシステムで承認されていない仕様のエンジンオイルやオイルフィルターの使用
- サービスシステムで要求される交換期間を過ぎた後のエンジンオイルやオイルフィルターの交換
- エンジンオイル添加剤の使用

! 多すぎる量のオイルを補給しないでください。オイル量がオイルレベルゲージの"MAX"マークを超えている場合は、多すぎる量のオイルが補給されています。 ンジンまたは触媒コンバーターの損傷につながるおそれがあります。必ず余分なエンジンオイルを抜き取ってください。

例：エンジンオイルキャップ

▶ キャップ ① を反時計回りにまわして取り外します。

▶ エンジンオイルを補給します。
オイル量がオイルレベルゲージの MIN マーク以下のときは、約 1.0 L のエンジンオイルを補給してください。

▶ キャップ ① を補給口に合わせ、時計回りにまわして取り付けます。
キャップが元の場所に固定されていることを確認します。

▶ オイルレベルゲージを使用してオイル量を再度点検します。 (▷ 216 ページ)

エンジンオイルについての詳しい情報は、(▷ 268 ページ) をご覧ください。

エンジンオイルの交換時期

エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターは定期的に交換することをお勧めします。 アシストプラスのメンテナンスインジケーター表示により、標準的な交換時期が定められています。 ただし、交換時期は使用状況に左右されます。 詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

冷却水

冷却水量の点検

⚠ **警告**

エンジンが温まっている場合は特に、エンジン冷却システムに圧力がかかっています。 キャップを開くとき、高温の冷却水が吹き出す可能性があります。 けがの危険性があります。

キャップを開く前に、エンジンを冷ましてください。 開くときは、手袋と保護メガネを着用してください。 キャップをゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。

例

▶ 車を水平な場所に停めます。
車両が水平な場所にあり、エンジンが冷えているときにのみ冷却水の量を点検します。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にまわします。(▷ 120 ページ)
キーレスゴー装備車は、キーレスゴースイッチを 2 回押します。 (▷ 120 ページ)

▶ メーターパネルのエンジン冷却水温度計を確認します。
冷却水温度は約 70 ℃以下でなければなりません。

▶ エンジンスイッチのキーを **0** (▷ 120 ページ) の位置にします。

▶ キャップ ② を反時計回りにゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。

▶ キャップ ② をさらに反時計回りにまわして取り外します。
冷えているときに、冷却水が補給口内のマーカーバー ③ の高さにあれば、リザーバータンク ① 内の冷却水は十分にあります。
温かいときに、冷却水が補給口内のマーカーバー ③から約 1.5 cm のところにあれば、リザーバータンク ① 内の冷却水は十分にあります。

▶ キャップ ② を合わせ、時計回りにいっぱいまでまわします。

冷却水についての詳しい情報は、(▷ 269 ページ)をご覧ください。

冷却水の補給

⚠ **警告**

不凍液がエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火する可能性があります。 火災およびけがの危険性があります。

不凍液を充填する前にエンジンを冷やしてください。 不凍液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。エンジンを始動する前に、不凍液で汚れた構成部品を清掃してください。

! 冷却水が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面が損傷するおそれがあります。

例

冷却水リザーブタンク ① 内の液量が非常に低い場合は、車両が水平な場所にあり、エンジンが冷えているときに冷却水を補給してください。

- ▶ キャップ ② を反時計回りにゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。
- ▶ キャップ ② をさらに反時計回りにまわして取り外します。
- ▶ 冷却水をマーカーバー ③ まで補給してください。
  使用状況 (▷ 269 ページ) に合わせた水道水と不凍 / 腐食剤の濃度で使用します。
- ▶ キャップ ② を合わせ、時計回りにいっぱいまでまわします。
- ▶ エンジンを始動し、約 5 分後に再度停止して冷やします。
- ▶ 冷却水の量 (▷ 217 ページ) を点検し、必要であれば補給します。

冷却水の交換時

冷却水の品質は時間とともに劣化します。 整備手帳の指示に従い、定期的に冷却水を交換してください。 詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

オーバーヒートしたとき

⚠ **警告**
エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。 エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。
なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ **警告**
エンジンがオーバーヒートしたときにボンネットを開いたり、エンジンルームに炎が発生した場合、高温のガスやその他のサービスプロダクトに触れるおそれがあります。 けがの危険性があります。
ボンネットを開く前に、オーバーヒートしたエンジンを冷やしてください。 エンジンルームで火災が発生したときは、ボンネットを閉じたままにし、消防局に連絡してください。

⚠ **警告**
エンジンが温まっている場合は特に、エンジン冷却システムに圧力がかかっています。 キャップを開くとき、高温の冷却水が吹き出す可能性があります。 けがの危険性があります。
キャップを開く前に、エンジンを冷ましてください。 開くときは、手袋と保護メガネを着用してください。 キャップをゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。

オーバーヒートしたときは：

- メーターパネルに約 120 ℃ 以上の冷却水温度が表示されている。
- マルチファンクションディスプレイに 冷却水が減少 停車して エンジンを停止 というメッセージが表示されている。
- エンジンがかかっているときに、メーターパネルに赤色の [冷却水警告灯] 冷却水警告灯が表示される。
- エンジンルームから蒸気が出ている。

エンジンがオーバーヒートした場合の、操作方法に関する詳細は (▷ 171 ページ) を参照してください。

他のサービスプロダクトの点検および補給

フロントウインドウウォッシャーおよびヘッドライトウォッシャー

⚠ **警告**
不凍液がエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火する可能性があります。 火災およびけがの危険性があります。

不凍液を充填する前にエンジンを冷やしてください。 不凍液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。エンジンを始動する前に、不凍液で汚れた構成部品を清掃してください。

⚠ **警告**

ウインドウウォッシャー液の濃縮液は高い可燃性です。 熱いエンジン部品または排気システムに触れると、発火することがあります。火災およびけがの危険性があります。

ウインドウウォッシャー液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。

例

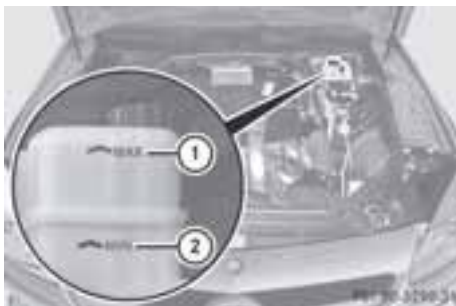
- **開く：** タブを持ってキャップ ① を引き上げます。
- 混合しておいたウォッシャー液を補給します。
- **閉じる：** キャップ ① を補給口に押し付けて、固定します。

ウインドウウォッシャーとヘッドライトウォッシャーのウォッシャー液リザーブタンクは共用です。

ウィンドウウォッシャーとヘッドライトウォッシャーについての詳しい情報は、(▷ 269 ページ) をご覧ください。

ブレーキ液量

! ブレーキ液リザーブタンクのブレーキ液レベルが MIN マークに下がった、あるいは下回ったことに気がついた場合は、ただちにブレーキシステムの漏れを点検してください。 ブレーキパッド / ライニングの厚さも点検してください。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

絶対にブレーキ液を補給しないでください。 ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。

例

ブレーキ液量の点検は、必ず水平な場所に停車した状態で行なってください。ブレーキ液の液面がブレーキ液リザーブタンクの MIN マーク ② と MAX マーク ① の間にあれば適量です。

エンジンルームの概要

例
① オイルレベルゲージ
② ブレーキ液リザーブタンク
③ エンジンオイルキャップ
④ 冷却水リザーブタンク
⑤ ウォッシャー液リザーブタンク

メンテナンスインジケーター

メンテナンスメッセージ

定期点検には以下のものがあります。

- 日常点検 – 日常点検で異常を発見された場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で車両の点検を受けてください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場をご利用いただくことをお勧めします。日常点検に関する情報(別冊の整備手帳をご覧ください)。
- 1 年毎の法定点検
- 2 年毎の法定点検

法定点検の次回期日を記したステッカーは、フロントウインドウに貼付してあります。

ℹ メンテナンスインジケーターには、法定点検の期日は考慮されません。

メンテナンスインジケーターは、次回の点検期日をお知らせします。

点検の種類と点検時期に関する情報(別冊の整備手帳をご覧ください)。

さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

ℹ メンテナンスインジケーター画面は、エンジンオイル量に関するいかなる情報も表示しません。エンジンオイル量(▷ 216 ページ)に関する注意事項を遵守してください。

マルチファンクションディスプレイに以下のようなメンテナンスメッセージが数秒間表示されます。

- 次のメンテナンス A あと .. 日です
- メンテナンス A 期限が切れます
- メンテナンス A ...日 超過しました

車両の使用条件により、点検整備時期より以前に残りの時間や距離が表示されます。

数字または他の文字を伴うことがある文字 A または B は、メンテナンスの種類を表しています。A は小規模なメンテナンス、B は大規模なメンテナンスを示しています。

さらなる情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で取得できます。

メンテナンスインジケーターは、バッテリーの接続を外している間の期日を考慮していません。

時期に左右されるメンテナンススケジュールは、以下のように管理してください。

▶ バッテリーの接続を外す前に、マルチファンクションディスプレイに表示されるメンテナンス予定期日をメモしてください。

または

▶ バッテリーを再度接続した後に、ディスプレイに表示されているメンテナンス予定期日からバッテリーの接続を外していた期間を引いてください。

メンテナンスメッセージを表示しない

▶ ステアリングの [↩] または [OK] スイッチを押します。

メンテナンスメッセージの表示

▶ イグニッションをオンにします。
▶ ステアリングの [◀] または [▶] スイッチを押してメンテナンス を選択します。
▶ [▲] または [▼] を押して、メンテナンス サブメニューを選択し、[OK] を押して確定します。
マルチファンクションディスプレイにメンテナンス予定期日が表示されます。

メンテナンスに関する情報

メンテナンスインジケーターのリセット

! 不注意でメンテナンスインジケーターをリセットしたときでも、この設定はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で修整することができます。

整備手帳に記載されているように点検作業を実施してください。 さもなければ、主要部品や車両の摩耗が進んだり、損傷するおそれがあります。

点検作業の実施後、メルセデス・ベンツ指定サービス工場はメンテナンスインジケーターのリセットを行ないます。メンテナンス作業などに関する詳細もメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

特別な点検が必要なとき

規定されているメンテナンス期間は通常の車両操作を想定しています。 過酷な作動条件や、車両に高い負荷がかかるような以下のときには、規定よりも頻繁にメンテナンス作業が必要になります。

- 通常の市街地走行であっても頻繁に停止を繰り返すとき
- 主に短い距離を走行するとき
- 山間地や路面の悪いところを走行するとき
- エンジンを長い時間アイドリングさせることが多いとき

上記または同様の使用条件では、エアフィルター、エンジンオイルおよびオイルフィルターなどを短い周期で交換してください。 過酷な使用条件では、タイヤはより頻繁に点検を行う必要があります。 詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

日常の手入れ

手入れに関する注意

環境
空の容器や使用済みのクリーニングクロスは、環境に配慮した方法で廃棄してください。

! お車の手入れをされる場合は、次のものは絶対に使用しないでください。

- 乾いた布や目の粗い布、硬めの布など
- 研磨剤を含む洗剤
- 溶剤
- 溶剤を含む洗剤

強く擦らないでください。

リングやスクレーパーなどのかたい物が、塗装面や保護膜に触れないようにしてください。塗装面や保護膜が損傷するおそれがあります。

! 特にホイールクリーナーでホイールを清掃した後は、清掃したままで車両を長い間駐車しないでください。ホイールクリーナーが、ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングの錆を増加させる原因になるおそれがあります。このため、清掃した後は数分間走行してください。ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングを、ブレーキ制動により加熱して乾燥させます。その後で駐車してください。

定期的なお車の手入れにより、長い期間に渡って品質を保つことができます。

メルセデス・ベンツが推奨し、承認した用品およびクリーナーを使用してください。

外装の手入れ

自動洗車機の使用

⚠ **警告**

自動洗車機で洗車した直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。事故の危険性があります。

車両を洗車した後は、完全にブレーキの性能が元に戻るまでは道路状況に注意して慎重にブレーキ操作を行ってください。

⚠ **警告**

ホールド機能またはディストロニックプラスが作動しているときは、車両にブレーキが効いています。車両を自動洗車機で洗車する前に、ホールド機能とディストロニックプラスを解除してください。

! カブリオレプログラムの仕様に適合した、調整可能な高圧事前洗浄の洗車機のご使用をお勧めします。高水圧を使用した洗車機では、少量の水が車内浸入するおそれがあります。

! ハンズフリーアクセス装備車：キーレスゴーキーがキーレスゴーアンテナの検知範囲にある場合、以下の状況で不意にトランクが開く場合があります。

- 洗車機の使用
- 高圧式スプレーガンの使用

キーが車両より最低約 2 m 離れていることを確認してください。

! けん引式の洗車機で洗車する場合は、オートマチックトランスミッションが **N** の位置にあることを確認してください。トランスミッションが他の位置にあると、車両の損傷につながります。

! 注意：

- サイドウインドウとルーフが完全に閉じていることを確認してください。
- ベンチレーション / ヒーターの送風が停止していること (OFF スイッチが押されている / 送風コントローラーが **0** の位置にある)。
- ワイパースイッチが **0** の位置になっていること

さもなければ、車両を損傷するおそれがあります。

最初から自動洗車機で洗車することができます。

ひどい汚れは、自動洗車機で洗車をする前に洗ってください。

自動洗車機を使用した後は、フロントウインドウやワイパーブレードのワックスを拭いてください。フロントウインドウの残留物に起因する汚れを防ぎ、ワイパーの音を低減します。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 手洗い
- 高圧式スプレーガン
- ホイールの清掃

- 塗装面の清掃
- マットペイント塗装車の取り扱い
- ウインドウの清掃
- ワイパーブレードの清掃
- ライトの清掃
- ドアミラー方向指示灯の清掃
- センサーの清掃
- パーキングアシストリアビューカメラの清掃
- マフラーの清掃

車内の手入れ

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- ディスプレイの清掃
- プラスチックトリムの清掃
- ステアリングとギアまたはセレクターレバーの清掃
- ウッド / トリムストリップの清掃
- シートカバーの清掃
- シートベルトの清掃
- ルーフライニングとカーペットの清掃

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 27 ページ)

車載品の収納場所

懐中電灯

車内には懐中電灯が装備されています。運転席ドアまたは助手席ドアのいずれかの小物入れに収納されています。

ℹ 新品の懐中電灯には電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙片が挟まれています。 初めて使用する前に、紙片を取り除きます。

ℹ 懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。 電池が切れたら交換してください。

停止表示板

停止表示板の取り外し

停止表示板 ① はトランクリッド内側のブラケットの中に配置されています。

▶ トランクリッドを開きます。

▶ キャッチ ② をブラケット方向に押して、矢印方向にブラケットを開きます。

▶ ブラケットの中央にある停止表示板 ① のクリップを外側に引きます。

▶ 停止表示板 ① をブラケットから取り出します。

停止表示板の組み立て

▶ 脚 ③ を下および、側方外側に出します。

▶ 側方の反射板 ② を引き上げて三角形を作り、上部の押し込み式ビス ① を使用して上部で固定します。

救急セット

万一のとき

救急セット ① はトランク内のフロア下にあります。

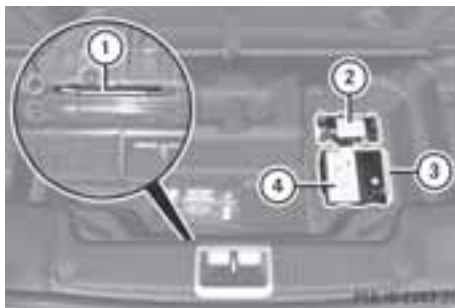
▶ トランクリッドを開きます。
▶ ラゲッジカバーを開きます。 (▷ 92 ページ)
▶ トランクフロアを引き上げます。(▷ 210 ページ)
▶ 救急セット ① を取り出します。

ℹ 最低 1 年に 1 回、救急セットの使用期限が切れていないか確認してください。中身が揃っているか確認し、なくなりかけたものは補充してください。

車載工具

全体的な注意事項

けん引フックはトランク内のトランクリッド下部のブラケットにあります。タイヤフィットキット装備車の場合は、トランクフロアの下の小物入れにあります。

タイヤフィット装備車

① けん引フック
② タイヤフィットのボトル
③ ヒューズ配置表
④ 電動エアポンプ

▶ トランクリッドを開きます。
▶ ラゲッジカバーを開きます。 (▷ 92 ページ)
▶ トランクフロアを引き上げます。(▷ 210 ページ)

タイヤ交換工具キット

▶ トランクリッドを開きます。
▶ ラゲッジカバーを開きます。 (▷ 92 ページ)
▶ トランクフロアを引き上げます。(▷ 210 ページ)

ℹ 車両装備によって、すべての車両にジャッキのように車輪を交換するために必要な工具があるわけではありません。お客様の車両のために承認された工具は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めいただけます。

タイヤ交換工具収納バッグ ① には以下の工具が入っています。

- ジャッキ
- ホイールレンチ
- ガイドボルト
- 輪止め
- 手袋

タイヤのパンク

車両の準備

車輪の交換/装着に関する情報（▷ 251 ページ）

MOExtended タイヤ装備車の場合、車両の準備作業は必要ありません。

車両によって、以下の装備があります。

- MOExtended タイヤ(ランフラット特性を持つタイヤ)
- タイヤフィットキット
- 応急用スペアタイヤ(一部の国のみ)

▶ 走行中にタイヤがパンクしたときは、交通の妨げにならず、地面がかたく滑らない水平な場所に停車します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

▶ 車両が動き出さないように固定してください。（▷ 129 ページ）

▶ ステアリングを操作して、前輪を直進位置にします。

▶ エンジンを停止します。

▶ **キーレスゴー非装備車**：エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ **キーレスゴー装備車**：運転席ドアを開きます。
マルチファンクションディスプレイには、キーを抜いたときと同様に、**0** が表示されています。

▶ **キーレスゴー装備車**：エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します（▷ 120 ページ）。

▶ 乗員は全員車から降りてください。 降車時は、周囲の安全を確認してください。

▶ 車輪が交換されている間は、危険な場所の近くに誰もいないことを確認してください。 作業者以外は、フェンスなどで区切られた安全な場所に避難してください。

▶ 運転者も車から降ります。 降車時は周囲の交通状況に注意してください。

▶ 運転席ドアを閉じます。

▶ 適切な距離を離して停止表示板を置きます（▷ 226 ページ）。法規を遵守してください。

ⓘ 自動車道路や高速道路では、後続の交通に警告するため、停止表示板を使用することが法律で義務付けられています。

MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）

⚠ **警告**

エマージェンシーモードで運転すると、コーナリングや急加速、ブレーキ時などに走行特性が低下します。事故の危険性があります。

規定の最高速度を超えないでください。急激なステアリング操作、運転操作、障害物(縁石、穴、オフロード)を超える運転を避けてください。これは特に荷物積載時にあてはまります。

以下の場合は、エマージェンシーモードでの運転は中止してください。

- 大きい異音が聞こえるとき
- 車に振動が発生するとき
- 煙やタイヤの焦げる臭いが発生するとき
- ESP®が常時作動するとき
- タイヤのサイドウォールに裂け目があるとき

エマージェンシーモードでの運転のあとは、さらに使用できるかの確認のためにホイールリムをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。不具合のあるタイヤは新品と交換してください。

MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）装備車は、1 本または複数のタイ

ヤが完全にパンクした状態でも走行を続けることができます。

MOExtended タイヤは、作動しているタイヤ空気圧警告システムとの組み合わせでのみ使用することができます。

最長走行距離は、車両に部分的に積載しているときは約 80 km、車両に最大の積載をしているときは約 30 km です。

車両の荷物に加えて、走行可能な距離は以下によって異なります。

- 走行速度
- 道路状況
- 外気温度

ランフラットモードで走行可能な距離は、極端な走行状況/操作によって短くなったり、穏やかな運転スタイルによって長くなることがあります。

走行可能な距離は、タイヤ空気圧警告システムの警告メッセージが、マルチファンクションディスプレイに表示されたときが起点になります。

最高速度が約 80 km/h を超えないようにしてください。

ℹ 1 つまたはすべてのタイヤを交換するときは、"MOExtended"マークのあるタイヤのみを使用していることを確認してください。 車両指定のサイズのタイヤのみを使用してください。

ℹ MOExtended タイヤ装備車には、タイヤフィットを標準装備していません。ウィンタータイヤなど、ランフラットタイヤ以外のタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で装備することをお勧めします。 タイヤフィットは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

タイヤフィット

タイヤフィットの使用

タイヤフィットはタイヤシーラント剤です。

タイヤフィットを使用して、 4 mm 以下のパンク、特にタイヤのトレッドのものをふさぐことができます。タイヤフィットは、外気温度が約 -20 ℃に下がるまで使用できます。

⚠ **警告**

以下の状況の場合は、タイヤフィットが十分に機能しないため、タイヤを適切に修理することはできません。

- 上記に記した以上のタイヤの裂け目や穴
- ホイールリムが損傷している場合
- タイヤ空気圧が非常に低い状態や、完全にパンクした状態で走行した場合

事故の危険性があります。

それ以上走行を続けないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

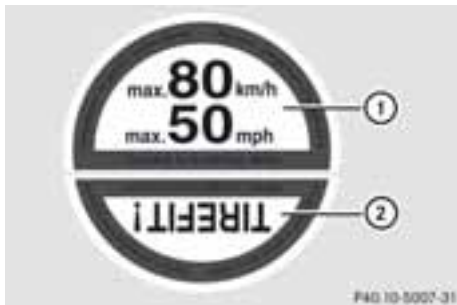
⚠ **警告**

タイヤフィットは有害で、炎症を起こす原因となります。皮膚、眼、服に付着させたり、吸い込んだりしないようにしてください。タイヤフィットの臭気を吸い込まないでください。タイヤフィットは子供の手の届かないところに保管してください。負傷するおそれがあります。

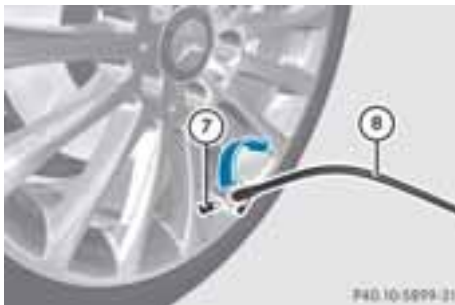
タイヤフィットが付着した場合は、以下の指示にしたがってください。

- タイヤフィットをただちに水道水で皮膚から洗い流してください。
- タイヤフィットが眼に付着した場合は、ただちに水道水で十分に洗い流してください。
- 万一、タイヤフィットを飲み込んだ場合は、ただちに水道水で口を十分すすぎ、水道水を大量に飲ませてください。

無理に吐かせないでください。ただちに専門医の診断を受けてください。
- タイヤフィットが付着した衣類は、ただちに着替えてください。
- アレルギー反応が生じた場合は、ただちに専門医の診断を受けてください。

! 電動エアポンプは、一度に約 8 分以上連続して作動させると、ポンプがオーバーヒートするおそれがあります。
電動エアポンプが冷えたら、再び作動させることができます。

タイヤフィットステッカー、2 部分

- ▶ タイヤに刺さったクギやネジなどは取り除かないでください。
- ▶ トランクフロア下の収納スペースからタイヤフィットのボトル、付属のタイヤフィットステッカー、およびタイヤ充填コンプレッサーを取り出します (▷ 227 ページ)。
- ▶ タイヤフィットステッカー ① の部分を運転者の視界内に貼ります。
- ▶ タイヤフィットステッカー ② の部分を不具合のあるタイヤのホイールのバルブ付近に貼ります。

- ▶ ケーブル付き電源プラグ ④ とホース ⑤ をハウジングから取り出します。
- ▶ ホース ⑤ をタイヤフィットのボトル ① のフランジ ⑥ にしっかり取り付けます。
- ▶ タイヤフィットのボトル ① を頭を下にして電動エアポンプのリセス ② にはめます。

- ▶ パンクしたタイヤのバルブ ⑦ からキャップを取り外します。
- ▶ 充填ホース ⑧ をバルブに締めます。
- ▶ (▷ 210 ページ) プラグ ④ を車内のライター (▷ 210 ページ) のソケットまたは 12V 電源ソケットに差し込みます。
- ▶ エンジンスイッチを **1** の位置にまわします。 (▷ 120 ページ)

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ③ を I の位置にします。
電動エアポンプが作動し始めます。応急用スペアタイヤに空気が送り込まれます。

ℹ 最初に、タイヤにタイヤフィットが送り込まれます。圧力が一時約 500 kPa（5.0 bar/73 psi）まで上がることがあります。

この期間の間は、タイヤ充填コンプレッサーをオフにしないでください。

▶ タイヤ充填コンプレッサーを約 5 分間作動させます。その後にタイヤは約 180 kPa（1.8 bar/26 psi）以上の圧力になっていなければなりません。

約 5 分後、タイヤ空気圧が約 180 kPa （1.8bar / 26 psi）に達している場合：(▷ 231 ページ)

約 5 分後、タイヤ空気圧が約 180 kPa （1.8bar / 26 psi）に達していない場合：(▷ 231 ページ)

ℹ タイヤフィットが漏れ出た場合は、そのまま乾燥させてください。フィルム状になり、剥がすことができます。
衣類にタイヤフィットが付着した場合は、できるだけ早くパークロロエチレンでクリーニングしてください。

不適正なタイヤ空気圧

約 5 分後に空気圧が約 180 kPa (1.8 bar/26 psi) に達しない場合：

▶ 電動エアポンプを停止します。
▶ パンクしたタイヤのバルブから充填ホースを外します。
▶ ごく低速で約 10 m 前進または後退します。
▶ 再度、タイヤに空気を注入します。
最大で約 5 分後にタイヤ空気圧が少なくても約 180 kPa (1.8 bar/26 psi) でなければなりません。

⚠ **警告**

規定の時間が経過したのに、必要十分なタイヤ空気圧に達しない場合は、タイヤは致命的に損傷しており、 タイヤフィットによる タイヤ修理はできません。損傷したタイヤや非常に低下したタイヤ空気圧により、車両のブレーキや走行特性が著しく損なわれることがあります。事故の危険性があります。
それ以上走行を続けないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

適正なタイヤ空気圧

⚠ **警告**

タイヤフィットで一時的に修理したタイヤは車両操縦性が損なわれてしまい、高速走行には適しません。事故の危険性があります。
そのため、状況に応じて運転スタイルを調整し慎重に走行してください。タイヤフィットで修理したタイヤで走行する場合は、 指定された最高速度を超過しないでください。

! 使用後は、ホースから余分なタイヤフィットが漏れ出ることがあります。タイヤフィットが付着すると、シミの原因になります。
したがって、ホースはタイヤフィットが収納されていた専用袋に収納してください。

環境保護に関する注意

使用済みのタイヤフィットのボトルを廃棄処分する場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご依頼ください。

最大約 10 分後、空気圧が約 180 kPa (1.8 bar/26 psi) に達した場合：

- ▶ 電動エアポンプを停止します。
- ▶ パンクしたタイヤのバルブから充填ホースを外します。
- ▶ タイヤフィットのボトル、電動エアポンプおよび停止表示板を収納します。
- ▶ **ただちに発進します。**
  タイヤフィットで修理したタイヤの最高速度は 80 km/h です。 タイヤフィットステッカーの上部を、メーターパネルの運転者の視界内に貼ってください。
- ▶ 約 10 分間走行した後で車を停め、電動エアポンプを取り付けてタイヤ空気圧を点検してください。
  タイヤ空気圧は少なくても約 130 kPa（1.3 bar/19 psi）でなければなりません。

> ⚠ **警告**
> 短時間の走行後に規定タイヤ空気圧に達しない場合は、タイヤがひどく損傷しています。この場合は、タイヤフィットでタイヤを修理することができません。 タイヤの損傷およびタイヤ空気圧が低すぎることにより、車両のブレーキ操作や操縦性が著しく損なわれるおそれがあります。 事発生の危険性があります。
> それ以上走行を続けずに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

- ▶ まだ 130 kPa (1.3 bar/19 psi)以上の場合はタイヤ空気圧を調整します（値は燃料給油フラップをご覧ください）。
- ▶ **タイヤ空気圧を上げる：** 電動エアポンプのスイッチを入れます。

- ▶ **タイヤ空気圧を下げる：** 空気圧ゲージ ② の横にある空気圧調整スイッチ ① を押します。
- ▶ タイヤ空気圧が正しいときは、修理したタイヤのバルブから充填ホースを外します。
- ▶ バルブキャップを修理したタイヤのバルブに締めます。
- ▶ タイヤフィットのボトルをタイヤ充填コンプレッサーから引き出します。
  充填ホースはタイヤフィットのボトルにとどまります。
- ▶ タイヤフィットのボトル、電動エアポンプおよび停止表示板を収納します。
- ▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、そこでタイヤを交換してください。
- ▶ できるだけ早くメルセデス・ベンツ指定サービス工場でタイヤフィットのボトルを交換してください。
- ▶ タイヤフィットのボトルは 4 年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

バッテリー（車両）

重要な安全上の注意

取り外し、または取り付けなどのバッテリーに関する作業は、専門的な知識と特別な工具の使用が必要です。 したがって、バッテリーに関する作業は、必ずメ

ルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ **警告**

バッテリーに不適切な作業を行なうと、例えばショートにつながり、車両の電子部品を損傷します。ABS(アンチロックブレーキング・システム)または ESP®(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)のような走行安全装備の故障の原因になります。

- ABS が故障している場合は、ブレーキ時に車輪がロックすることがあります。ブレーキ時のステアリング操縦性が制限され制動距離が長くなるおそれがあります。 事故発生の危険性があります。
- ESP®が故障している場合は、横滑りしたとき、または車輪が空転したときに車両を安定させることができないので、事故発生の危険性があります。

したがって、バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ **警告**

バッテリーを取り扱うときは、安全上の注意事項および防護措置を守ってください。

爆発のおそれがあります。

バッテリーを取り扱うときは、火気や直火、タバコなどを近づけないでください。 火花が発生しないように注意してください。

バッテリー液は腐食性があります。 皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。

手袋やエプロン、マスクなど、適切な保護衣を着用してください。

バッテリー液が付着したときは、すぐに清潔な水で十分に洗い流してください。 応急処置の後、医師の診察を受けてください。

保護眼鏡を着用してください。

子供を近づけないでください。

取扱説明書の指示に従ってください。

⚠ **警告**

安全のため、バッテリーは必ず純正品を使用してください。 これらのバッテリーは衝撃保護性能に優れており、事故などでバッテリーが損傷した際に乗員が酸で火傷をする危険性を低減します。

爆発や火傷を防ぐため、バッテリーを取り扱うときは以下の注意事項を守ってください。

- バッテリーをのぞき込まないでください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。 バッテリーがショートして可燃性のガスに引火し、爆発するおそれがあり危険です。
- 静電気を防ぐため、合成繊維の衣服を着用しないでください。また、繊維の摩擦による帯電を防止してください。カーペットや合成繊維の物の上でバッテリーを引きずらないでください。
- いきなりバッテリーに触れないでください。 バッテリーに触れるときは、降車時に車体などに触れて、身体の静電気を放電させてください。
- 布などでバッテリーを拭かないでください。 静電気や火花が発生して、バッテリーが爆発するおそれがあります。

環境保護に関する注意

電池には環境汚染物質が含まれています。 電池を家庭用ゴミとして廃棄することは法律で禁じられています。 使用済みの電池は個別に回収し、環境に適合するリサイクル方法で処分してください。

電池は環境に配慮した方法で廃棄してください。使用済みの電池は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお持ちいただくか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

! メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を定期的に受けてください。

整備手帳のメンテナンスインターバルを確認するか、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。 万が一、例外的な状況では、必ずご自身でバッテリーの接続を外す必要があり、以下のことを遵守してください。

- エンジンを切って、キーを外します。キーレスゴー装備車の場合は、必ずイグニッションがオフになっていることを確認します。 メーターパネルのすべての表示灯が消灯していることを確認します。 たとえば、オルタネーターのような電子部品を損傷するおそれがあります。
- まずマイナス端子をはずして、次にプラス端子をはずします。 端子を入れ替えないでください。 車両の電子部品を損傷するおそれがあります。
- バッテリーの接続を切った後、トランスミッションは P の位置でロックされます。車両は走り出さないように固定されます。 車両を動かすことができなくなります。

運転中はバッテリーおよびプラス端子のカバーをしっかり取り付けてください。

バッテリーの性能を長期にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分に充電されていることが必要です。

車両のバッテリーは他のバッテリーと同様に、車両を使用しないと、徐々に放電する可能性があります。 そのような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの接続を外す作業を依頼してください。 純正バッテリー充電器を使用してバッテリーを充電することもできます。 詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

車を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多い場合は、通常よりも頻繁にバッテリー液量や充電状態を点検してください。 車を長期間使用しないときの保管方法については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i 駐車時に電気装備を必要としないときは、キーを抜いてください。 エンジンスイッチにキーが差し込まれているときは、電力をわずかに消費します。

バッテリーの充電

⚠ **警告**

バッテリーの充電は必ず換気の行き届いた場所で行なってください。充電中は、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発が起こるおそれがあり危険で

す。バッテリー液が噴き出すと、作業者や周りの方々が負傷したり、塗装面が損傷したり、車体に腐食が発生するおそれがあります。

バッテリーを車両から取り外さずに充電できるバッテリー充電器についての情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

⚠ **警告**

充電中はバッテリーから発生する可燃性ガスに引火すると、爆発が起こり、火傷を負うおそれがあります。 充電中はバッテリーをのぞき込まないでください。

⚠ **警告**

バッテリー液は腐食性があります。 皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。

! 必ず最大充電電圧が約 14.8 V のバッテリー充電器を使用してください。

! バッテリーを充電する場合は、必ずジャンプスタートターミナルを使用してください。

ジャンプスタートターミナルは、エンジンルーム内にあります。

バッテリーを充電する前に、バッテリー充電器の取扱説明書をお読みください。

▶ ボンネット (▷ 215 ページ) を開く
▶ ジャンプスタートにより救援車のバッテリーを接続したときと同じ順序で、バッテリー充電器をプラス端子とアース端子に接続してください。 (▷ 236 ページ)

ジャンプスタート

⚠ **警告**

他車のバッテリーを電源として始動している時に、バッテリーからガスが噴き出て負傷するおそれがあります。 他車のバッテリーを電源として始動してい時は絶対にバッテリーをのぞき込こまないでください。

⚠ **警告**

ジャンプスタートとは、ブースターケーブルを使用して、他車のバッテリーなどを電源としてエンジンを始動させる方法です。ジャンプスタートを行なう時は、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火すると、爆発が起こるおそれがあります。火花が発生しないように注意してください。 火気や裸火、タバコの火などを、絶対にバッテリーに近づけないでください。

バッテリーを取り扱う時は、重要な安全上の注意を守ってください。さくいんの"バッテリー(車両) - 重要な安全上の注意"をご覧ください。

⚠ **警告**

ジャンプスタートを行なう場合は、以下の注意事項を守ってください。

- 救援車のバッテリーをのぞき込まないでください。
- 救援車のバッテリーを傾けないでください。

バッテリーが爆発して、負傷するおそれがあります。

⚠ **警告**

未燃焼燃料が排気システムに充満して発火するおそれがあります。 火災のおそれがあります。 エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。

! エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。 未燃焼燃料によって触媒が損傷するおそれがあります。

車両の始動のために急速充電機器を使用しないでください。車両のバッテリーが放電したときは、ブースターケーブルを使用して他車や他のバッテリーからエンジンをジャンプスタートすることができます。以下の点に注意してください。

- バッテリーが手の届きにくい位置に設置されている車もあります。他車のバッテリーに手が届かないときは、他のバッテリーまたはジャンプスタート機器を使用して、車両をジャンプスタートしてください。
- エンジンと排気システムが冷えていない場合は、車両のジャンプスタートは実行できません。
- バッテリー液が凍結しているときはジャンプスタートはできません。バッテリー液を解凍してから行なってください。
- ジャンプスタートは、自車と同じ 12 V バッテリーを搭載した救援車に依頼してください。
- 十分な容量と太さがあり、絶縁されたクランプを持つブースターケーブルを使用してください。

- バッテリーが完全に放電した場合は、ケーブルの接続を完了してすぐにエンジン始動を試みるのでなく、数分置いてから始動操作を行なってください。その間、バッテリーは十分な電力を溜めることができます。
- 自車と救援車が接触していないことを確認します。

以下のことを確認してください。

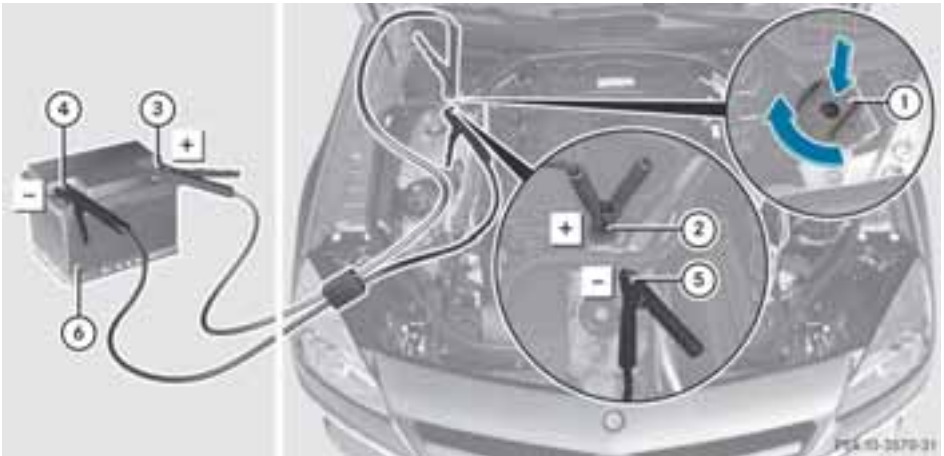
- ブースターケーブルが損傷していないこと。
- ブースターケーブルをバッテリーに接続している間、クランプの絶縁されていない部分が他の金属部品と接触しないこと。
- ブースターケーブルが V ベルトプーリーやファンなどの部品に巻き込まれないようにすること。エンジンが始動し回転し始めると、これらの部品は動きます。

▶ パーキングブレーキをかけ、車両を停止します。

▶ シフトポジションを P にしてください。

▶ キーをまわしてイグニッション位置を 0 にした後、キーを抜き取ります(▷ 120 ページ)。キーレスゴー装備車の場合は、必ずイグニッションをオフにします(▷ 120 ページ)。 メーターパネル内のすべての表示灯が消灯します。

▶ 電気装備（ラジオ、エアコンディショナーなど）をすべて停止します。

▶ ボンネット (▷ 215 ページ) を開きます。

位置番号 ⑥ は、救援車のバッテリーまたはジャンプスタート装置を示します。

▶ プラス端子 ② のカバー ① を下に（矢印方向)、時計回りにまわします。カバー ① が低い位置に押されて下がると、プラス端子 ② が露出します。

▶ ブースターケーブルを使用して、車両のプラス端子 ② を救援車のバッテリー ⑥ のプラス端子 ③ に接続します。その際に、必ず最初に自車のプラス端子 ② から開始します。

▶ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。

- ブースターケーブルを救援車のバッテリー ⑥ に接続します。次に、救援車のバッテリー ⑥ のマイナス端子 ④ を自車のバッテリーのアース端子 ⑤ に接続します。
- エンジンを始動してください。
- ブースターケーブルを外す前に、エンジンを数分間作動させてください。
- 最初にブースターケーブルをアースポイント ⑤ とマイナス端子 ④から、次にプラスクランプ ②とプラス端子 ③ から取り外します。 その際、いずれも自車の端子から開始してください。
- ブースターケーブルを取り外した後に、プラス端子 ② のカバー ① を押し下げて、反時計回りにまわします。カバー ① を元の位置に戻します。プラス端子 ② が隠れて、再び絶縁されます。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。

ⓘ ジャンプスタートでエンジンがかかっても、車両は正常な作動状態ではありません。

ⓘ ジャンプブースターケーブルおよびジャンプスタートについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

けん引およびけん引による始動

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

けん引を行なう時に、以下の条件の場合は、強度のあるけん引ロッドを使用してください。

- エンジンが作動しない場合
- ブレーキシステムが故障している場合
- 電力供給や車両の電気装備に異常がある場合

エンジンが停止している時は、ステアリングのパワーアシストおよびブレーキブースターが作動しないので、ブレーキおよびステアリングの操作にはより大きな力が必要となります。必要に応じて、ブレーキペダルを最大限の力で踏み込む必要があります。

けん引を行なう前に、ステアリングをスムーズに操作することができ、ロックしていないことを必ず確認してください。

お客様の車両より重い車のけん引またはけん引始動は絶対に避けてください。

⚠ **警告**

ホールド機能またはディストロニックプラスが作動している時は、車両にブレーキが効いています。車両をけん引する場合は、必ずホールド機能およびディストロニックプラスを解除してください。

❗ けん引ロープやロッドは、けん引フック以外にはかけないでください。 車体が損傷するおそれがあります。

❗ けん引ロープを使用してけん引を行なう場合は、必ず以下の点に注意してください。

- ロープは、両車とも同じ側につないでください。
- けん引ロープの長さは 5m 以内である必要があります。その中間に白い布(30x30cm)を付けて、けん引中であることが周囲から明確にわかるようにしてください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。

- 走行中は、けん引する車のブレーキランプに注意してください。常に車間距離を維持しつつ、ロープをたるませないように走行してください。
- ワイヤーロープや金属製のチェーンは使用しないでください。車体に傷が付くおそれがあります。

! 車体の損傷を防ぐために、車両を運搬する際は、けん引フックを使用しないでください。 可能であれば、クレーンを使用して、車両を回収してください。

! けん引する時は、ゆっくりとスムーズにけん引します。けん引力が大きすぎると、車両が損傷するおそれがあります。

! キーレスゴー装備車のけん引を行なう時は、エンジンスイッチを使用せずにキーを操作します。オートマチック車の場合は、運転席ドアまたは助手席ドアを開くとシフトポジションが **P** になり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! パーキングブレーキが解除されていることを確認してください。パーキングブレーキが故障している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場をおたずねください。

! 車両は最長で約 50 km までけん引できます。 けん引する際の速度は、約 30 km/h を超えないようにしてください。
距離が約 50 km を超える場合は、必ず車両全体をリフトアップして、車両運搬車を利用してください。

! お客様の車両より重い車両のけん引またはけん引始動は絶対に避けてください。
けん引を行なうときは、各国の法規を遵守してください。

けん引はできるだけ避け、車両を搬送してください。
オートマチック車をけん引してもらうときは、シフトポジションを **N** にします。
バッテリーが接続されていて、十分に充電されていることを確認してください。そうしないと、以下の問題が起こります。

- イグニッション位置を **2** にすることができなくなる
- オートマチック車の場合、シフトポジションを **N** にすることができなくなる

i 車速感応ドアロック (▷ 159 ページ)を解除してください。さもないと、車両を押したり、またはけん引するときに、閉め出されるおそれがあります。
けん引してもらうときは、けん引防止機能を解除してください。 (▷ 72 ページ)

けん引フックの取り付け / 取り外し

けん引フックの取り付け

⚠ **警告**
マフラーは熱くなっていることがあります。手などがマフラーに触れると火傷をするおそれがあります。後部カバーを取り外す時は、十分に注意して作業を行なってください。

例：けん引フック取り付け部のカバー

けん引フックの取り付け部はバンパーに付いています。前後のバンパーのカバーの下にあります。

▶ 車載工具キット (▷ 227 ページ) からけん引フックを取り出します。

▶ **フロントバンパー：** カバー ① の下端の凹部に指を差し込みます。

▶ カバー ① をバンパーから手前（矢印の方向）に引きます。

カバー ① は開口部にストラップで取り付けられています。

▶ **リアバンパー：** カバー ② のマークを内側（矢印の方向）に押します。

▶ カバー ② を開口部から外します。

▶ 内部のネジ穴にけん引フックをねじ込み、時計回りに止まるまで締め込みます。

けん引フックの取り外し

例：けん引フック取り付け部のカバー

▶ けん引フックを緩めて取り外します。

▶ **フロントバンパー：** カバー ① を図のようにバンパー操作部の位置に置きます。

▶ カバー ① を開口部内に矢印の方向へまわします。

カバー ① は開口部の上端に取り付けられています。

▶ 閉じるには、カバー ① の下部を押します。

▶ **リアバンパー：** カバー ② をバンパーの位置に置き、しっかり押してはめ込みます。

▶ けん引フックを車載工具キット (▷ 227 ページ) に収納します。

リアをつり上げてけん引を行なう場合

! リアをつり上げてけん引を行なうときは、必ずイグニッションをオフにしてください。ESP®の介入によりブレーキが損傷するおそれがあります。

▶ 非常点滅灯を点滅させせます。 (▷ 104 ページ)
▶ イグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチからキーを抜き取ります。
▶ 車両から離れるときは、キーを閉じ込めないよう注意してください。

後軸を上げて車両をけん引するときは、安全指示を遵守することが重要です (▷ 238 ページ)。

4 輪を接地した状態でけん引する

⚠ **警告**

エンジンが停止している時は、ステアリングのパワーアシストおよびブレーキブースターが作動しないので、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。 状況に応じて、運転方法を調整してください。

運転席または助手席ドアを開いたとき、またはエンジンスイッチからキーを取り外したときは、オートマチックトランスミッションは自動的に **P** の位置にシフトします。

車両をけん引するときにオートマチックトランスミッションを **N** の位置に保つためには、以下の点に従わなければなりません。

▶ 非常点滅灯スイッチを押します。 (▷ 104 ページ)

ℹ 非常点滅灯を点滅させてけん引してもらうときは、方向指示を行なうために、通常通りコンビネーションスイッチを操作してください。このときは、希望の方向の方向指示灯のみが点滅します。コンビネーションスイッチを戻すと、非常点滅灯が再び点滅します。

▶ 停車していることを確認し、イグニッション位置を **0** にします。
▶ イグニッション位置を **2** にします。

キーレスゴー装備車の場合は、エンジンスイッチ (▷ 120 ページ)ではなくキーを操作します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま保持します。
▶ オートマチックトランスミッションのシフトポジションを **N** にします。
▶ ブレーキペダルを徐々に戻します。
▶ パーキングブレーキを解除します。
▶ イグニッション位置を **2** にします。

けん引を行なうときは、以下の安全注意事項 (▷ 238 ページ) を守ってください。

車両を運搬する

! 車両運搬車に積載して固定するときは、固定ロープをアクスルやステアリング部品などにかけずに、ホイールやホイールリムにかけてください。 車体が損傷するおそれがあります。

けん引フックはトレーラーまたは輸送用トランスポーターで車両をけん引するために使用します。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。
▶ オートマチックトランスミッションのシフトポジションを **N** にします。

車両を積載したら、以下の点に注意してください。

▶ 車両が動き出すのを防止するため、パーキングブレーキを効かせてください。
▶ オートマチックトランスミッショのシフトポジションを **P** にします。
▶ キーをまわしてイグニッションをポジション **0** にした後、キーを抜き取ります。
▶ 車両を固定します。

けん引による始動（エンジンエマージェンシースタート）

! オートマチック車はけん引始動しないでください。 オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

"ジャンプスタート"に関する情報は (▷ 236 ページ) にあります。

ヒューズ

重要な安全上の注意

> ⚠ **警告**
> ヒューズは必ずメルセデス・ベンツの車両に適合し、該当する電気装備と同じ規定容量を満たすものを使用してください。 切れているヒューズを修理したり、つなごうとしたりしないでください。 適合しないヒューズを使用したり、切れたヒューズを修理したりつなごうとすると、ヒューズに過負荷がかかり、火災の原因になります。 ヒューズ切れの原因の特定や修理は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

! ヒューズは必ずメルセデス・ベンツ車両に適合し、該当する電気装備と同じ規定容量を満たすものを使用してください。 適切でないヒューズを使用すると、構成部品や電気装備を損傷するおそれがあります。

車両に装備されているヒューズは、異常のある回路への接続を切断します。ヒューズが切れると、回路上のすべての電気装備が作動しなくなります。

切れたヒューズを交換する時は、ヒューズの色と数字で確認し、必ず同じ規定容量のヒューズと交換してください。ヒューズ定格値は、ヒューズ配置表に記載されています。

ヒューズを交換しても、またすぐに切れる場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因の特定や修理を行なってください。

ヒューズを交換する前に

▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 129 ページ)

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわして、キーを抜き取ります。 (▷ 120 ページ)

または

▶ キーレスゴー装備車の場合は、必ずイグニッションをオフにします。(▷ 120 ページ)

メーターパネル内のすべての表示灯が消灯します。

ヒューズは、以下のヒューズボックス内にあります。

- エンジンルーム内右側（進行方向）のヒューズボックス
- ダッシュボードのヒューズボックス
- 進行方向に見たときの車両の後席右側のヒューズボックス

ヒューズ配置表は、トランクフロア下にある小物入れ内の車載工具にあります。(▷ 227 ページ)

ダッシュボードのヒューズボックス

! ドライバーなどの鋭利な物を使用して、ダッシュボードのカバーを開かないでください。 ダッシュボードやカバーを損傷するおそれがあります。

! カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

! カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にはまっていることを確認してください。 ヒューズボックスの中に水

分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。

▶ **開く**：カバー ① を外側(矢印の方向)に開いて、取り外します。

▶ **閉じる**：カバー ① をダッシュボードの前面に差し込みます。

▶ カバー ① がはまるまで内側にたたみます。

エンジンルーム内のヒューズボックス

! カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

! カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にはまっていることを確認してください。 ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。

▶ ボンネットを開きます。

▶ 乾いた布を使用してヒューズボックスからそこにある水分を取り除きます。

▶ **開く**： クランプ ② を外します。

▶ ヒューズボックスのカバー ① を矢印の方向に倒し、取り外します。

▶ **閉じる**： シールがカバー ① に適切に密着していることを確認します。

▶ カバー ① の後部にある両方の開口部 ③ をヒューズボックスのブラケットに差し込みます。
ヒューズボックスのブラケットが、ヒューズボックスの 2 個の開口部 ③ から完全に見える状態でなければなりません。

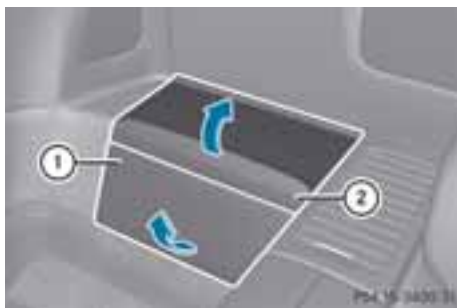
▶ カバー ① をたたみます。

▶ クランプ ② をヒューズボックスに引っかけて閉じます。

▶ ボンネットを確実に閉じてください。

後部のヒューズボックス

! カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

! カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にはまっていることを確認してください。 ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。

後部のヒューズボックスは、進行方向に向って右側に収納されています。

- **開く：**右側シートのシートベルトガイドを開いて、シートベルトを取り外します。
- 右側フロントシートをできるだけ前に動かします。
- カバーとフロアカバーの間のフロントカバー ① の底部に指を差し込みます。
- フロントカバー ① を矢印の方向に引いて、前方に取り外します。
- トップカバー ② を矢印の方向に引いて外します。

ヒューズ ③ は、ヒューズボックス上部の 2 個の開口部から触れることができます。

- **閉じる：**トップカバー ② の下面にある固定タグをヒューズボックス上部の凹部に差し込みます。
- トップカバー ② を折り曲げてカチッと音がするまではめます。
- トップカバー ① の下面にある固定タグをヒューズボックス前面の凹部に差し込みます。
- カチッと音がするまで、フロントカバー ① を後方に押します。
- 右側シートを後方に移動します。
- シートベルトを右側シートのシートベルトガイドに引っかけます。

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- シートの調整
- シートベルトガイドからのシートベルトの取り外し

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 27 ページ)

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

誤ったサイズのホイールやタイヤを使用すると、車輪ブレーキまたはサスペンションの部品を損傷することがあります。事故の危険性があります。

純正部品（型式、メーカー、モデル）の仕様を満たすホイールやタイヤと必ず交換してください。

⚠ **警告**

パンクは車両の走行、ステアリング、ブレーキ特性を著しく損なうことがあります。 事故の危険性があります。

ランフラット特性のないタイヤ：

- パンクしたタイヤで走行しないでください。
- ただちにパンクしたタイヤを応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤと交換するか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご相談ください。

ランフラットタイヤ：

- MOExtended タイヤ (ランフラットタイヤ)に関する情報と警告注意に注意してください。

メルセデス・ベンツによりお客様の車両に承認されていない、または正しく使用されていないアクセサリーは操作安全性を損なうことがあります。

承認されていないアクセサリーを購入し、ご使用になる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場をおとずれ、以下のことをご質問ください。

- 適合性
- 合法性
- 推奨品

ホイールとタイヤのサイズと種類に関する情報は (▷ 257 ページ) をご覧ください。

車両のタイヤの空気圧に関する情報は以下をご覧ください。

- 燃料給油口にあるタイヤ空気圧ラベル
- "タイヤ空気圧"

ブレーキシステムおよびホイールの改造は許可されていません。 ホイールスペーサブラケットまたはブレーキダストシールドの使用は許可されていません。 このような改造を行なった場合は、不具合が生じても保証の適用外になります。

ℹ タイヤとホイールに関する詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

操作

走行に関する情報

車両に重い荷物を積んでいるときは、タイヤ空気圧を点検し、必要に応じて調整してください。

走行中は、振動や騒音が発生したり、ステアリングが片側に取られるなど、車両操縦性に変化が現れていないか注意してください。 このような症状の原因には、タイヤあるいはホイールの損傷が考えられます。 タイヤに異常を感じたら、速度を落として慎重に運転してください。 すみやかに安全な場所に停車して、タイヤ

とホイールに損傷がないか点検してください。 タイヤが損傷すると、車両操縦性が損なわれる原因になります。 損傷が何も認められない場合、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でタイヤおよびホイールの点検を受けてください。

駐車時は、タイヤが縁石や障害物に接触して変形しないように注意してください。 また、縁石や路面の段差などを乗り越える必要がある場合は、速度を落とし、縁石や段差に対してタイヤをできるだけ直角にして乗り越えてください。 そうしないと、特にタイヤのサイドウォールなどが損傷するおそれがあります。

タイヤおよびホイールの定期点検

⚠ **警告**

タイヤが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。その結果として、車両のコントロールを失うおそれがあります。 事故発生の危険性があります。

タイヤに損傷がないか定期的に点検を行ない、損傷したタイヤはただちに新品と交換してください。

タイヤおよびホイールの点検は、運転前、また悪路や凸凹路の走行後にも行ない、タイヤに損傷がないか確認してください。 ホイールが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。 特に、以下のような損傷にご注意ください。

- タイヤの傷
- 刺し傷などの穴
- タイヤの亀裂
- タイヤの突起
- ホイールの変形や腐食

タイヤのトレッドの深さやタイヤの幅全体にわたるトレッドの状態を定期的に点検してください(▷ 247 ページ)。 必要であれば、タイヤ表面の内側を点検するために、前輪をフルロックまでまわしてください。

ほこりや水分の侵入を防ぎバルブを保護するため、すべてのホイールにバルブキャップを必ず装着してください。 純正品または承認された製品以外のバルブキャップをバルブに装着しないでください。 純正品以外のバルブキャップまたはタイヤ空気圧モニターシステムなどのシステムを装着しないでください。

長距離走行の前は特に、定期的にすべてのタイヤの空気圧を点検してください。必要であれば、タイヤ空気圧を調整してください (▷ 248 ページ)。

応急用スペアタイヤに関する注意事項を遵守してください。 (▷ 262 ページ)

タイヤの耐用年数は、以下を含むさまざまな要因に左右されます。

- 走行スタイル
- タイヤ空気圧
- タイヤ総走行距離

タイヤのトレッド

⚠ **警告**

タイヤのトレッドが不十分であると、タイヤのグリップが低下します。 このようなタイヤは水を排出することができなくなり、 濡れた路面で、特に走行状況に適していない速度で走行すると、ハイドロプレーニング現象が生じる危険性が高くなります。事故発生の危険性があります。

タイヤ空気圧が高すぎたり低すぎたりすると、トレッド面の位置によって偏摩耗が生じることがあります。タイヤの定期点検を行なう時は、タイヤの溝の深さだけでなく、タイヤの内側の摩耗状態も点検してください。

タイヤの溝の深さの最小値：

- サマータイヤ：3mm
- ウィンタータイヤ：4mm

安全保持のために、タイヤの溝の深さが法律で定められた最小値に達する前に、該当するタイヤを新品と交換してください。

タイヤの選択、装着および交換

- タイヤおよびホイールは、4 輪とも同一種類、同一銘柄のものを装着してください。
- 適正なサイズのタイヤをホイールに装着してください。
- 新品のタイヤでは最初の約 100 km では適度な速度で走行してください。この距離の後でのみ、最高の性能に達します。
- 残り溝の深さが不足したタイヤで走行しないでください。 濡れた路面ではタイヤのグリップが著しく低下します(ハイドロプレーニング現象)。
- 摩耗の程度に関わらず、6 年以上経過したタイヤは新品と交換してください。

応急用スペアタイヤに関する注意事項を遵守してください (▷ 262 ページ)。

MOExtended タイヤ(ランフラット特性を持つタイヤ)

MOExtended タイヤ(ランフラットタイヤ)装備車は、1 本または複数のタイヤが完全にパンクした状態でも走行を続けることができます。

MOExtended タイヤは、作動しているタイヤ空気圧減少警告システムまたは作動しているタイヤ空気圧モニター、およびメルセデス・ベンツにより特別にテストされたホイールとの組み合わせでのみ使用することができます。

パンクした MOExtended タイヤで走行する時の注意事項 (▷ 228 ページ)

ℹ MOExtended タイヤ装備車には、タイヤフィットを標準装備していません。

ウィンタータイヤなど、ランフラットタイヤ以外のタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で装備することをお勧めします。 タイヤフィットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧基準値

⚠ **警告**

タイヤ空気圧が不足または過剰な場合、以下の危険があります。

- 荷重が大きく車両速度が高い場合は特に、タイヤが破裂するおそれがあります。
- タイヤが過度に、また不均一に摩耗し、それによってタイヤの駆動力が損なわれるおそれがあります。
- ステアリング操作やブレーキ操作などの車両操縦性が大幅に損なわれるおそれがあります。

事故の危険性があります。

指定のタイヤ空気圧を遵守し、以下の場合はスペアタイヤを含むすべてのタイヤの空気圧を点検してください。

- 少なくとも 2 週間に 1 回
- 荷重が変化した時
- 長距離走行を開始する前
- オフロード走行など、使用条件が変わった時

必要に応じて、適正なタイヤ空気圧に調整してください。

⚠ **警告**

適切でないアクセサリーをバルブに取り付けると、バルブに過負荷がかかって誤作動し、タイヤ空気圧が不足する原因となります。設計上、タイヤ空気圧モニターシステムを後装着すると、バルブが開いたままになり、タイヤ空気圧が不足するおそれもあります。事故発生の危険性があります。

標準仕様のバルブキャップまたはメルセデス・ベンツ純正の車両専用バルブキャップのみをバルブに取り付けてください。

⚠ **警告**

タイヤ空気圧が何度も低下する場合は、ホイール、バルブまたはタイヤが損傷している可能性があります。タイヤ空気圧が不十分であると、タイヤが破裂するおそれがあります。事故発生の危険性があります。

- タイヤに異物がないか点検します。
- ホイールやバルブからの空気漏れがないか点検します。

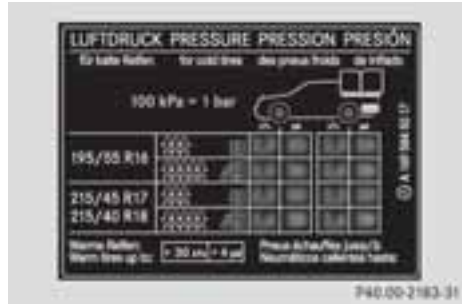
損傷を修理できない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

環境保護に関する注意

少なくとも 2 週間に 1 度、タイヤ空気圧の点検を行なってください。

燃料給油口裏側には、走行状況に応じた空気圧が記載されたタイヤ空気圧ラベルが貼られています。

燃料給油口の裏側の表には、さまざまな積載状態でのタイヤ空気圧が記載されていることがあります。 これらは、さまざまな乗員数および積載量として表に定義されています。 実際の座席数は異なる場合があります。詳しくは、車両の登録書類を参照してください。

タイヤサイズの指定がない場合、タイヤ空気圧ラベルに記載されているタイヤ空気圧は車両に承認されているすべてのタイヤに適用されます。

タイヤのサイズに応じて空気圧を調整する場合は、以下の空気圧に関する情報は、そのタイヤサイズのみに有効となります。

タイヤ空気圧を点検するには、適切な空気圧ゲージを使用してください。 タイヤの外観を点検しても空気圧を正しく判断することはできません。

タイヤ空気圧の調整は、できるだけタイヤが冷えているときに行なってください。

以下のときは、タイヤの温度が低い状態です。

- 車両に直射日光が当たらない状態で最低約 3 時間駐車した場合、および
- 車両が約 1.6 km 以上走行しなかった場合

周辺温度、走行している速度およびタイヤへの荷重に応じて、タイヤ温度およびタイヤ空気圧は 10 ℃ ごとに、約 10 kPa（0.1 bar/1.5 psi）変化します。 温まっているタイヤの空気圧を点検するときは、このことを考慮に入れてください。 そのときの使用条件に対して非常に低いときのみ、タイヤ空気圧を修正してください。

空気圧が適正でないタイヤで走行すると、以下のような状態になります。

- タイヤの寿命が短くなります。
- タイヤが損傷を受けやすくなります。
- 車両操縦性や走行安全性に悪影響をおよぼします（ハイドロプレーニング現象など）。

ℹ 低負荷時の空気圧は、快適な乗り心地を得るために必要な空気圧の下限値を示しています。

ただし、高負荷時の空気圧に調整することもできます。 これらは空気圧許容値であり、車両の走行安全性に悪影響を与えることはありません。

タイヤ空気圧警告システム

重要な安全上の注意

タイヤ空気圧警告システムは、走行中に 4 輪すべてのホイール回転速度を感知することによりタイヤ空気圧をモニターします。システムは、タイヤ空気圧の著しい低下を感知することができます。タイヤ空気圧の低下にともないホイールの回転速度が変化すると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージを表示します。

タイヤ空気圧警告システムは、適切でないタイヤ空気圧の設定には警告は行ないません。推奨タイヤ空気圧に関する注意を遵守してください (▷ 248 ページ)。

タイヤ空気圧警告は、タイヤ空気圧点検を定期的に行うものではありません。タイヤ空気圧警告システムは、複数のタイヤから同量の空気が漏れた場合などは検知できません。

タイヤ空気圧モニターは、タイヤに異物が刺さった場合など急激に空気圧が低下した場合は、警告を行なうことができません。空気圧が突然低下した場合、ブレーキを慎重にかけて車両を停止します。急激なステアリング操作をしないようにしてください。

タイヤ空気圧警告システムは、以下の状況では正常に作動しなくなったり、反応が遅れることがあります。

- スノーチェーンを装着しているとき
- 積雪路や凍結路を走行しているとき
- 砂地や砂利道を走行しているとき
- スポーティ走行時（高速コーナリング、急加速など）
- 重量のある荷物を積んで走行しているとき

タイヤ空気圧警告システムを再起動する

以下のような作業を行ったときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

- タイヤ空気圧を調整したとき
- タイヤやホイールを交換したとき
- 新しいタイヤやホイールを装着したとき

▶ 再始動する前に、タイヤ空気圧が作動状況に対応して、4 本のタイヤすべてで適正に設定されていることを確認してください。指定タイヤ空気圧は燃料給油口のラベルに記載されています。

タイヤ空気圧警告システムは、適切なタイヤ空気圧に設定したときのみ信頼性のある警告を行なうことができます。適切でないタイヤ空気圧に設定されている場合は、これらの適切でない値がモニターされます。

▶ タイヤ空気圧に関する注意事項を遵守してください (▷ 248 ページ)。

▶ イグニッション位置を **2** にします (▷ 120 ページ)。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、メンテナンス メニューを選択します。

▶ [▲] または [▼] スイッチを押して タイヤ空気圧 を選択します。

▶ [OK] スイッチを押します。
マルチファンクションディスプレイに タイヤ空気圧 警告システム オン OK ボタンで再始動 というメッセージが表示されます。

再起動を確定するには、以下の操作を行なってください。

▶ [OK] スイッチを押す。
マルチファンクションディスプレイに タイヤ空気圧 正常ですか? というメッセージが表示されます。

▶ [▲] または [▼] スイッチを押して、はい を選択します。

▶ [OK] スイッチを押す。
マルチファンクションディスプレイに タイヤ空気圧警告システム再始動しました というメッセージが表示されます。
測定プロセスが終了すると、タイヤ空気圧警告システムが 4 輪すべてのタイヤ空気圧のモニターします。

再起動をキャンセルするには、以下の操作を行なってください。

▶ [↩] スイッチを押す。

または

▶ タイヤ空気圧 正常ですか? というメッセージが表示される場合は、[▲] または [▼] スイッチを押して、キャンセルを選択します。

▶ [OK] スイッチを押す。
前回の再起動時に保存されたタイヤ空気圧の値が引き続きモニターされます。

タイヤの交換

タイヤのパンク

パンクのときの手順の情報 (▷ 228 ページ)。 パンクしたときの MOExtended タイヤでの走行に関する情報もあります。

タイヤローテーション

⚠ **警告**

ホイールまたはタイヤのサイズが異なる場合に、フロントとリアの車輪を入れ替えると、走行特性が著しく損なわれることがあります。車輪のブレーキまたはサスペンションの部品も損傷することがあります。 事故の危険性があります。

ホイールとタイヤが同じサイズの場合にのみ、フロントとリアの車輪を入れ替えてください。

異なるサイズのフロントおよびリアのホイールを入れ替えると、一般使用許可が無効になることがあります。

車輪を交換するときは指示や安全上の注意に常に注意を払ってください (▷ 252 ページ)。

タイヤは、走行状況によって前輪および後輪で摩耗具合に差が生じ、偏摩耗を起こします。 これを防止するため、タイヤが摩耗し始めたら早めにタイヤローテーションをしてください。 一般的に、前輪はショルダー部の摩耗が起こりやすく、後輪ではセンター部の摩耗が起こりやすい傾向があります。

フロントおよびリアの車輪が同じサイズの車両は、タイヤの摩耗具合に応じて約 5,000 km ～ 10,000 km 毎に車輪を入れ替えることができます。 タイヤの回転方向は維持してください。

タイヤを入れ替えるときは、ホイールの接触面およびブレーキディスクを十分に清掃してください。 必要であれば空気圧

を点検し、タイヤ空気圧警告システムを再起動します。

タイヤの回転方向

タイヤの回転方向が指定されているタイヤは、例えばハイドロプレーニング現象のおそれがある状況などで補助的な効果を発揮します。 回転方向が指定されているタイヤは、指定された回転方向になるように装着することで性能を十分発揮できます。

タイヤのサイドウォールにある矢印は、正しい回転方向を示しています。

タイヤの保管

タイヤは、乾燥した冷暗所に保管してください。また、 タイヤにオイルやグリース、ガソリン、軽油などが付着しないように保護してください。

ホイールの清掃

⚠ 警告

円形ジェットノズル（粉塵グラインダー）の水流は、タイヤまたはシャーシの部品に外見からは目に見えない損傷を引き起こすおそれがあります。このようにして損傷した部品は予期せず故障するおそれがあります。事故の危険性があります。

車両の清掃をするときに円形ジェットノズル付きの高圧式スプレーガンを使用してしないでください。損傷したタイヤまたはシャーシの部品はすぐに交換してください。

タイヤの取り付け

車両の準備

▶ かたく、滑らない水平な地面に車両を停車します。

▶ 車両の荷物を降ろします。 ジャッキは、車両に荷物がない状態でのみ使用できます。

▶ パーキングブレーキを手動で作動させてください。

▶ ステアリングを操作して、前輪を直進位置にします。

▶ トランスミッションをポジション P にシフトします。

▶ エンジンを停止します。

▶ **キーレスゴー非装備車：** エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ **キーレスゴー装備車：** 運転席ドアを開きます。
マルチファンクションディスプレイには、キーを抜いたときと同様に、0 が表示されています。

▶ **キーレスゴー装備車両：** エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します (▷ 120 ページ)。

▶ 車両装備に含まれている場合は、車両からタイヤ交換工具キットを取り出します。

▶ 作業中に車が動き出すのを防ぐため、車を固定します。

ⓘ 国による仕様の違いとは別に、車両にはタイヤ交換工具キットは装備されていません。 車両の車輪交換を行なうために必要な工具について詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

必要な車輪交換用工具としては、例えば以下が含まれることがあります。

- ジャッキ
- 輪止め
- ホイールレンチ

車両が動き出さないように固定する

車両に輪止めが装備されている場合は、タイヤ交換工具キットの中にあります。(▷ 227 ページ)

折りたたみ式の輪止めは、タイヤ交換時などに車が動き出すのを防止するための補助的な固定手段です。

▶ 両側のプレートを上方に起こします ①。

▶ 下側のプレートを引き出します ②。

▶ 下側のプレートの凸部をベースプレートの開口部に差し込みます③。

水平な場所で車両に輪止めをする

▶ **水平な場所：** 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、輪止めまたは適切な物を挟みます。

緩い下り坂で車両に輪止めをする

▶ **緩い下り坂：** 前輪と後輪の前方に輪止めまたは適切な物を挟みます。

ジャッキアップ

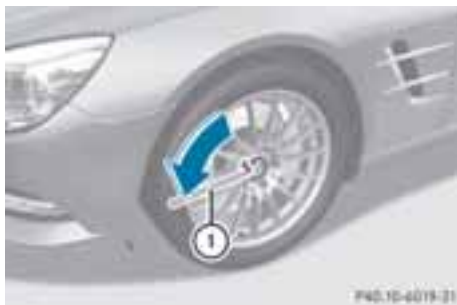
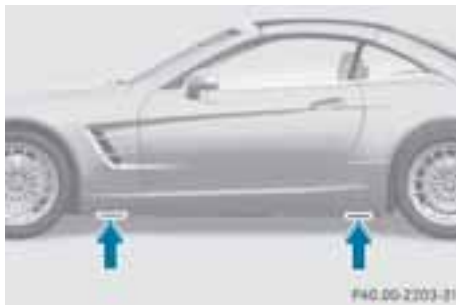
⚠ **警告**

車両の適切なジャッキポイントに正しくジャッキを設置しないと、車両をジャッキアップした時にジャッキが倒れるおそれがあります。 負傷するおそれがあります。

必ず車両の適切なジャッキポイントにジャッキを設置してください。ジャッキの底面は車両のジャッキポイントの真下に来るように設置してください。

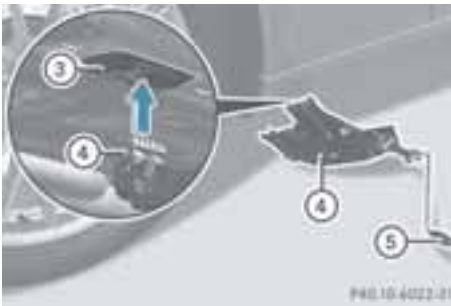
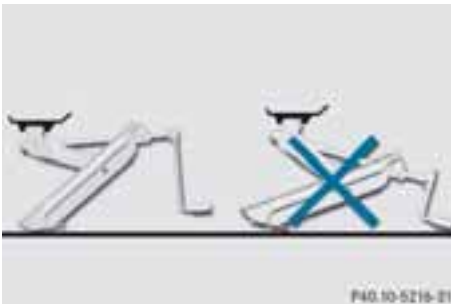
車両を上げるときは、以下を遵守しなければなりません。

- 車両をジャッキアップするときは、メルセデス・ベンツ純正の車両専用ジャッキを必ず使用してください。ジャッキを正しく使用しないと、車両をジャッキアップしている間に倒れることがあります。
- ジャッキは、この車のタイヤ交換で一時的に車両をジャッキアップするためだけに設計されています。 車両の下回りのメンテナンス作業を行なう目的には適していません。

- 上り坂や下り坂でのタイヤ交換は行なわないでください。
- 車両をジャッキアップする前にパーキングブレーキをかけて輪止めをし、車両が動き出さないように固定してください。 車両をジャッキアップしている間は絶対にパーキングブレーキを解除しないでください。
- ジャッキは、固く平らで滑らない地面の上に設置してください。 柔らかい地面の上では、大型の耐荷重マットを使用してください。 滑りやすい地面の上では、ラバーマットなどの滑り止めマットを敷いてください。
- ジャッキの下に木片などを置いてジャッキアップしないでください。 ジャッキの高さ制限による耐荷重性能を得られない可能性があります。
- タイヤの下面と地面とのあいだの距離が 3 cm を超えていないことを確認してください。
- ジャッキアップした車両の下には絶対に手または足を入れないでください。
- ジャッキアップした車両の下には絶対に横たわらないでください。
- ジャッキアップした状態では絶対にエンジンを始動しないでください。
- ジャッキアップした状態では絶対にドアやトランクリッドを開閉しないでください。
- ジャッキアップした状態で車両に人が乗っていないことを確認してください。

▶ ホイールレンチ ① を使用して、交換するタイヤのホイールボルトを約 1 回転緩めます。 この時点では、ホイールボルトを完全に緩めません。

ジャッキポイントは、前輪のすぐ後ろと、後輪のすぐ前にあります(矢印)。

フロント側のカバー(例：AMG スポーツパッケージ装備車)

AMG 車および AMG スポーツパッケージ装備車：車体を保護するため、サイドスカートに設けられたジャッキポイントにカバーが付いています。

▶ **AMG 車および AMG スポーツパッケージ装備車：**カバー②を上方に引き上げます。

▶ ジャッキ④をジャッキポイント③の位置に合わせます。

例

▶ ジャッキの底面がジャッキポイントの真下にくるように設置してください。

▶ ジャッキハンドル ⑤ を時計回りにまわして、ジャッキ④がジャッキポイント③に確実にはまり、ジャッキの底面が地面に水平に接地していることを確認します。

▶ ジャッキハンドル ⑤ をまわし、タイヤが地面から約 3 cm 離れるまでジャッキアップします。

タイヤの取り外し

! **AMG 車：**ホイールの取り外しや取り付けの際に、ホイールリムがセラミック製ブレーキディスクに当たると、ブレーキディスクが損傷するおそれがあり、必ず大人 2 人で注意して作業を行ってください。必要に応じて、ガイドボルトを 2 本使用してください。

! 砂などの異物が付着しないように注意してください。ホイールボルトをねじ込む時に、ボルトやハブのネジ山が損傷するおそれがあります。

▶ 上側のホイールボルトを 1 本外します。

▶ ホイールボルトのかわりにネジ山にガイドボルト ① をねじ込みます。

▶ 残りのホイールボルトを完全に外します。

▶ タイヤを取り外します。

新しいタイヤの取り付け

⚠ **警告**

オイルやグリースが付着したホイールボルトまたは損傷したホイールボルト/ハブのネジ山は、ホイールボルトが緩む原因になります。その結果として、走行中にホイールが緩むおそれがあります。事故発生の危険性があります。

ホイールボルトには、絶対にオイルやグリースを塗布しないでください。ネジ山が損傷している場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷したホイールボルトまたはハブのネジ山を切り直してください。 それ以上は走行を続けないでください。

⚠ **警告**

車両をジャッキアップしている時にホイールボルトまたはホイールナットを締め付けると、ジャッキが倒れることがあります。負傷の危険性があります。

車両が接地している場合にのみ、ホイールボルトまたはホイールナットを締め付けてください。

"車輪交換" (▷ 251 ページ) にある指示や安全上の注意に常に注意を払ってください。

ホイールボルトは、必ずホイールと車両に適合した製品を使用してください。 安全のため、ホイールボルトは純正品または承認されている製品を使用することをお勧めします。

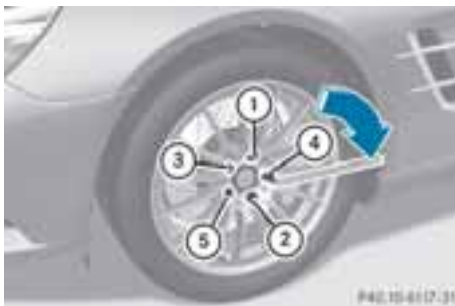
! **AMG 車：**ホイールの取り外しや取り付けの際に、ホイールリムがセラミック製ブレーキディスクに当たると、ブレーキディスクが損傷するおそれがあり、必ず大人 2 人で注意して作業を行ってください。必要に応じて、ガイドボルトを 2 本使用してください。

- ホイールおよびハブの接合面の汚れを拭き取ります。
- 装着するホイールをガイドボルトにスライドさせて押し込みます。
- 4 本のホイールボルトを取り付けて、手で締めます。
- ガイドボルトを取り外します。
- 最後のホイールボルトを取り付けて、手で締めます。
- **コラプシブル応急用スペアタイヤ装備車両：** コラプシブル応急用スペアタイヤを充填します。 (▷ 262 ページ) その後でのみ、車両を下げてください。

ジャッキダウン

⚠ **警告**

ホイールナットやボルトが規定の締め付けトルクで締め付けられていないと、ホイールが緩むおそれがあります。 事故発生の危険性があります。

タイヤを交換した後で、直ちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で、締め付けトルクの点検を受けてください。

- ジャッキハンドルを反時計回りにまわし、車体を下げて再び接地させます。
- ジャッキを外し、横に置きます。
- 示されている順番（① ～ ⑤）で対角パターンで、ホイールボルトを均一に締めます。 締め付けトルクは **130 Nm** でなければなりません。
- ジャッキをまわして元の状態に戻します。
- ジャッキとその他の車載ツールをトランクに再び収納します。

▶ **AMG 車および AMG スポーツパッケージ装備車：** サイドスカートにカバーを差し込みます。

▶ 新しく取り付けたタイヤの空気圧を点検し、点検結果に応じて調整します。

推奨タイヤ空気圧を遵守してください (▷ 248 ページ)。

ホイールとタイヤの組み合わせ

全体的な注意事項

! 安全に走行するため、タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。

それらのタイヤは、ABS や ESP® などのコントロールシステムに適応しており、以下のマークが付いています。

- MO = Mercedes-Benz Original
- MOE = Mercedes-Benz Original Extended(ランフラットタイヤ)
- MO1 = Mercedes-Benz Original(特定の AMG タイヤ)

ランフラットタイヤ(MOExtended)は、純正品および承認されたホイールだけに装着できます。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイール、アクセサリーを使用しないでください。車両操縦性や騒音、排出ガス、燃料消費などに悪影響を与えるおそれがあります。また、乗車人数や荷物が増えた場合などには、タイヤやホイールが車体やサスペンションに接触するおそれがあり、タイヤや車両の損傷につながるおそれがあります。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイール、アクセサリーを装着した場合は、損傷が生じても保証の対象外になります。

タイヤやホイール、指定された組み合わせなどに関して、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

! 再生タイヤは、元の損傷状態を確認することが難しいため、使用をお勧めできません。 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできなくなります。 中古タイヤは、過去の使用状況が確認できない場合は装着しないでください。

! 大径ホイール：特定のホイールサイズの断面幅が減少すると、悪路での乗り心地が低下します。 走行快適性および安定性が低下し、さらに路面の障害物を乗り越えることが増加するので、ホイールやタイヤへの損傷リスクが高くなります。

下記のタイヤ一覧表にある略号

- BA：前後の車輪
- FA：前輪
- RA：後輪

さまざまな使用条件での推奨タイヤ空気圧の表は、車両の燃料給油フラップの内側にあります。 タイヤ空気圧に関してのさらなる情報は (▷ 248 ページ)をご覧ください。 定期的に、かつタイヤが冷えているときのみにタイヤ空気圧を点検してください。

タイヤとホイールは、以下の点を確認して正しく装着してください。

- 左右には必ず同サイズのタイヤを装着してください。
- サマータイヤ、ウィンタータイヤ、ランフラットタイヤ（MOExtended）など、異なる種類のタイヤを同時に装着しないでください。

MOExtended タイヤ装備車には、タイヤフィットを標準装備していません。 ウィンタータイヤなど、ランフラットタイヤ以外のタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で装備することをお勧めします。 タイヤフィットはメルセデ

ス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

ℹ 一部のホイール / タイヤの組合せは、国によっては工場で取り付けられない場合があります。

タイヤ

SL 350

サマータイヤ

R17

タイヤ	軽量アルミホイール
BA：255/45 R17 98 Y	BA：8.0 J x 17 H2 ET 30

R18

タイヤ	軽量アルミホイール
BA：255/40 R18 95 Y	BA：8.5 J x 18 H2 ET 35.5
BA：255/40 R18 95 Y MOExtended[1]	BA：8.5 J x 18 H2 ET 35.5
FA：255/40 R18 95 Y RA：285/35 R18 97 Y[2]	FA：8.5 J x 18 H2 ET 35.5 RA: 9.5 J x 18 H2 ET 47.5
FA：255/40 R18 95 Y MOExtended[1] RA： 285/35 R18 97 Y MOExtended[1, 2]	FA：8.5 J x 18 H2 ET 35.5 RA: 9.5 J x 18 H2 ET 47.5

R19

タイヤ	軽量アルミホイール
FA：255/35 R19 96 Y XL[3] RA：285/30 R19 98 Y XL[2, 3]	FA：8.5 J x 19 H2 ET 35.5 RA：9.5 J x 19 H2 ET 47.5
FA：255/35 R19 96 Y XL MOExtended[1, 3] RA：285/30 R19 98 Y XL MOExtended[1, 2, 3]	FA：8.5 J x 19 H2 ET 35.5 RA：9.5 J x 19 H2 ET 47.5
FA：255/35 R19 96 Y XL[3] RA：285/30 R19 98 Y XL[2, 3]	FA：8.5 J x 19 H2 ET 35.5 RA：9.5 J x 19 H2 ET 48
FA：255/35 R19 96 Y XL MOExtended[1, 3] RA：285/30 R19 98 Y XL MOExtended[1, 2, 3]	FA：8.5 J x 19 H2 ET 35.5 RA：9.5 J x 19 H2 ET 48

1 MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）は必ずタイヤ空気圧警告システムを作動させて使用します。
2 スノーチェーンは装着できません。"スノーチェーン"の注意事項を遵守してください。
3 "ホイール / タイヤの組合せ"セクションの"大型ホイール"の注を参照。

ウィンタータイヤ
R17

タイヤ	軽量アルミホイール
BA：255/45 R17 98 V M+S	BA：8.0 J x 17 H2 ET 30

R18

タイヤ	軽量アルミホイール
BA：255/40 R18 99 V XL M+S	BA：8.5 J x 18 H2 ET 35.5
BA：255/40 R18 99 V XL M+S MOExtended[1]	BA：8.5 J x 18 H2 ET 35.5

SL 550

サマータイヤ
R18

タイヤ	軽量アルミホイール
FA：255/40 R18 95 Y FA：285/35 R18 97 Y[2]	FA：8.5 J x 18 H2 ET 35.5 RA: 9.5 J x 18 H2 ET 47.5
FA：255/40 R18 95 Y MOExtended[1] RA： 285/35 R18 97 Y MOExtended[1, 2]	FA：8.5 J x 18 H2 ET 35.5 RA: 9.5 J x 18 H2 ET 47.5

R19

タイヤ	軽量アルミホイール
FA：255/35 R19 96 Y XL[3] RA：285/30 R19 98 Y XL[2, 3]	FA：8.5 J x 19 H2 ET 35.5 RA：9.5 J x 19 H2 ET 47.5
FA：255/35 R19 96 Y XL MOExtended[1, 3] RA：285/30 R19 98 Y XL MOExtended[1, 2, 3]	FA：8.5 J x 19 H2 ET 35.5 RA：9.5 J x 19 H2 ET 47.5

1　MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）は必ずタイヤ空気圧警告システムを作動させて使用します。
2　スノーチェーンは装着できません。"スノーチェーン"の注意事項を遵守してください。
3　"ホイール / タイヤの組合せ"セクションの"大型ホイール"の注を参照。

タイヤ	軽量アルミホイール
FA：255/35 R19 96 Y XL[3] RA：285/30 R19 98 Y XL[2, 3]	FA：8.5 J x 19 H2 ET 35.5 RA：9.5 J x 19 H2 ET 48
FA：255/35 R19 96 Y XL MOExtended[1, 3] RA：285/30 R19 98 Y XL MOExtended[1, 2, 3]	FA：8.5 J x 19 H2 ET 35.5 RA：9.5 J x 19 H2 ET 48

ウィンタータイヤ
R18

タイヤ	軽量アルミホイール
BA： 255/40 R18 99 V XL M+S	BA：8.5 J x 18 H2 ET 35.5
BA：255/40 R18 99 V XL M+S MOExtended[1]	BA：8.5 J x 18 H2 ET 35.5

AMG 車

サマータイヤ
R19/R20

タイヤ	軽量アルミホイール
FA: 255/35 ZR 19 (96 Y) XL[3] RA: 285/30 ZR 19 (98 Y) XL[3]	FA：9.0 J x 19 H2 ET 27 RA： 10.0 J x 19 H2 ET 48
FA: 255/35 ZR 19 (96 Y) XL[3] RA: 285/30 ZR 20 (99 Y) XL[2, 3]	FA：9.0 J x 19 H2 ET 27 RA： 10.0 J x 20 H2 ET 48

ウィンタータイヤ
R19

タイヤ	軽量アルミホイール
FA：255/35 R19 96 V XL M+S [3] RA：285/30 R19 98 V XL M+S [3]	FA：9.0 J x 19 H2 ET 27 RA： 10.0 J x 19 H2 ET 48

3 "ホイール / タイヤの組合せ"セクションの"大型ホイール"の注を参照。
2 スノーチェーンは装着できません。"スノーチェーン"の注意事項を遵守してください。
1 MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）は必ずタイヤ空気圧警告システムを作動させて使用します。

応急用スペアタイヤ

重要な安全上の注意

⚠ 警告

スペアタイヤまたは応急用スペアタイヤと、交換した車輪のホイールまたはタイヤのサイズやタイヤの種類は異なることがあります。スペアタイヤ/応急用スペアタイヤを装着すると、走行特性が著しく損なわれることがあります。事故の危険性があります。

危険な状態を避けるために

- 適宜運転スタイルを合わせ、慎重に運転してください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤを 1 つ以上装着しないでください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤは一時的にのみ使用してください
- ESP® をオフにしないでください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤは最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。ホイールとタイヤのサイズがタイヤの種類とともに正しいことに注意してください。

サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤを使用するときは、最高速度 80 km/h を超えてはいけません。

スノーチェーンは応急用スペアタイヤには装着しないでください。

全体的な注意事項

特に長距離走行の前には、応急用スペアタイヤを含めて、すべてのタイヤの空気圧を定期的に点検し、必要に応じて空気圧を修正してください(▷ 248 ページ)。

適用される値は車輪または "サービスデータ" (▷ 264 ページ) にあります。

ただし、応急用スペアタイヤは回転方向とは逆に装着することができます。 応急用スペアタイヤに記載されている使用制限時間と制限速度を守って正しく使用してください。

摩耗の程度に関わらず、6 年以上経過したタイヤは新品と交換してください。 これは応急用スペアタイヤにも該当します。

ℹ 応急用スペアタイヤを装着して走行する場合は、タイヤ空気圧警告システムは確実に機能しないことがあります。 不具合のある車輪を新しい車輪に交換したときのみ、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

応急用スペアタイヤの取り外し

▶ トランクを開きます。

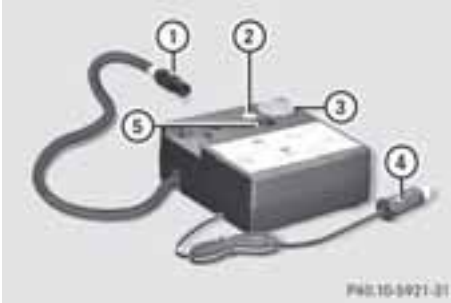
▶ ラゲッジカバーを開きます。 (▷ 92 ページ)

▶ バッグをコラプシブル応急用スペアタイヤ ① ごと取り出します。

タイヤ交換工具キットに関する情報は "車載品の収納場所" (▷ 227 ページ) をご覧ください。

コラプシブル応急用スペアタイヤの空気注入

! 車両をジャッキダウンする前に、電動エアポンプでコラプシブル応急用スペアタイヤに空気を入れないと、ホイールリムを損傷するおそれがあります。

! 電動エアポンプは、一度に約 8 分以上連続して作動させると、ポンプがオーバーヒートするおそれがあります。
電動エアポンプが冷えたら、再び作動させることができます。

- コラプシブル応急用スペアタイヤを記載されているように取り付けます。(▷ 252 ページ)
  コラプシブル応急用スペアタイヤは必ず空気を送り込む前に取り付けてください。
- 電源プラグ ④ とエアホースをハウジングから取り出します。
- コラプシブル応急用スペアタイヤのバルブキャップを取り外します。
- エアホースのユニオンナット ① を応急用スペアタイヤのバルブに取り付けます。
- 電動エアポンプの電源スイッチ ⑤ が **0** の位置になっていることを確認します。
- (▷ 210 ページ) プラグ ④ を車内のライター (▷ 210 ページ) のソケットまたは 12V 電源ソケットに差し込みます。
- エンジンスイッチを **1** の位置にまわします。(▷ 120 ページ)
- 電動エアポンプの電源スイッチ ⑤ を **I** の位置にします。
  電動エアポンプが作動し始めます。応急用スペアタイヤに空気が送り込まれます。タイヤ空気圧は、空気圧ゲージ ③ に表示されます。
- 指定空気圧になるまで、応急用スペアタイヤに空気を入れます。
  指定空気圧は、応急用スペアタイヤの黄色のラベルに記載されています。
- 指定空気圧に達したら、電動エアポンプの電源スイッチ ⑤ を **0** の位置にします。
  電動エアポンプが停止します。
- エンジンスイッチのキーを **0** の位置にします。
- 指定空気圧を超えたときは、空気圧調整バルブ ②を押して、適正な空気圧になるまで空気を抜きます。
- エアホースのコネクター ① をバルブから外します。
- コラプシブル応急用スペアタイヤのバルブキャップを元通りに取り付けます。
- 電源プラグ④およびエアホースをコンプレッサーハウジングの下部に収納します。
- 電動エアポンプを車内に収納します。

サービスデータ

全車種 (AMG 車以外)

コラプシブル応急用スペアタイヤ

タイヤ	軽量アルミホイール
175/55 - 18 95 P タイヤ空気圧：350 kPa（3.5 bar / 51 psi）	6.0 B x 18 H2 ET 25

AMG 車

コラプシブル応急用スペアタイヤ

タイヤ	軽量アルミホイール
175/50 - 19 97 P タイヤ空気圧：350 kPa（3.5 bar / 51 psi）	6.5 B x 19 H2 ET 14

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 27 ページ)

メルセデス・ベンツ純正部品

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

車両の電子制御部品

電子制御部品の不正改造

⚠ 警告

電子制御部品およびその関連部品に関わる整備作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、車両の走行安全性が損なわれるおそれがあります。

! コントロールユニット、センサー、コネクターケーブルなど、電子制御部品およびその関連部品に関わる点検整備や修理などの作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。 車両の構成部品が通常より早く摩耗したり、車両の使用許可が無効になることがあります。

無線機と携帯電話の改造（RF 送信機）

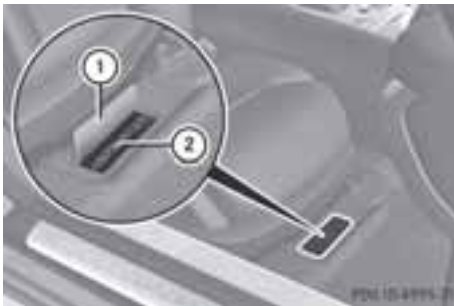
これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

ビークルプレート

ビークルプレートの車台番号

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- ビークルプレート
- VIN
- エンジン番号

VIN

▶ 助手席シートを最後方の位置に動かします。

▶ 助手席シート前方のフロアカーペット ① をめくり上げます。

車台番号が確認できます ②。

サービスプロダクトと容量

重要な安全上の注意

⚠ 警告

サービスプロダクトは健康に有害で危険です。 けがの危険性があります。

サービスプロダクトの使用、保管および廃棄については、それぞれ元の容器のラ

ベルの指示を遵守してください。 サービスプロダクトは必ず元の容器に密閉して保管してください。 サービスプロダクトは必ず子供の手の届かないところに保管してください。

環境

燃料および油脂は、環境汚染を配慮して、廃棄処分してください。

サービスプロダクトには以下のものが含まれます。

- 燃料
- 潤滑剤(エンジンオイル、オートマチックトランスミッションオイルなど)
- 冷却水
- ブレーキ液
- ウォッシャー液
- エアコンディショナーの冷媒

サービスプロダクトの取り扱い、保管および廃棄については、法令を遵守して取り扱ってください。

構成部品およびサービスプロダクトは適合していなければなりません。Daimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社の指定品のみを使用してください。これらの製品は、本書の該当するセクションに記載されています。

Daimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社の指定するサービスプロダクトは、容器に以下のようなマークが付いています。

- MB-Freigabe(MB-Freigabe 229.51 など)
- MB Approval(MB Approval 229.51 など)

これ以外のマークや記載は、MB シート番号(MB 229.5 など)に準拠した品質レベルまたは仕様を示しています。これらは、メルセデス・ベンツによる承認は必要としません。

さらなる情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

燃料

重要な安全上の注意

⚠ 警告

燃料は可燃性の高いものです。 燃料を不適切に扱った場合は、火災および爆発の危険性があります。

火気、裸火、火花の発生および喫煙は避けてください。給油の前にはエンジン、当てはまる場合は補助ヒーターを停止します。

⚠ 警告

燃料は健康に有毒で危険です。けがの危険性があります。

燃料が肌、目または衣服と接触しておらず、飲み込まれていないことを確認しなければなりません。燃料の気体を吸い込まないでください。燃料は子供から離してください。

お客様または他の方が燃料に触れた場合は、以下に従ってください。

- 石鹸および水道水を使用して、ただちに肌から燃料を洗い流してください。
- 燃料が目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。ただちに医療補助を求めてください。
- 燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医療補助を求めてください。吐かせないでください。
- 燃料が付着した衣服はただちに替えてください。

燃料タンク容量

車両の装備に応じて、燃料タンクの全容量は変化することがあります。

車種	全容量
全車種（AMG 車以外）	約 65.0 L または 約 75.0 L
AMG 車	約 75.0 L

車種	予備タンク容量
全車種（AMG 車以外）	約 8.0 L または 約 9.0 L
AMG 車	約 14.0 L

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- ガソリン
- 燃料のグレード
- 燃料消費に関する情報

エンジンオイル

容量

以下の容量は、オイルフィルター分を含むオイル交換時の参考数値です。

未記載の数値は出版時に確認できなかったものです。

車種	交換時の容量
SL 350	6.5 L
SL 550	
SL 63 AMG	外部オイルクーラーなし：約 8.5 L 外部オイルクーラーあり：約 9.5 L
SL 65 AMG V12	外部オイルクーラーなし：約 10.0 L 外部オイルクーラーあり：約 11.0 L

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- エンジンオイルに関する注意事項
- 添加剤
- 粘度

ブレーキ液

⚠ 警告

ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。ブレーキ液の沸点を下げます。ブレーキ液の沸点が低すぎる場合、ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生します。 ブレーキ液が劣化しベーパーロックが起こると、ブレーキの性能が損なわれます。事故の危険性があります。

ブレーキ液は、定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

(▷ 266 ページ)ブレーキ液 を取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意を遵守してください。

ブレーキ液の交換時期は、整備手帳で確認してください。

承認されたブレーキ液に関する情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ℹ ブレーキ液はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で定期的に交換し、整備手帳をご確認ください。

冷却水

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

不凍液がエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火する可能性があります。 火災およびけがの危険性があります。

不凍液を充填する前にエンジンを冷やしてください。 不凍液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。エンジンを始動する前に、不凍液で汚れた構成部品を清掃してください。

❗ 冷却水は、必ず弊社指定の不凍液を混合したものを補給してください。エンジンを損傷するおそれがあります。

冷却水についての詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

❗ たとえ熱帯地域であっても、必ず適切な冷却水を使用してください。

不適切な冷却水を使用すると、エンジン冷却システムの腐食やオーバーヒートを防ぐことができなくなります。

(▷ 266 ページ)冷却水を取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意を遵守してください。

冷却水は水道水および防錆不凍液の混合液です。冷却水は、以下の効果を発揮します。

- 防錆保護
- 凍結防止
- 沸点の上昇

適正な濃度の防錆不凍液では、作動時の冷却水の沸点は約 130 ℃になります。

エンジン冷却システム内の防錆不凍液の濃度は、

- 約 50 ％以上にしてください。約-37 ℃までエンジン冷却システムが凍結するのを防ぎます。
- 55%(-45 ℃までの凍結防止)を超えないようにします。さもないと、熱が効果的に発散しません。

冷却水が不足している場合は、同量の水道水および防錆不凍液を補充してください。

冷却水は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場での定期整備時に点検が行なわれます。

ℹ 車両の納車時には、指定の防錆不凍液を適正な濃度で混合した冷却水がリザーブタンクに充填されています。

フロントウインドウウォッシャーおよびヘッドライトウォッシャー

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

ウインドウウォッシャー液の濃縮液は高い可燃性です。 熱いエンジン部品または排気システムに触れると、発火することがあります。火災およびけがの危険性があります。

ウインドウウォッシャー液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。

❗ 夏季用や冬季用など、ヘッドライトの樹脂製レンズに適したウォッシャー液のみを使用してください。不適切なウォッシャー液を使用すると、ヘッドライトの樹脂製レンズを損傷するおそれがあります。

! 蒸留水や脱イオン水をウォッシャー液リザーブタンクに入れないでください。レベルセンサーを損傷するおそれがあります。

! 夏季用および冬季用の純正ウォッシャー液を混合して使用します。純正品以外のウォッシャー液を使用すると、噴射ノズルが詰まるおそれがあります。

ウォッシャー液を取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意を遵守してください(▷ 266 ページ)。

気温が氷点より高いとき

▶ 夏季用のウォッシャー液および水道水を混合して、ウォッシャー液リザーブタンクに補充します。

▶ 夏季用のウォッシャー液および水道水を 1：100 の割合で混合します。

気温が氷点下のとき

▶ 冬季用のウォッシャー液および水道水を混合して、ウォッシャー液リザーブタンクに補充します。

外気温度に応じて混合率を調整してください。

- 約 -10 ℃に下がったとき：水道水の量 2 に対して冬季用ウォッシャー液の量 1 を混合します。
- 約 -20 ℃に下がったとき：水道水の量 1 に対して冬季用ウォッシャー液の量 1 を混合します。
- 約 -29 ℃に下がったとき：水道水の量 1 に対して冬季用ウォッシャー液の量 2 を混合します。

i 1 年を通して、夏季用あるいは冬季用のウォッシャー濃縮液を水道水で薄めたウォッシャー液を使用してください。

車両データ

全体的な注意事項

記載の車両データについては、以下の点にご注意ください。

- 記載の車高は、以下の条件に応じて異なります。
  - タイヤ
  - 積載条件
  - サスペンションの状態
  - オプション装備品

寸法および重量

車種	①開いたときの高さ
全車種 (AMG 車以外)	約 1923 mm ～ 1925 mm

車種	①開いたときの高さ
AMG 車	約 1931 mm ～ 1945 mm

車種	トランクの制限重量
全車種	約 100 kg

電池

全車種	
バッテリー電圧	12 V
バッテリー容量	95 Ah

24 GHz レーダーセンサーシステム

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

発行物の詳細

インターネット

メルセデス・ベンツ車や Daimler AG についての詳細情報については、以下のウェブサイトに記載されています。

http://www.mercedes-benz.co.jp

編集オフィス

編集終了 12.04.2012